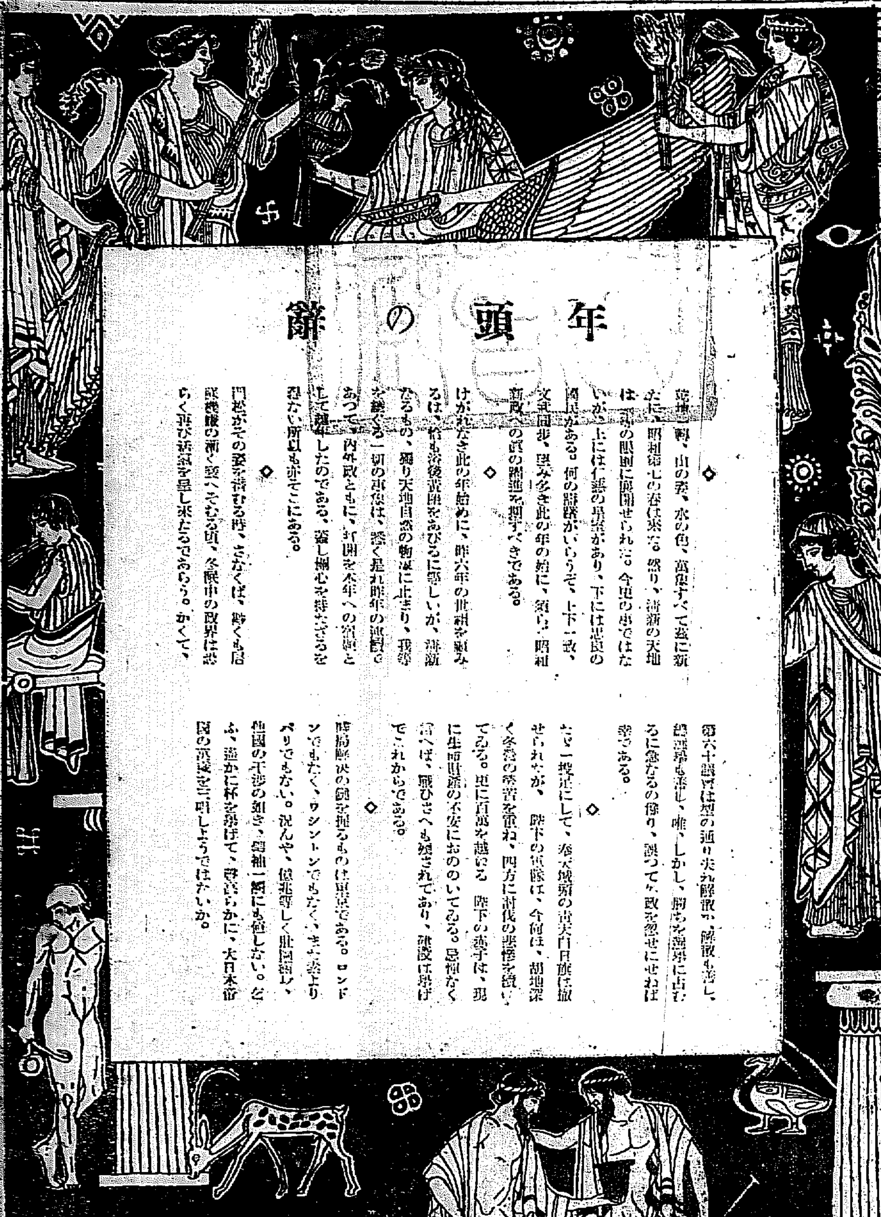
京城日報 其一 本日二十頁



年頭の辭

天地一轉、山の姿、水の色、萬象すべて茲に新たに、昭和第七の春は來る。然り、清新の天地は、一轉の眼前に展開せられた。今更の事ではないが、上には仁慈の明君があり、下には忠良の國民がある。何の躊躇がいらうぞ、上下一致、文武同步、望み多き此の年の始に、須らく昭和新政への眞の躍進を期すべきである。

◇

けがれなき此の年始めに、昨六年の世相を顧みるは、恰も沐浴後黄塵をあびるに等しいが、清新なるもの、獨り天地自然の物象に止まり、我等を繞ぐる一切の事象は、悉く是れ昨年の延長であつて、内外政ともに、打開を本年への宿題として越年したのである。蓋し關心を持たざるを得ない所以も亦ここにある。

◇

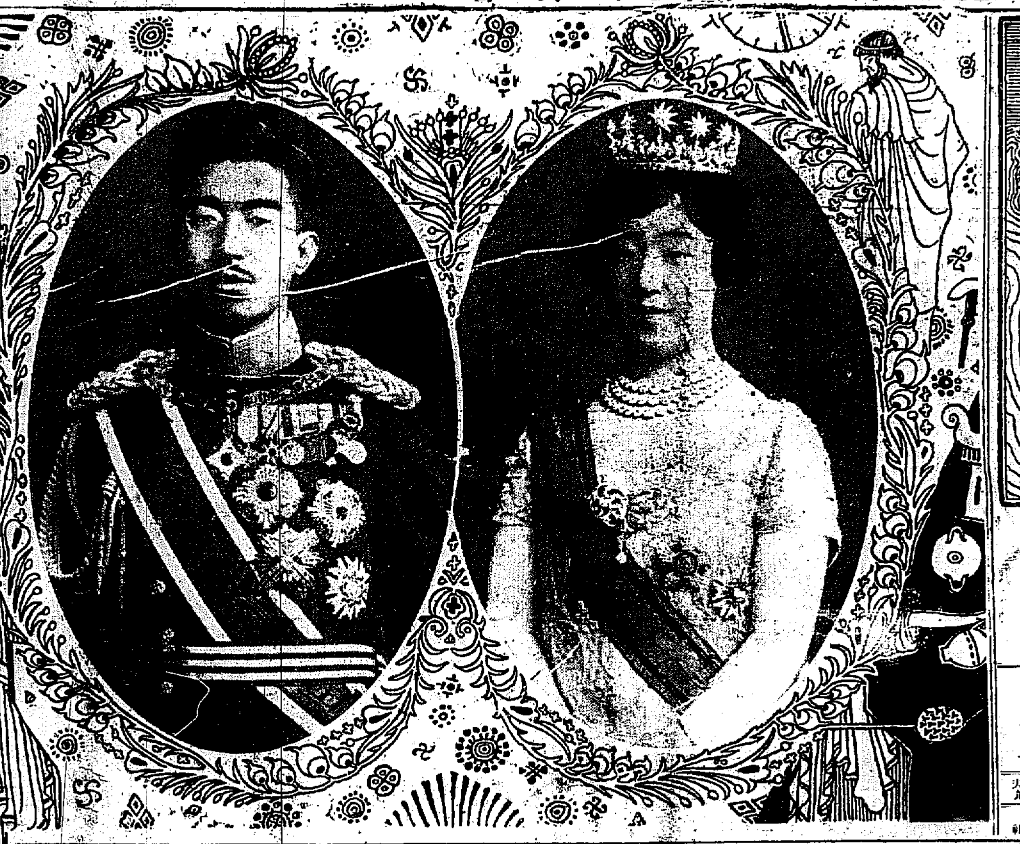
國會がその姿を消むる時、さなくば、漸く居眠機嫌の漸く頸へそむる頃、冬眠中の政界は恐らく再び活氣を呈し來たるであらう。かくて、第六十議會は想の通り失禮解散で、解散も亦し、總選擧も亦し、唯、しかし、將た又選擧に出でたるに急なるの餘り、誤つて政事を忽せにせねば幸である。

◇

たゞ一視同仁にして、奉天城頭の青天白日旗は撤せられたが、陛下の將卒は、今尚ほ、胡地深く冬營の辛苦を重ね、四方に討伐の悲惨を繞いてゐる。更に百萬を越ゆる 陛下の赤子は、現に生命財産の不安におののいてゐる。忌憚なく言へば、戰ひさへも殘されてあり、建設は寧ろこれからである。

◇

時局解決の鍵を握るものは軍部である。ロンドンでもなく、ワシントンでもなく、また素よりパリでもない。況んや、債兆弱しく國弱り、他國の干渉の如き、鐚一錢にも値しない。乞ふ、遙かに杯を擧げて、聲高らかに、大日本帝國の萬歳を三唱しようではないか。



陽光輝かしく 明けて昭和七年 竹の園生の御榮え

彌增す眞に慶賀の極み

陽光輝やかしく明くれば茲に之れ昭和七年の新春、天皇陛下には御齡三十二、皇后陛下には[illegible]、皇太后陛下には御年四十九歳、また照宮さまには御七歳、澄宮殿下には[illegible]、秩父宮殿下には御三十一歳、同妃殿下には御二十四歳、高松宮殿下には御二十八歳、同妃殿下には御二十一歳、その他各宮様方には御機嫌麗はしく新春を迎へさせられ、竹の園生の御榮えに[illegible]眞に慶賀に堪へず謹んで拜する

滿洲事變には 御案じ申上ぐる程 御軫念の天皇陛下

[illegible]

出動將兵の辛苦を御憂念遊ばす三陛下

[illegible]

御救恤

御[illegible]を御差遣 御慰問と視察

[illegible]

民情御視察 大演習御統監

地方行幸は不況の際農村の窮狀を思召されて御取止め

本年は地方行幸あらん

[illegible]

婦德の鑑 皇后陛下御日常

順宮樣に御親ら御授乳

聖上陛下への御仕へ

[illegible]

澄宮殿下

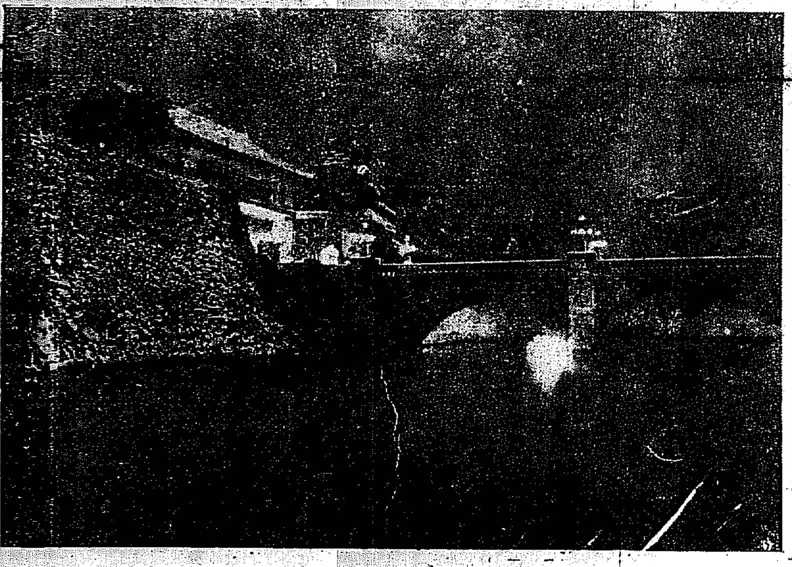
四月から士官學校へ御入學

[illegible]

感激奉る 癩根絕の思召

本年は更に出動將兵御慰問

[illegible]



朝日に輝く宮城二重橋

宮中御儀

四方拜の儀

引續き嚴かな歲旦祭

[illegible]

照宮さま 學習院へ

來る四月から

皇子御學問所御造營

[illegible]

御双翼の兩殿下

陸の秩父宮殿下 海の高松宮殿下

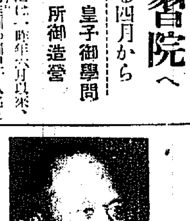
御德高く御精勵

[illegible]

拜賀式の儀

時の御膳の儀

[illegible]



昭和七年の春を迎へて

朝鮮總督 宇垣一成氏談

[illegible]

官民一般の躍進を促す

朝鮮總督府政務總監 今井田清德氏談

[illegible]

初の新春を迎へさせられた
順宮厚子内親王殿下（宮内省御貸下）

年頭の辭

内閣總理大臣　犬養毅

茲に昭和七年の新春を迎ふるに當り、謹んで 聖壽の萬歳を祝し奉り、併せて七千萬國民諸君に賀意を表すると同時に、此の機會において聊か所懐の一端を述ぶる事は誠に意義深き事と思ふ。

先づ第一に國民一致で禦侮せねばならぬ事は、日支係爭問題であつて、是れは此の機會において是非共解決しなければならぬ事である。

日本は

『何故に』ロシアと戰つたか。何故に同胞十萬の血を犠牲にし、廿億の巨資をなげうつて悔まなかつたか。之は全く東洋永遠の平和を確保し、延いては世界人類の康寧と文化に貢獻する所あらんとする崇高の使命に基いたことに他ならぬのである。幸ひに當時の政治家も日本の眞意を理解し幾多の條約は雙方の諒解の下に締結せられ、滿蒙諸案の地は日に月に開發せられて日露戰爭前には僅かに九百萬内外であつた同地方の人口は、四分の一世紀後の今日に於ては既に三千萬を突破するの盛況を呈するに至つた。是一に我が日本民族の努力の賜ものと言はなければならぬ。而かも日本は之に満足するものではない。更に益々邁進して人類化のために、滿蒙に及ぶ限りの努力心力を傾注し

『開發に』努力を續けつゝあるに拘らず、近年支那政治家は彼等の先輩と日本の眞意を解せず、盛んに大衆を煽動して排日運動を行ひ、條約をすら無視し或は破棄せんと企つるに至つた。斯の如き彼等の態度は、世界人類に對する悖德であり、殊に我日本民族に取りては正に生命に對する脅威である。故に昭和三年五月、時の政府田中内閣は滿蒙の治安に關して聲明書を發し、同地方の治安を紊し若くは之を紊すの原因をなすが如き事態の發生は帝國政府の極力阻止せんとする旨を力說して之を支那政府に交付した。然るに從來顧慮せず、遂に今回の事變の勃發を餘儀なくせしむるに至つたのは遺憾千萬である。若し此の機會に於て日支係爭問題の一切を解決せざるに於ては東亞の地は永久に不安に曝され、我民族は遂に大陸より退却するの餘儀なきに至るかも知れぬ。是れは斷じて忍び得べき事ではない。我等は如何なる困難を

『運命に』も突破し、斷々乎として一路根本解決に向つて進む覺悟を持たねばならぬ。

次に經濟問題に就ても我々には既に與黨の政務調査會に於て決定した所もあつて、大體の對策方針は立つて居るが、當面の問題に就ては、所管當局に於て研究し、皆々實行に誤りなきを期してゐる次第である。

終りに臨み、國民諸君が年の新たなると共に更に心を新たにし國家のため盡瘁せられんことを切望して止まぬ次第である。

更生の拓務省
直面せる問題
先づ滿洲問題の解決

拓務大臣　秦豊助

昭和七年の新春を迎ふるに臨し一言所懐を述べて年頭の辭とする。

計らずも拓務大臣に任ぜられた自分は拓務行政統理に當ることになつたのであるが、國家多事この重責を擔ひひたすら誠心誠意を以て任に當り大いに拓務行政の刷新を擧げ以て輔弼の任を誤らざらんことを深く期する次第である。

『昭和』四年六月拓務省設置を見たのであるが……

『朝鮮』臺灣、關東州、樺太及び南洋群島の統治に關する事務は年と共に重要性を加へることは明であり、又滿蒙其他の業務の監督に關する事務は益々複雑となつて行くのであるが、更に又遠く南洋、南米における移植民及び海外拓殖事業に關しては新政策の下において海外進出の急務が更に強く提唱せらるべきは火を見るよりも明であらう。斯の如く拓務省の主管事務は將來益々複雑に且重要となるべきであると信ずるのであるが、更生の拓務省として直面善處するもつとも

『回顧』まことに多事多難な年であつた今昭和七年も亦益々多事な年であらう。自分は此の年頭に際し更生の拓務省が大いにその機能を發揮して拓務行政の實を擧げその重責を果すに遺憾なからむことを切望して已まぬ次第である。

錦州全軍に對し 總撤退を命令
卅日午後八時學良から

【北平卅日發至急報】張學良は卅日午後八時錦州全軍に對し關内總撤退の命令を發した（卅日午後十時五十八分着）

【北平卅日發電】錦州の正面衝突を回避するため張學良は二十九日夜先づ一個旅に對し撤退命令を發し三十日夜更に全軍總撤退命令を發した、右は列車の都合がつく限り三十一日から續々撤退せよといふものであつて、これに依り遼西方面の正規兵は一兵をも殘さず數日間に撤退を完了すべく、斯くて錦州衝突は回避されたが張學良としては自己の部隊を保全し同時に更生し得る譯であるが他面において日本軍もこれによつて錦州を武力占領といふ國際的非難を以て見らるることを免れ得た譯である

日本政府に 傳達方を請ふ
張學良我公使館に 卅日使者を派遣

【北平卅日發電】學良は本日午後……

學良の訓示

【北平卅日發電】部下の强硬論を抑へ錦州撤退を決意した張學良は……撤退に際しては死傷者を出さぬ様日本と折衝中だが、此の際日本軍に侵略の口實を與へぬ樣隱忍自重せよ

錦州政府を 灤州に
追て自然解消

【北平卅日發電】錦州軍撤退と同時に錦州政府は一先づ灤州に移さるゝ事となつたが、此の變態政府は追て自然解消されるものと見られてゐる

嘉村旅團 打虎山入城

【奉天卅日發至急報】嘉村旅團長の率ゆる旅團主力は午後二時打虎山に入城、今夜は茲に旅團の主力を宿營し溝帮子に入城した多門師團と今後の策戰打合せの上行動する豫定である

溝帮子占領

【奉天卅日至急報】多門師團の先頭部隊は本日午後五時溝帮子を占領、意氣揚々入城、城頭高く日章旗を掲揚した（午後七時半着）

總退却宣傳
事實は一部だけ
日本を陷れんとする
彼一流の狡猾手段

【天津卅日發電】錦州軍の總退却は總退却を叫びながら事實はその一局部の撤退だけでその目的は日本軍を窮地に陷れんとするもので、裏面に顧維鈞公使の策動があるとされてゐる、殊に撤退せる軍隊が英國勢力の伸びてゐる灤州一帶に集中してゐる事實を見れば、錦州軍の撤退は益々明かに諒解される譯である。即ち錦州軍は撤退開始に先立ち外交部等に之を宣傳し日本軍は無抵抗撤退する支那軍を攻撃せりと外國に打電させたが、事實は一部外人等も某國公使の堅良擁助經路や内政干渉は近來その比を見ぬと眉をひそめてゐる位である

軍縮會議へ 佐藤全權一行
今井田總監と共に 今朝釜山に上陸

【釜山特電】今朝（三十一日朝）釜山入港の關釜連絡船昌慶丸にて二月末日よりゼネヴアにて開催される國際聯盟の軍縮會議に出席する佐藤全權は……

同胞保護の 救濟方針確立
重要事務打合せの 今井田總監歸鮮

【釜山特電】重要事務打合せのため東上中であつた今井田政務總監は別項の如く今朝（三十一日朝）釜山上陸鐵道ホテルにて語る

朝鮮擴張の一般豫算は決定したところ政府に於ても豫算方針を如何なる點まで實現するか、實行する腹がきまつて居らぬから從つて朝鮮の公債發行も確定せず何れは追加豫算となつて現はれるであらうが、前途の見極めは判らぬ、現在の如く財界の狀態が互額の公債發行を許さぬ時に際しては確程確實に措置せねばならぬので政府も相當輕重の程度を持して居る樣であるから……

昨夕無事歸城

東上中の今井田政務總監は豫定の如く三十一日午後七時京城驛着……旅の疲勞の色もたく直ちに官邸に入つた

撤退を監視する
山海關の我守備隊

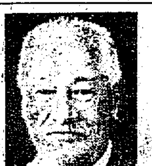
【山海關卅日發電】廿九日夜六時錦州軍關内撤退開始せりとの報傳はるや我守備隊は俄然緊張し飯野大隊長細川守備隊長を中心に緊急會議開かれ、協議の結果應急策として先づ山海關驛に常備監視兵六名の外機關銃一個部隊及び巡察隊十五名を増員し、小早川頂留郎揮の下に驛の監視を嚴にし憲兵分遣所には十名を増員して平田頂留郎指揮の下に居留民保護に當らしめた、驛監視所よりは刻々に守備隊に情况報告され、驛と兵營との間（約一哩）は三名乃至五名の巡察隊に依つて警備された、斯くて本日午前一時半山海關通過を皮切りに錦州の關内撤退兵は裝甲列車を先頭に各汽車に鈴なりとなつて天津方面に引揚げた

【東京電話】……佐藤全權は十時十分北行した、佐藤全權はホテルにて休憩中今回の軍縮會議について左の如く語つた

國際聯盟が軍縮會議を開くよ既に過去九ヶ年に亘る軍縮準備委員會にて充分に案を練つた結果であつて三ヶ國も聯盟國以外にてロシア、トルコ、米國などの參加があるから從來英米によつて主催された軍縮會議よりも海陸軍備と航空軍備について討議を行ふのであるから、組織に於ても實質に於ても遙かに大規模の會議となる、只聯盟の軍縮會議において若し海軍に關する軍縮の決議が成立する場合には一九三六年まで效力を有する、最近の軍縮會議又はロンドン、ワシントン會議などの決議と如何なる關係になるかと云ふとは頗る大きな疑問となり、此の點に法律的の解釋極めてデリケートになる、陸軍にしても各國の國情に應じて徴兵制度と志願兵制度を採用するなどそれ〴〵異つて居るから原則として到底の國防上に差つかへない程度に於て軍縮を實行する事を決めてあつても中々困難なる問題であらう　今回の會議に於て最も注目されるのは防空並びに飛行機隊に關する協議であらう、從來空に關する限界がはつきりして居らぬため歐洲の如く複雑な國境を接するところでは航空機關の發達と共に益々其の必要を認められて來た、如何なる點まで航空に關する取り決めを見られるか興味のある點である、歐洲の紛爭が軍縮に關聯して作用する樣なことは直接的にはないだらう

明治天皇と元田東野及び李退溪

蘇峰　德富猪一郎



予は曾て昭和五年五月『文祿役後日本における朝鮮の感化』と題して、朝鮮の文化が日本に及したる感化の、意外にも廣く、遠く、大いに且つ深かつたことを語つてゐる。今此にそれを繰返す必要は無い。併し但だ特に此際、内鮮双方の人士の注意を喚起したいことがある。

元々朝鮮合併は、明治天皇の盛德大業の中に於て、最も晩年に行はれ、同時に最も大なる一であつた事は、何人も異論はあるまい。明治天皇は日鮮の赤子に對して、全く一視同仁に在した。然るにその明治天皇の盛德を補翼し奉りたることに、朝鮮李朝の大儒李退溪が――假令間接とはいへ――與つて力大に居ることは、寔に奇しき因緣と云はねばならぬ。

×　×　×

李退溪の眞蹟が、壬辰役の戰利品として、持來られたることは、著明なる事實である。島津家の戰利品目錄の中にも、李退溪の著作に係る『朱子書節要』が二部ほども來てゐる。德川初期に李退溪の『聖學十圖』『朱子書節要』『自省錄』等、何れも出版せられてゐる。

而して李退溪を最も尊崇したのは、實に日本に於ける朱子學の巨頭とも云ふべき山崎闇齋である。併し、闇齋ばかりで無く、闇齋以前に林羅山もこれを讀み、闇齋以後にその門人は勿論、古賀精里、闇田翠泉等、寛政時代の學者も亦これを愛讀した。特に熊本において、李退溪に私淑し、その學問の系統は、大塚退野なる學者川で來り、而して、横井小楠、元田東野等を經て、最も明著となつた。大塚退野の所謂る退野なる號も、恐らくは李退溪の退溪から思ひ著いたものであらうと思ふ。

×　×　×

今此に予が言明するまでも無く横井小楠と、元田東野とは、眞に友人といふばかりで無く、その學問の系統が、全く同一であつて、いはゞ横井嚮へ、元田和したと謂つても差支ない。然るに彼等のいに、如何に李退溪が尊崇せられた乎といふことに就いて、一の例を擧ぐれば、嘉永四年九月予の父淇水翁が、小楠堂（横井小楠の塾）を辭して、その故郷に歸らんとするに際し、横井小楠は、更に左の如き贈言をなしてゐる。

「李退溪曰。第一須先將世間窮通得失榮辱、一切置之度外、不以累於靈臺。旣辨得此心、則所患已五七分休歇矣。……在退溪之此言。而其心可得、……」

×　×　×

此に深淵退野とあるは、平野深淵、大塚退野にして、大米小楠とあるは、長岡是容、横井小楠である。

これを見ても如何に彼が李退溪に私淑したかゞわかる。それは大塚も横井も、何れも李退溪の感化を深甚に受入たる人々であつて、その親友であり、その學問の相者である元田東野翁が、獨りそれを受入れない筈は無い。

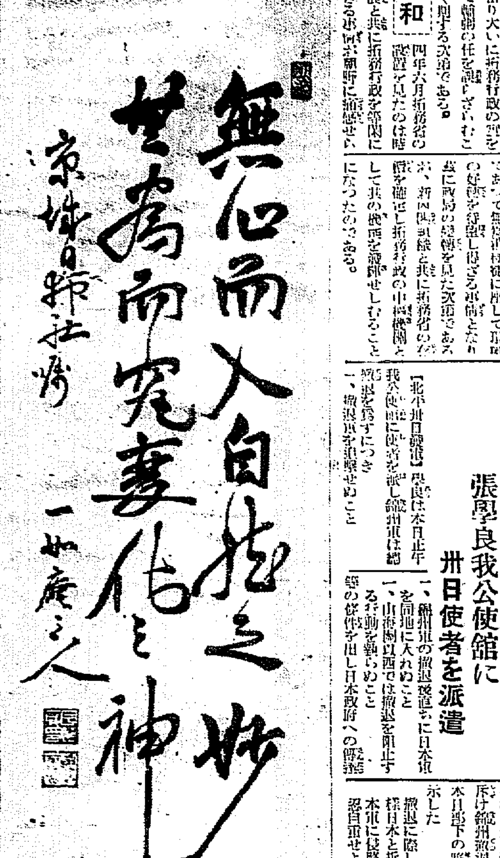
×　×　×

予は本來朝鮮の文化に對して、淺からない敬意を持つてゐる。而して現在此の如き顯著なる事實を見れば、朝鮮の文化が、如何に我が明治の聖代に、貢獻したるもの、多かつたことが想像せらるゝ。

（昭和六年十二月十六日於東京民友社）

試筆　蘇峯德富猪一郎氏

試筆　朝鮮總督　宇垣一成氏



羅南部隊 列車襲はる
騎馬馬賊と應戰 奉天に出發

【三十日錦縣特派員發電】二十九日午後十一時二分京城驛を發した羅南○○旅團の○○○名を乘せた第三列車が安東を發して間もなく三十日午後二時三十分（朝鮮時間一時三十分）元寶宮、蛤蟆塘附近にさしかゝつた際突如錦西方より約二十余名より成る騎馬々賊現はれ機關銃を以て第三列車を目がけて暗擊をなした、第三列車は直ちに停車し一部隊を以てこれに應戰した馬賊は約二十分間に亘り猛射の後逐次後退を開始したので羅南○○第三列車は折柄沿線警備中の守備隊に馬賊の追擊を托し急遽奉天に向け出發した。守備隊兵は目下騎馬々賊追擊中、尚この馬賊は安奉線における便衣馬賊の一部らしく第三列車を發見し襲擊をなしたものと見らる

太平漫語

昭和七年開幕。何はさて置き、おめでたう▲かくいふ太平漫語子もすつかりおめでたくなり、今年もまた例によつて賑る『おめでたい』獨り言を弄びたいといふ。いい氣なものではある▲さて、國際聯盟に幕を開けた本年の舞臺、その舞臺にのぼる目ぼしき出し物は何▲まづ以て新滿蒙建設劇の一幕に指を折る。客年は滿蒙政策の破壞作業に終つた。今年はいよ〳〵その建設にかゝらねばならぬ▲建設は早いに越したことはないが、細製は大の禁物だ。わが滿蒙を永久に確保するに十分な、耐震耐火の大鐵筋を這入りにコンクリートで固めた堅牢無比の建築を國民全體の熱と力で作り上げたい▲解散劇も大體本年初頭のプログラムに入れて置かう解散の一幕なしに犬養内閣が難局を切り拔けるやうなことでもあれば奇々怪々の日本の政界を、そのとき改めて感心し直すことにする▲軍縮會議も本年の大問題の一つではある。狐や狸に化かされぬやう……

謹賀新年
宇垣一成

謹賀新年
今井田清德

謹賀新年
京城日報社員一同

謹賀新年
水原郡廳 職員一同

土木建築請負業
水原梅山里
賴岡實一
營業所（……）

朝鮮水原
土木建築請負業
金泉組
組主 金泉次郎
電話二十番

水原市外坪里
精米業
寺澤捨三郎
電話一三五番

農事試驗場
高等官一同

農事試驗場蠶絲部
高等官一同

水原高等農林學校
高等官一同

水原
竹下平三郎

京城電氣株式會社
水原支店
外社員一同

水原警察署
署員一同

水原金曜會

門松もない營門（上）兵士の外出

鷄鳴曉をつげて希望と榮光に輝く

新興朝鮮の樂土着々進み

三二年のスタートは切られた

鷄鳴曉を告げてこゝに昭和七年の芽出たき新春の扉はひらく、わが生命線滿蒙の事變起つてすでに四ヶ月未だ平靜にかへらず國民の愛國心は去りやらぬ一月々の目睫に初日うらゝかに照りそひ松飾りに色映えてまさに平和のシンボルそのものである、想ふに治政すでに二十有二年半島の文運日に進み治安は全くされて二千萬の民衆堵を安んじ今や『新興朝鮮』建設の意氣に燃ゆるところ、援擁地滿蒙の天地は血潮に色彩られながらも皇軍の威により我權益ようやく確保されんとし樂土の建設また遠からず、これによつて東洋永遠の平和的基礎は築き上げられんとする、もはや疑ひなきところ遂に新年は芽出たくもまた希望と榮光に輝くものがある。われ等はまづもつて聲高らかに萬歳を奏して竹の園生の彌榮をお壽ぐとともに益々國威の宣揚を祝禱し昭和聖代もつて祖國の至誠を一年の計に捧げ逝々しく一九三二年へのスタートは切られた

雪凍る滿洲野に偉功の朝鮮部隊

陸軍村に春の訪れ

武勳に輝やく新春を迎へた龍山陸軍村の想ひ出は深い、顧る去年の九月、暴戾飽くなき支那兵はわが鐵道を爆破して猖獗した爲き權益を無視にも蹂躙し排日侮日のあらゆる不法手段を弄してなほ飽たらず遂には挑戰的に出で、敵對行動をすらとり隱忍持久の我軍をしてつひに隱忍の緒を切らさしてしまつた、そして十九日には自衛上滿鐵沿線の

保障占領　を余儀なくされた恰かもその日の深夜中の出來事であつた、まだ午前二時といふ眞夜中に發せられた、そして龍兵石火的突如として龍山部隊に出動の命令は下つて陸軍街の囲ろき夜は忽ち出動準備に沸き立つ村混成旅團長の麾下に歩兵〇〇聯隊をはじめ各部隊の勇士達は血を躍らせて國境に向ひ進軍せしめなから、何しろ朝鮮軍始まつて以來の出征の日朝鮮征途に上つたものだ、

だつただけにその當時の陸軍街は大變と昂奮の巷と化してしまつたのだつた、それから月日は流れて早くも四ヶ月經さへ數まつてしまつたが、わが出征部隊はその間隊三十余度抗をつん裂く朔風の中大興附近の戰鬪をはじめ刻々と繰り返された激戰に激を

血に染め　て激戰し馬占山の大軍をはじめとして各地に蜂起する兵匪を片つ端から掃蕩潰滅したものだ、すなはち彼の大興戰に於ける瀧谷騎兵中隊の如き凍る月下總攻撃の一線にたつて、今やすでに影さへ薄らぐわが騎兵戰史に血をもつて偉勳の一ページを刻みつけ或ひは坂本中尉の工兵部隊の三間房戰に於ける敵と一騎打の肉彈戰を演み、さては衣笠少佐（當時大尉）の昂々溪戰線の悲壯勇斷の最後の如き何れも眞刀を僞にするまで敵を斬り遂し彈丸雨飛する中を物ともせず雄々しき決死の戰を試み又嫩江の戰線では平野部隊の飛行機の活躍によつて二日二晩辛くも戰線を支持したなど實に劃期的の

航空戰に　功をなし激戰といふ激戰には朝鮮部隊の勇者が第一戰陣に立つて勇猛果敢な行動をとり途に我が戰史を飾る記錄を刻んだものだ、もつとも三十に近い護國の鬼と化した戰死者、百余の負傷者の貴き犧牲を出して一時にふかき哀愁の願ひをしたこともあつたが矢繼早にもたらされる輝く武勳の快報は暗雲をさへ吹き消してたゞ街も光にかゞやく朗らかな氣分の横溢となつた

盛大に擧行の陸軍觀兵式

八日龍山練兵場で

新春恒例の陸軍始觀兵式は一月八日午前十一時から龍山練兵場に於て行はれる事にもつとも盛大に擧行されることに決定した、參加部隊は歩兵七九聯隊、同七八聯隊留守隊、騎兵二八、野砲二六聯隊留守隊、工兵二〇大隊の各部隊にして滿洲出征のために各員は例年よりも少ないが時局柄極めて莊嚴に行はれる豫定で諸兵指揮官は師團長代理の手許ですでに豫閱や隊伍を經られ各參加部隊は朝鮮軍二十分前に整列、軍司令官の閱兵後分列式に移ることになつてゐる

室師團長の留守宅

靜かなる室將軍の留守宅

甲斐々々しい夫人

出征勇士の武運長久を祈る陸軍街はたゞ昂奮と感激に漲つてるところ又師團でもある、武勳の香り高き話題をあさりたがら、靜かな正月の氣分を味ふべく留守宅を覗いてみる、先づわが朝鮮派遣軍の總元締の晴れの大役を背負つて立つ室師團長の留守官邸の玄關に立つ名刺受に正月の氣分はにほふが、內輪のヒッソリとしたこと、快よく迎へてくれた夫人は小ぢんまりした玄關横手の應接間に記者と對座して

いつもの歲なら大變賑やかなお正月ですのに今年ばかりはほんとうに淋しいたゞ氣持だけのお正月で御座います

主人はこの前日露戰役に出征してゐますので今度は二度目の出征でございます日露役にはまた中隊長として出た若い頃の

軍部年始行事

龍山軍部の年始行事は左の通りそれ拜賀式擧行

△拜賀式（一月一日午前十時）軍司令部将士廳接室に參集拜賀式擧行各隊でも同時刻それぞれ

△勅諭下賜五十年記念式（一月四日午前十時より）軍司令部をはじめ各部隊別に奉行勅諭奉讀式並記念講話を擧行訓示される

△陸軍始觀兵式（八日午前十一時龍山練兵場に於て各駐屯部隊參加の上擧行

師團司令部の出征にまた依田旅團長の出征を送つては『戰ひは既に勝てり』とばかり凱歌をあげて意を強め安んじて惠まれた春を心ゆくまで祝福するところ時局柄松飾りをすら遠慮した陸軍街は殘留部隊の人影少なく一抹の淋しさがあり物足らぬ氣分こそすれ戶々に飜る日章旗は麗かな

かくして迎へた新春の陸軍街は進士の名譽の凱旋を夢に描きつゝ留守を淋しく護る家族達が生安かれとばかり何處の家でも勇者の武運を祈る床しい場面がみられる、そして慌ただしく暮れ行く年の瀨の初日に色映へて、榮光おのづから輝きわたり、武勳の街に相應はしい情景である

父の死を知らずに出征した悲しい話

息子を見送らんとして奇禍に遭つた老父

【城津特電】二十八日滿洲に出動する南部部隊通過の際城津驛では、したくも起つた悲話がある――咸鏡線漁大津驛長鈴木桂次(五七)氏は驛南步兵〇〇聯隊に入營中のひとり息子がこの度出征することになつたので別れをつげんと通過部隊の乘つてゐる列車に乗つてゐるが、みんなさんを送るとて午後十時四十分の第一列車城津に着いた際ホームに出んとして列車にふれ引込まれ約メートル引づられ頭部、額、胸左手、右足等に大負傷し即死をとげた。一方令息の乘つた列車は二十九日午前三時十九分城津に着いたがかくとも知らず多數見送り

の中を父親を探し求めたお別れの首途の途中とて本人には父の死を秘密にして何も知らさず、親と別れの出來ぬを心殘りのまゝ戰友とともに元氣よく出征した。この有樣を眺めた多くの見送人は痛く同情しひとしく涙を絞つた。鈴木驛長の奇禍の原因は不明であるが、同日は降雪のため地盤がすべつてゐたので線路横斷の際ホームに上らんとして線路上に轉んだところを列車が通つたものとみられてゐる

凱旋を待つ婚約の麗人

內山中尉の留守宅

華々たる武勳かがやく瀧谷騎兵隊の中隊長として昂々溪戰に斃れした內山中尉の留守宅では中尉のお姉さんが留守をして弟はほんどうに果報ものでございます、彼の昂々溪の戰鬪で負傷を致しましたが案外に早く癒つてくれまして各隊選抜して再びお役に立つことができまして、この上ない喜びでございますと嬉し泣きで語つてゐた同中隊長

『惠まれぬ春』を喞つ白衣の傷病兵達

世の贈る同情に感謝の淚むせぶ

『俺達はどうして戰場に華々しく散らなかつたのか』と今里想獨り寂しく赤い夕陽の滿洲を夢にさながら描くほど傾ぶれて白衣の纏り果てた姿で淋しく『惠まれぬ春』をかこつてゐる、これは龍山衞戍病院にのみみられるお正月の一反面である、こゝ集まつた

『病室に』　呻吟する百三十余名の傷病兵達は樂しかるべき正月を迎へて反つて感情をいら立たせてゐる

私達は最初から命を捧げてかゝつただけに、たとひ敵と一戰を交へて目的の護何かの御奉公はできたにしても、これで決して滿足できるものでない不幸傷づいて身の自由が利かないばかりに、こうして病院生活を餘儀なくされてゐるものゝまだ〴〵働きの足らなかつたことを自認してゐるために徒らに心はやつて滿洲に走り勇に今に大激戰が始まるときかされては病みの身にも血は湧き立つて來る、これはたゞ私だけの氣持でない、恐らくこゝに入院してる皆の共通した氣持だ、毎日見舞つてくれる部下達も傷の癒るにつけて、彼の華々しい戰鬪の擧面が思ひ出されてならぬと異口同音にいつてゐる位で、それにつけても現に

『曠野に』　働らく部下から『はやくよくなつて、たとひ指揮はできなくても顏だけなりみせてくれ』といつて激ましてくれる便りに口惜し淚が惨み出て、その後の部下の働きに心躍りがしてならぬ

と傷づいた右手を抑ひながら將校病室にベットの上で語る小屋迫少尉は更に語を續けて

ナーニお正月が樂しいそんなことを喜ぶものは一人もない、現に傷病者は癒つても所詮生れもつかぬ不具を免かれない悲しい運命に置かれる者ですら不幸の身の前途をさへ考ふることとすらせず悲觀どころか、はやく癒つて今一度華々しく戰陣に立ちたいといふ飽まで盡忠報國の意氣に燃えてゐるのだ

と部下傷病兵達の何處までもいぢらしい心根に感激の淚さへ浮かべて語るのであつた、如何に

『國家の』　爲とはいへ如何に忠勇一途の軍人ではあるとしても、こうした不遇の運命に逢ひしながら心も亂さず暗い氣持にもならぬはずがあるものかといつたような世間の通念は要するに、ひが眼、わが勇壯な派遣部隊の傷病者達は飽くまで忠勇一途の軍人精神を枉げることがない何處々々までも忠誠そのものゝ溌剌な氣分でいつぱいだ、その抱く切々たる望みが叶はぬ身の不自由に『惠まれぬ春』をかこつといふもの、それ

小屋迫少尉

にしても元旦には雜煮にお頭つきの魚、それに煮豆もつけば數の子もつく、ご飯は正月三日に限つて麥拔きの白飯で一通り祝ひの獻立の

『御馳走』　が出た。これがせめてもの慰めにと軍部のやさしい心遣りで、更に傷病兵達はそれによつて、なつかしい家郷の情景を想ひ起しお正月らしい氣分になつて子供心の無邪氣さでしばしの愉悅に浸るのだそして世間の同情に惠まれて蓄音機出來上つたばかりの娛樂室で傷をだに忘れてピンポンに球に將棋に或は蓄音器などの娛樂に戲れては心の傷までも癒やそうとしてゐる

そこには二つのペーチカによつて室內は溫められ、安樂椅子もあれば蘇苔鉢もしかれてある植木鉢も花瓶の薔も松竹梅でそのいづれも眞情こめた世間の同情の贈りものばかりである、世間の熱意ほどぼしる

『同情……』　それこそはほんとうに傷つける人達を慰める唯一のものであり『惠まれぬ春』にも目に慰むべく傷つく足を投出して利かぬ左手に碁石をつまみながら將棋戰を鬪はし退屈をしのいでゐるのも痛ましい風情であり、かくて惠まれぬこの世界にはたゞ世間の贈る感謝とうける感謝のうるはしい情景に明け暮れて行くのである

譽は高き瀧谷鬼大尉

愛兒の健げな言葉

ことですので寒い位には參らなかつたと思ひますが、今度は若い時と違つてまづ健康を案じられてなりません、しかし御本人はナーニ滿洲には寶がはあるからと大手夫だと申しまして非常な元氣で出征致しました位でございますから此の上はどうぞ運よく御奉公のできますやうに神かけて祈るばかりで御座います

と朗らかに語つてゐたその留守宅には明けて七十七歲の老母にもな……壯者を凌ぐ將軍の報らが……と京中の五年で勉強できこれた次郎君と龍中に學ぶ……君が留守を固めて夫人は女中二人を指揮して甲斐々々しく立働らくのであつた

新くの上に寒天を衝いて鋒ゆる龍山無線局のアンテナマストはみるからに殺風景で淋しそうだが曉く戰鬪に慟れ高き騎兵聯隊瀧谷鬼大尉の留守宅は寒さも知らぬ愛兒の昭平君が『おぢらやん僕六つになつたよ、僕も大きくなつたら、お父さんの軍刀をもらつて敵をやつつけるよ』とおもちやのサーベルを吊つて附近の子等とチャンバラをやつて小さい氣焰をあげて大變な賑やかさ昭平君の外に美津子さんとやつと二歲になつたばかりの哲成君を抱へた夫人は

主人が出征致しましてからは女中も置かずにゐますので悪戲坊主はゐますし何事も行屆かずに困りますが主人が無事で御奉公致してゐてくれますことが何よりで、樂しくその日が送れますそれで別段お正月を迎へましても淋しくも思ひません、たゞこの上とも少しなり御奉公ができますやうに神佛に念じてゐるので御座います

と健氣に語るのであつた、そして四月から小學校に通ふことを樂しみの美津子さんは甲斐々々しく立働くお母さんの側にゐて哲成さんを抱つこしたりあやかしたりして手傳ふてゐる

最終部隊通過

依田旅團の龍南殘留部々隊（へ衞生隊）の〇〇名は上野少佐引率のもとに三十日夕午後六時十分龍山驛發列車にて京城を通過した奉天行列車が京釜線三浪津、密陽間で貨物列車の車輛を損傷して約三時間も立往生したため京城驛も同時間遲延したので一行は夜の龍山驛頭を滿洲出征將士の武運を祈願する鮮神宮に參拜し武運長久を祈る

の際には出征直前に婚約をかたばかりの美しき婦人が名譽の凱旋の日を待ち焦れてゐる

武運長久の祈

滿蒙同胞後援會で

滿蒙同胞後援會は一月三日午前十一時から朝鮮神宮に滿洲出征將士の武運長久ならびに在住同胞の安寧を祈願する祈願祭を執行することになつた

卅七聯隊長の謝電

歩兵三十七聯隊長より本社宛三十日午後左の如き謝電があつた（錦州山設電）

聯隊は越え士氣益々旺ん、征途に向ふ、御好意を謝す、我紙上を通して市民各位によろしく

歩兵三十七聯隊長

山縣隊長留守宅

それから雪解けの坂路を歩兵聯隊の官舍山縣七八聯隊長の留守宅を訪ねる

もつとも犧牲を多く出した程彼の大興、昂々溪戰に勇躍したのでその名譽を恣にしてゐる留守宅を預かつた龍山中學に通ふ坊ちやんは休暇を利用して本浦の叔父さんのもとに旅行中夫人と他のお子さん達は郷里岡山に住んでゐて留守宅は山口縣から來てる遠緣の老婆と女中キクエさんの二人きりで淋しいこと夥たしい

聯隊長は御酒はあまり召し上りませんが來客があるとよくお上りになつて朗らかに申はれます位お酒い氣分のお方で去年のお正月など大變お賑やかでございましたが今頃はこのお淋しいのにどうしてゐらつしやるやら案じてをります

と如何にも忠實そうなキクエさんは淋しく語つてゐた

年賀狀洪水

全鮮で千八百萬通

小包電報も大繁昌

『お芽出たう』の年賀狀全鮮で出るものだけでザット千八百三十萬通を豫想されるところ各郵便局所は局員總動員のまさに戰時狀態の忙しさを呈した。京城だけでも出すのが三百八十萬通元旦の一號便で配達されるだけでも二百九十萬といふ夥たしい數であるが、今年の普肽の變つた現像は特別取扱の初め頃はいやに出遲つたのが押し詰つてから俄に增えたことで、その數に於ては大體去年分と大した增減を認められないが、私製ハガキと二錢切手を貼つて出す封書入りの洒落れたのが殆んど二割方殖えてゐる。これは商人筋の勉強ぶりとモダン人が殖えたためであるらしいが、それに年末始の贈答品の小包郵便が客臘十五日から三十日までに京城局で引受けたものだけでも五萬八千五百四十八個と六割方の激增ぶりで、更に電報の殖えたことが際立つてゐる。すなはち京城局で昨年の一日の最高額破

黃金町火事

原因取調べ中

卅日午後七時半頃府內黃金町六丁目明治自動車學校（經營者山下勝原氏）の二階校長室から發火同八畳面に自動車倉庫一棟を燒失同八時鎭火した。損害約一千圓で大北火災その他に三萬數千圓の保險を附してあるが原因について不審な點あり、山下氏は同夜本町署に召喚されて嚴重取調べを受けてゐた

お正月の行事

希望に輝く一九三二年は先づ新年早々に行はれる次の諸行事から初まる

◇一日　朝鮮神宮歲旦祭（午前九時から中祭式に依り總督以下官民參列）▲本府拜賀式（第一會議室にて午前十時五十分より在城各國領事館員並に外國人の拜賀式。同十一時二十分より有位有勳の本府職員及び在城第一種所屬官署の長、勅任官及び同待遇者、朝鮮神宮々司、京畿道知事、中樞院參議以上、朝鮮貴族の拜賀式同十一時五十分より判任官及び同待遇者の拜賀式）京城神社歲旦祭▲各學校、官公署、會社拜賀式▲名刺交換會、

◇二日　各商店賣初め

◇三日　元始祭（朝鮮神宮では午前十時より總督以下參列祭行）

◇四日　吉例消防出初式（午前九時から訓練院で）▲御用始式（本府では午前十一時から第一會議室で、その他諸官廳も同樣擧行）

◇五日　新年宴會

太平洋の眞只中でわが汽船の遭難

三度SOSの信號を發して

その後の消息絕ゆ

【シヤトル卅日發電】太平洋行中のエムプレス・オブ・ルシヤ號より當地に達した無電に依れば神戶中外商船會社所有玉穗丸(六七八六屯)はアリユーシヤン群島南端で操舵中に故障を起し卅日午前五時卅八分同六時廿二分同六時五十三分の三度に亘り盛に救助信號を發したがルシア號は同船を去る三百海里の洋上に且つ海上波高く應急の間に合はすその後同船よりの無電絕へた。因みに同船は四十名の日本船員乘組みをり安否氣遣はる

謹賀新年

朝鮮運送水原出張所　主任　寺澤捨三郎　外社員一同

水原本町　京城日報水原支局　電話五一番

水原　堀田全冏

帝國在郷軍人會水原分會　會長　橘田實平　外役員一同

水原金融組合會長　車裕舜

烏山　藤本商店

水原禪宗西法寺　杉本泰岸

水原妙法寺住職　清野威玄

水原醫師會

水原　岩掘　等

東洋拓殖株式會社水原出張所　池田清　電話一七四番

水原工木管込　職員一同

水原邑長　梅原靜雄

水原　湯淺伊平　電話一三番

殖産銀行水原支店長　永松統治

水原大覺寺住職　大西健三

水原高野山法隆寺住職　津山眞龍

大谷派東本願寺　奧村憲正

水原本町　加茂百貨店　電話一〇八番

共同無盡株式會社　水原出張所　電話一〇五番

命の最高峰 (74)

平山蘆江 作
布施長春 畫

の上に乘つてゐた麗沙子の身體がセットの破れ目から、忽然として消えてなくなつたのだ。

氷に包まれた富士山のセットが出來てゐる。それへ、強いフラッシュが一杯にかゝつてゐる。セットの上には雪がふんだんに、盛り上げてあつて、雪の中へ、飛行機が一臺、逆立ちをしたやうに、押立てゝある。

「レデー」

白崎がメガホンで怒鳴つた。

扇風器が横手から、ブン〳〵あふり立てる。雪がパッ〳〵と、本物の吹雪のやうに、散り亂れる。

雪の山が、もく〳〵と動いて、その中に埋められた麗沙子の顔が持上る。

「フラッシ、フラッシ」と、白崎が叫んだ。

フラッシが麗沙子の顔を引くるめたスポットへ、ギラ〳〵と浴びた。

「ストップ」

白崎が手をあげる。

間もなく、レンズがずん〳〵前進して、麗沙子の顔の直前まで行つた。

「ゴーオン」

又撮影がはじまる。

ずつと、離れたところに立つてずんぐりした身體に、袴を引ずるやうにしてゐるのは原作者の久我榮だ。そのそばに頰ひげを生やした洋服の中老人は、撮影所長の相谷誠作だ。

「どうです」と相谷がいふと。

「さあ」と久我は眉をひそめる。

「好いセットでせう」

「さあ」

「今度は大分奮發したつもりですがな」

「山の氷の光りが、少し――」

「大丈夫です、あれで、充分でも、しが利いてますからなア」

「雪をもう少し」

「いや、あとでもつと殖やしますが今はあのくらゐでないと、女優の力では動きがとれませんからね」

「あの女優は好いなア」

「好いでせう。深川麗沙子といつて、中々人物もしつかりしとります」

「深川麗沙子、二三日前の新聞に大きく紹介してありましたなア」

「そうです、この映畫が封切りをするまでには、もつと〳〵、宣傳をするつもりですがね」

「好い女優だ」

「あれなら、當分、壽命があるといふ確信がついてゐます」

「東京つ子ですか」

「さうです。今度の〈命の最高峰〉を機會にして、あの子の宣傳の爲めに、會社は三千圓くらゐ、ふり當てゝあるのです」

「なるほど」

「何しろ、掘出しものですよ。まだ入社して半年くらゐですが」

「實に好い女優だ」

「お氣に召しましたか。はゝゝゝ」

「はゝゝゝゝ」

「何れ、御紹介いたしませう」

「是非どうぞ、大事にしてあげて下さい。女優拂底の折からです」

「さうですとも」

「獨身ものですか」

「左樣、まア、獨身も同然です」

「獨身も同然とは」

「はゝは、惡い意味にとつちやいけません。亭主がある事はあるのですが、不治の病ひでな」

「不治の病ひといふと、何です病氣は」

「なあに、惡い病氣ぢやないんです。腦溢血の爲めに――」

「ふうむ――よいよいの女房にして置くのは惜いものですね」

「さうですとも。實に――」

「あッ、あぶない」

「あッ」

二人はばた〳〵と駈け出した。

二人ばかりぢやない。そこら中の人が、皆駈け出した。セットの方へ、セットの方へ。

フラッシもふらついた。

撮影器も止まつた。

足音と、叫び聲と、あらゆるものゝざわめきと。

富士山のセットが崩れたのだ。そ

ラヂオ JODK

三日(日)

午前十一時五九分 時報、ニュース
午後〇時三〇分 氣象概況、各地天氣實況 仁川觀測所發表
同〇時四〇分 尺八合調 春風
京城都山流尺八絃部會員
中尾都山作曲
一部 二部
琴 豐田 村山 聰山
速水 雅晃 野原 尚山
橋本 應山 松本 閑山
力武 仲山 清木 倉月
小原 篁山 吉田 篁峰
小田口 鶴山 佐藤 湧山
若狹 花山 佐藤 共山
橫井 陽山 平野 昇山
田村 悟山 [illegible]
村岡 萊山 [illegible]
同一時十分 室內樂 ピアノとヴァイオリン合奏 一、ソナタ六番ト長調、モツァルト作曲 アレグロコンノヒリツトアレグレット 二、ソナタ七番ハ長調モツァルト作曲 アレグロアンダンテアレグレットグラチオソヴァイオリン 大場勇之助 ピアノ 吉澤實
同一時四〇分 琵琶合奏 秘曲彈丸 本多旭映 飯堂旭秋 泉田旭房
同二時一〇分 趣味講座 第二席 誹壇の [illegible]
同二時四五分 今晚のプログラム發表
同六時〇分 (A)獨唱唱歌 琴 唄 平井英子 青い鳥 樂器 [illegible]
同六時三〇分 趣味口演 滿洲八景の坳 第二席 沈積傳
名唱 李東伯 鼓手 池龍九
同七時〇分 ニュース、明日のプログラム發表
同七時三〇分 在滿同胞慰安の夕 內地各局より
同七時五〇分 俚謠(F) 一、富島小唄 二、龍山ドンド 富島節 新道中 福山市 唄 福山 芳松
同 津田 德松 同 横山 繁一郎 離子 藤井 助一 同 井上 勇吉 三味線 渡邊 ひさ 同 中村 まつ
午後八時一〇分 新大津繪節(B) 一、御國のため 二、忠臣蔵 三、發頭の藝 四、十二ケ月の唄 五、目出度ひづくし 大津繪 [illegible] 同 いし子 同 いし [illegible]
同八時三〇分 俚謠(C) 名古屋甚句 盛榮 [illegible]
同九時一〇分 合唱(A) 梨本宮妃伊都子殿下御作詞(滿洲征途の上を思ひて) 山田耕作曲 JODK唱歌隊
同九時一五分 俚謠(I) 一、正調秋田音頭 二、[illegible] 唄 坂東 [illegible] 尺八 阪田 [illegible]

春風

京城都山流尺八絃部會員

在城都山流尺八絃部會員を網羅した久し振りの大合調です

寒風吹き荒む嚴寒の候……かうした文字を見るだけでさへ我々の皮膚は粟立つであらうまして永い冬の寂寥の賓苦から開放された時の感想は唯甦生の二字を以て總てを云ひ盡し得るであらう

春の一日を土に親しむとき更生の吾人の面を微かに打つもの、それは和やかな東風であるこの曲はかうした氣分より表現し始め、やがて、初段二段と進むに從ひ山野漸く綠衣を裝ひ、水溫み好々として囀る小鳥の戲れの情趣を完膚なきまでに表現し盡し、三段に到つてはやがて展開されるであらう春のみの持つ雄大な氣分を總とし併せて更生の人間のみの抱く前途に對する洋々たる希望を綜として變之巧みに織り交せて總べてを表現した曲である

室內樂 午後一時〇分

ソナタ二曲 ヴァイオリン 大場勇之助 ピアノ 吉澤實

大場氏は京城第一高女に吉澤氏は京城師範に何れも其の專門の音樂を教授して居られますが、お二人は京城洋樂壇の双璧として知られた方です

ソナタとは音樂上の一つの形式を云ふのであつて何等の思想もなく標題的な内容も有してゐないのがソナタの本質であります

琵琶 午後一時四〇分

秘曲 彈丸 本多旭映 飯堂旭秋 泉田旭房

四日(月)

午前一〇時三〇分 氣象概況、各地天氣實況 仁川觀測所發表
同一〇時四五分 料理獻立「餠のお餠の頂き方」
京城第二公立高等女學校教諭 [illegible]
日用品値段
同十二時五九分 時報、ニュース
午後零時三〇分 浪花節
同一時一〇分 速記講談 [illegible]

宇多大皇の第八皇子敦實親王の雜色、蟬丸物語を詠じた歌を表し、蟬丸に妙なり。琵琶の秘曲流泉啄木を博雅三位に傳へたるによつて其の名は世に傳はる

◇逢阪の關の清水に影見えて今や引くらん望月の駒

◇なもこちのたつきもしらぬ山中に、おぼつかなくも呼子鳥かな秋風に初雁金ぞきこゆなる、誰か玉章をかけてきつらむ

等の名吟が引用してある

料理 午前一〇時四五分

變つたお餠の頂き方

一、番茶餠(番茶、鹽、淺草のり)二、辛味餠(生姜、淺草のり、醬油、餠)三、胡麻餠(胡麻、砂糖、醬油、餠)

(寫眞は右から豊竹玉系、鶴澤清國、竹本和太夫、竹本靜若)

同九時三五分 氣象概況、各地天氣實況、時報

浪花節 午後〇時三〇分

紀文

文左衛門は數日來近年稀の暴風に紀州名産蜜柑が江戸へ少しも出ぬのを見て此時一手に蜜柑を江戸へ送り出したら相當の儲けになると見込をつけ、片田屋へ抵當に入れた明神丸を受出し蜜柑を積み込ませ船頭中人を頭に六人組を乘込ませ和歌浦を船出して無事江戸へ到着數萬の富をつくると云ふ紀伊國屋文左衛門出世の一席

掛合琵琶 午後八時〇分

夜討曾我

松井清水 外

松井氏は錦心流琵琶宗家の高弟として、DKのファンにはお馴染が深い譯ですが掛合で放送されるのは今度が初めてゞす

曾我物語は誰知らぬ者もない位有名な話でありまして殊に芝居道ではは目出度い狂言として正月には必ず之を出す吉例になつて居ります

曾我兄弟が十八年の艱難を忍び遂に親の仇工藤祐經を富士の裾野の狩場に於て討ち本懐を遂したので之を目出度いとするのであります。事の起りは曾我兄弟の祖父伊東次郎祐親は早世した兄の跡を繼いで伊東河津宇佐見三ケ所の領主となつたが兄の子即ち甥にあたる工藤祐經は成人の後伊東の領地は自分が繼ぐ可きであるとの考へから祐親を公事所に訴へましたが結果は祐經の敗訴となりましたので祐親は大に怒り從て祐經の妻にやつてあつた我娘を取返し離緣してしまひました祐經は非常に之を怨み家來に命じて赤澤山の麓に於て祐親の長子即ち曾我兄弟の父に當る河津の三郎を討たせてしまひました

此の時十郎は五歳、五郎は三歳でありましたが母は此の兄弟を育てる爲曾我家に再嫁致しました

其後兄弟は父が無念の死を遂げた事を想ひ成長するに連れて深き怨を親ひんものと心掛て居りましたが遂に待ちに待んだ時は來て建久四年五月富士の卷狩を幸ひに夜襲ひそかに工藤が屋形に忍び入り怨み重なる祐經の首級を擧げると云ふのが此の筋であります

同八時〇分 琵琶(掛合)夜討曾我 松井清水
同八時三五分 三曲合奏 京城三曲協會員 松竹梅
同九時〇分 堀川之段

寫眞は三曲の(上)竹內珍寶、(上右より)富島初野、(左上より)渡邊貞智子、佐藤敬子、菊口光子

三曲合奏 午後八時三五分

松竹梅

前彈「雪も遂る、雨や空の知ろべにて長閑けき光り新玉の」合「春の立つ今朝は足曳きの、山路を分けて大伴の」合「三津に來鳴く鶯れ梅の匂か」合「南より笑ひ初む、暫りに明かの色香も猶ほ榮ゆる此の里の、浪花は梅の名所」合「君が代の瀬にゆかりの松も、こゝぞ千代も變らぬ御調水、求浴びしてを…」

主婦之友 新年號 五大附錄 大評判 大賣行

(第一附錄) 一年三百六十五日分の献立と料理 毎日のお惣菜

手輕で美味い家庭料理千三百種を發表

▲元日から十二月三十一日までの朝晝晩のお惣菜

▲献立から料理の作方まで一切發表した大全集

▲出來上りの料理は極彩色の實物寫眞を以て發表

▲コレだけでも二三圓の價値があるとて大評判

(第二附錄) 一目でわかる禮式作法辭典

コレさへあれば禮式作法が何でもわかる

御婦人方が知らねば恥となる禮式作法一切の心得を、一々美しい二色刷の繪入で發表した作法辭典で、コレ一冊でも一圓以上の價値があるとて大評判

(第三附錄) ペン字と毛筆の習字兼用 手紙の書き方

ペン字の手紙も毛筆の手紙も自由自在

ペン字でも毛筆文字でもこれさへあればドン〳〵上達します。御婦人用の手紙なら、これさへ見れば自由に書けます。一圓以上の價値があると大評判

(第四附錄) 幸運ひとり占ひ

▲不思議にもアタルといふので大評判!!

▲願望が叶ふか叶はないか即座にわかる

▲この附錄ひとつで運勢の吉凶思ふまゝ

(第五附錄) 國寶の大畫像

▲國寶の實物ソツクリに謹製した大畫像

▲竪三尺六寸横一尺八寸の壁軸用大畫像

▲誰方でもビツクリする五大附錄の一つ

嫁入道具贈呈大懸賞

嫁入の簞笥や蒲團その他重寶な賞品二千三百點が當籤するハガキ一本の大懸賞!!

五大附錄つき 七十五錢 (送料七錢)

東京 駿河臺 神田 主婦之友社 (振替東京一八〇番)

演藝案內

中央館

鞍馬天狗 (第九篇)

水の大都會

殺人の卷

東亞俱樂部

照輝血笑記

大正館

荒療治の手引受

紅唇惱やまし

青春圖會

眼の新聞

まぼろし峠

朝鮮劇場

腹違ひ

戀の花園

謹賀新年

朝日座

銀界の伊達者

出世の猪名川

當り年

喜樂館

婚禮の夜

仇討選手

女を打つ勿れ

浪花館

心の血煙

大津檢花双二行

鐵火トムソン

新婚恥かし

京龍館

大風呂敷

强情我慢

片羽鳥

氣狂病院

京城寶塚劇場

曾我兄弟一行

若女房

責任觀念

積善の家

京城日報　其二

日本の生命線

滿蒙問題と我等の生存

支那を反省させよ

前滿鐵理事 法學博士 齋藤良衛

滿蒙事變の原因と經過については今更說くまでもなく讀者の既に知られる通りである、支那の排日は最近に至つて猛烈を極め、我等の權益は所在に侵害され、我等同胞の生命財產は到る所に脅威され我等は遂に長い歷史的因緣と、我等の一切の權益とを棄てゝ滿蒙から全く退却せざる限り、支那は永久に排日の鉾先を向けていやしくも假借せざる態度を取つた。彼の鐵道網計畫といひ、商租權否認といひ、滿鐵競爭線の敷設その他による滿鐵に對する壓迫といひ、皆然らざるなしである。これに對して我國は隱忍自重ひたすら彼の覺醒を促し、條約規定の遵奉を、國際信義の尊重とをもとめた。然れども彼支那は毫も反省するところなく、我隱忍を以て無抵抗力となし、我極東平和の斷念を見て、呼子何するものぞと侮り、益々出でて益々暴に、罪過は日と共に月と共に甚だしきを加へた

其の眞因如何

我等は到底これを默視することを許さぬ事態となつた、支那兵による滿鐵線路の破壞は今回の事變の直接の原因とはなつたが、その眞の原因は極めて深いものがある。滿蒙における支那側の排日が何が故に我國をして兵を用ゐねばならぬやうにしたか、兵は兇器である、支那側に不法があつても、直ちに友邦たる支那に向つて兵を用ゐて些もこれを匡正せねばならぬか、この點を深く考へねば今回の事變も極めて無意味のものになつて終ふ。或は近來支那側が生意氣になつたから武力を以てこれを懲めねばならぬとの意見が、聞かされないでもない、支那側が近來日本を輕視し邦人に對して屢々目に餘る行動に出てゐることは事實である、而して滿蒙と日はず中南部支那と日はず、此の種の支那側の行動に對して憤慨する同胞が決して少なくはない。然しながらこれを以て直ちに兵を動かすことの理由とすることは出來ぬ、或は近時在支同胞の事業が至る所妨害して若くは以て力を示してこれを阻止する外に策が無いとの議論も、屢た耳にするがされたことがある然しながらこれも深く考へれば邦人迫害の原因が必ずしも支那側の措置許りに存する譯では無い

邦人事業の 不振を以て用兵の原因と爲しうるものならば、我等は獨米と日はず、南洋と日はず兵を用ゐる必要に迫られて居る地方は支那のみに限つた譯ではない、現に我は從來度々支那で猛烈な排日排貨を受けた、そして假令一時的ではあるがこれが爲め經濟上の打騷を受けたが、之れに對して兵を用ゐよとの意見は無かつた。然るに獨り滿蒙に關する問題となると我等の神經は極めて鋭く刺戟され、支那にして飽迄其の非道を改めずんば、終局的解決が力の行使に依る外はないと思ふ意見が出る。或る外國人は滿蒙に對する日本の執着は常規を以て律することの出來ぬ程に強烈であると曰つたことがある、實に我等は滿蒙の關する限り外國人からは狂人沙汰位に思はれる迄の執着がある。それは日露戰爭の記憶が亦併に蘇つて來る爲め許りではない、同戰役後今日迄日本の滿蒙に盡した各般の努力に對する自尊心を傷けられるがため許りでもない、我等の國民としての生存と滿蒙との密接離るべからざる關係があるからである、或る人は滿蒙を日本の生命線と呼び或る人はこれを我國の心臟と呼んでゐるのを、新聞や雜誌で見た、文句はどうであつても良いが、我等同胞は滿蒙と我等の生存との緊密な關係を休々まめと知ることが、今回の事變の眞意義を知るべき唯一の必要條件である

人口過剩問題

我國の直面して居る最大の問題は何としても年々百萬近い人口增加の問題でなければならぬ。一口に百萬といふがこれが例を兵數に取れば約百個師團に該當する、十年經ては約千個師團の兵員數に當る同胞が增加する。今日の我國の不景氣も失業も就職難も、世界不況の影響だなどと考へたら、それは大間違ひである。それも一つの原因には相違ないが、世界不況が全然なかつたとしても、我國の不況は依然として存在する、それは主として過剩人口の壓迫に原因する。その處理方法の立たぬ限りはこの狹い國で、この貧弱な資源でどうして立つて行けやう。或西洋の經濟學者は世界が北米合衆國とロシアと支那との三つの大國に併合されると豫言したことがある、その意見に從ふと、國家の存立は經濟的基礎の鞏固である、自給自足の出來る國でなければ永く國家として存在し得ぬ、然るに前記の三國以外は到底自給自足が出來ぬといふのである。これも一面の眞理はあり、我國の將來をこの點から考へれば、迴憶な材料ばかりである。數千年の光輝ある歷史を持つ大和民族も、猛烈な人口增加に苦しみたから今日のまゝでは到底存立が出來ぬ、外國移民もよろしい、內地移住も素よりよいが、これには直ぐに行詰まりが來る、否現にすでに行詰つてゐる。產兒制限の如きも一應は考へられぬではないがこんな消極的な考へでどうなるか、人口增加の多

工業の大振興

原料地滿蒙

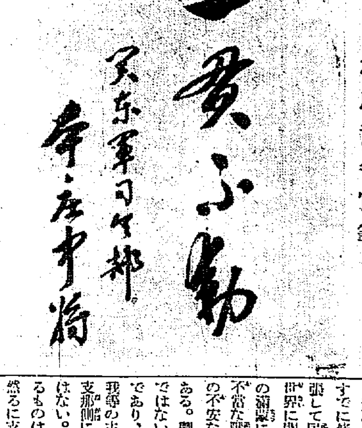
今後我國が

何時迄續く

隨分多額の

支那を反省

我主張は正大



―本庄司令官筆―

年頭所感

朝鮮軍司令官 林銑十郎

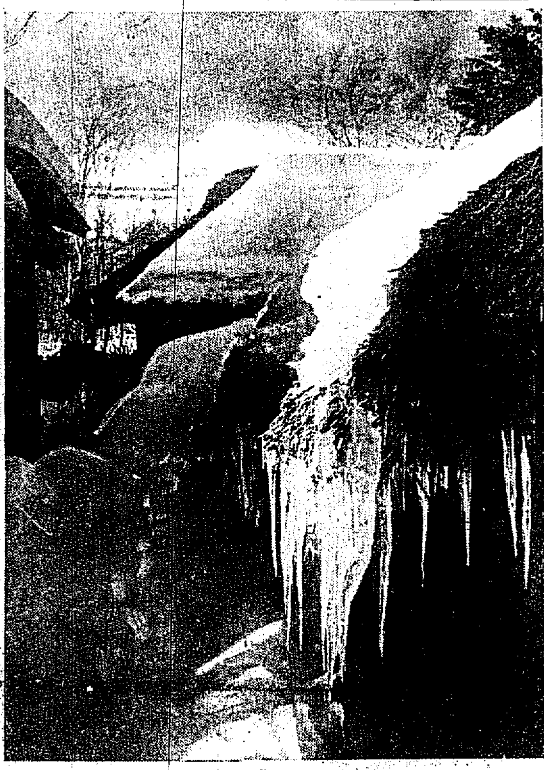
茲に昭和七年の新春を迎ふることは誠に御同慶の至りである。扨て回顧すれば昨年は極めて多忙且つ重大なる各種事件發生の歳で就中滿蒙に關連したる問題がその最たるものであつた。即ち萬寶山における支那官民の鮮農壓迫事件の餘波は鮮内に及び鮮支人衝突の不祥事を惹起し次て奉天の一角における支那軍隊の計畫的滿鐵線破壞に端を發し滿洲事變の勃發を見我が朝鮮軍にありても情況上第二十師團の一部を出動せしむるに至り今尚編成中である事は諸君周知の事柄である抑々今回我が軍の出動たるや誠に多年の懸案換言すれば支那官憲の不誠意に基き犯されつゝある我が既得權益の擁護と滿蒙在住百萬の同胞の保護に基くもので眞に正義人道の發露に外ならないのである、從つて我軍としては日支兩國の國交斷絕に至らしめず以て滿蒙に於ける禍根を將來に絕つべき縱戰的方策を講じ之に依りて日支兩國目下の難局を打開し禍を轉じて福となし東洋永遠の平和を招來せしめたく努力してゐるのである。而して滿洲に出動せし我が部隊は絕大なる勞苦と艱難とを物ともせず或は長春吉林に將た又遠く昂々溪、齊々哈爾に轉戰して武威を發揚し暴戾なる支那軍を膺懲し滿洲各地に出沒する馬賊を掃蕩し逐次出動本來の目的を達成しつゝあるは眞に感激已まざるものである。

翻つて事變勃發以來我が國民の狀況を見るに內鮮融和擧國一致の實を擧げこの一大國難を打開せんと奮闘しつゝあるは誠に同慶に堪へない今や滿洲は險惡にして而も馬賊隊の横行、別動隊の跳梁は益々甚だしく本事變の完全なる解決迄には猶ほ幾多の紆餘曲折を辿り極めて長時日を要する事と思ふ、これがため益々擧國一致の團結を以て進まねばならん然らざるにおいては折角今日迄の努力も水泡に歸するであらう。聊か所懐を述べて年頭の辭とする。

滿洲派遣軍の迎春

雪と氷の荒野に 萬歲の聲高く

陣中それぐのお正月



『勅題―曉鷄聲』

年と共に信念を固む

―大御心に應へ國民の期待に副はんと念ず―

關東軍司令官 本庄繁

皇軍の武威

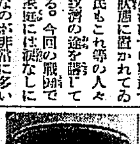
―國民大衆の溫い同情と救援は永久的で欲しい―

朝鮮第二師團長 多門二郎

正義に生く

國論の統一を熱望

支那駐屯軍司令官 香椎浩平



謹賀新年

京城府本町一丁目 裕豐商會

日本勸業證券株式會社 京城支店

合資會社 近澤商店

酒類 パツカス

片岡印刷所 片岡龜次郎

合資會社 野津集文堂

京城本町二丁目 みのや呉服店

林田金次郎

朝鮮製綿會社

クームヒン

料理 江戶川

合資會社 日音堂時計店

京城消防組 組頭 大村百吉 副組頭 荒井初一 重村源之助 小頭 佐藤貞 竹山石 小谷仙太郎 同

京城食堂組合員一同

時計眼鏡商 ハナオカ商行 京城府長谷川町

朝鮮農林事務所

三井合名會社

近藤ラヂオ商會

株式會社 大澤商會 京城支店

高木鞄店

日韓書房

辰巳礦油株式會社

二見旅館

朝鮮土地信託株式會社

荒川醫院

金輸再禁と我が財界

一切犧牲を忍ばすは本末の顚倒だ

「陽春布德澤」といふ風に財界を進めたい

大藏大臣 高橋是清

昭和七年の新春を迎ふるに當り年頭の所感として一言致します

[illegible]

物價

[illegible]

犧牲

[illegible]

働き

[illegible]

再禁止の影響

[illegible]

◇…貿易

[illegible]

◇…爲替

[illegible]

財政上の失敗

[illegible]

物價の騰貴と爲替は相殺される

金再禁止と我財界

前大藏大臣 井上準之助

[illegible]

思惑買と貿易

[illegible]

世界經濟の變革と鮮滿財界の前途

朝鮮銀行總裁 加藤敬三郎

(一)

[illegible]

(二)

[illegible]

(三)

[illegible]

(四)

[illegible]

(五)

[illegible]

財界動向の今後

不況はなほ續く 整理緊縮を續けよ

日本銀行總裁 土方久徵

[illegible]

(完)

謹賀新年

京城質商組合

東洋畜産興業株式會社

京城府公平洞 大昌貿易會社 電話光化門六二〇・二二七七・四三七 大昌貿易會社劃線開張所 電話光化門六九九

京城印刷組合
井上商店
岩田鐵工所城分工場
初田活版製造所
株式會社日本紙業京城支店
秋原洋紙店
ネグルト商會京城支店
大倉洋紙店京城支店
中山洋紙店
矢野商店
合名會社萩野商店京城支店
合名會社近澤商店洋紙部
大和商會印刷所
大養印刷所
大海堂印刷株式會社
早坂製本所
西村印刷所
西尾印刷所
近澤健藏商店
太平堂印刷所
越智印刷所
大谷印刷所
大塚商會印刷所
門田コロタイプ製版所
片岡印刷所
共盛堂印刷所
谷岡印刷所
北内印刷所
田村日進堂印刷所
山口印刷所
山田印刷所
松本印刷所
船津製本所
江里口印刷所
朝鮮印刷株式會社
合名會社近澤商店印刷部
佐藤印刷所
京城日報社
朝鮮總督府印刷所
篠崎商店
京城荷札製造所

京城女結髮組合

京城府錦町七六 坂田商會 京城出張所 小山セツ子 電話本局四四三番

京城羅紗組合

京城府本町二丁目 婦人子供服専門 ギンザ洋裝店 電話本局三四四四番

京城府南大門通三丁目 共同火災保險株式會社 京城出張所 長電話本局一七七八番

京城府若草町 西本組京城支店 電話本局二九五六番

京城府明治町二丁目 京城美粧院 京城府本町一丁目 京城美粧院支部 主任 柴田のぶ

朝鮮一のオモチヤ屋 子供屋 京城本町ビルヂング 電話本局二一四八番

京城府本町二丁目 割烹 清香園 電話本局六・三六〇 清香園別邸 京城府清雲洞 白雲莊 電話光化門三三四・一三八八番

京城水産株式會社

京城府長谷川町 第一生命保險相互會社 朝鮮支部長 渡邊退助 電話本局一三三四番

京城齒科醫師會

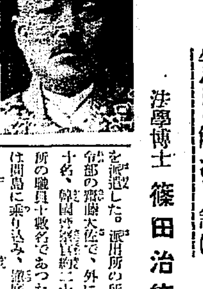
京城府本町二丁目 (五) 岩本漆器店 電話本局一一七四番 振替京城三一五九番

京城驛前 笑福旅館 電話本局一五五一・三六一一番

京城府本町三丁目 京城演藝館 分島周次郎 電話本局一五一四番

間島及び滿蒙
妥當な解決を急げ

法學博士　篠田治策



間島と滿蒙を如何にすべきか。此の問題は東洋永遠の平和の爲めに、三千萬在住者の安寧幸福の爲めに、速かに解決を要する問題である。殊に今回の滿洲事變の善後策として國民は一致して此の解決に當らねばならぬ。

筆者は曾て日露戰役中旅順攻圍軍に在つて國際法事務に從事し戰後滿洲に於ける外國人私有財産整理委員會の委員の一人として滿洲に在勤したことがあり。殊に間島に統監派出所を設置したる際、間島に入りて韓民保護に從事したる關係上、滿洲及び間島の其後の變遷に對しては無關心であり得なかつたのである

間島が清國に屬するか、韓國に屬するかは兩國間の數十年來の懸案であつた。韓國が日本の保護國となり、韓國の外交を日本政府が司るに至つたので、時の韓國政府は伊藤統監に、此の問題の解決及び在住韓民の保護を依頼した。伊藤統監は取敢ず、清國官民の壓迫及び馬賊不逞漢の掠奪に對して、不幸なる韓民を保護せしむべく、間島に統監府派出所を設けて保護官を派遣した。派出所の所長は軍司令部の齋藤大佐で、外に憲兵約五十名、韓國巡査約二十名、派出所の職員十數名であつたが、一行は間島に乘り込み、徹底的に韓民の保護に從事し、韓民の生命財産に關する問題は、事の大小輕重を問はず積極的に行動して一歩も假借せざる方針を採つた。之れが爲めに我憲兵と清兵との間に屢々銃火を交へ、清兵を射殺したこともあつた。當時清國側は兵員漸次を增派して四千五六百名を有し、馬賊と撰ぶところ無き不規律なる彼等の傍若に對しても我憲兵は僅に五十名の憲兵（後に漸次に二百名に增員したが）を以て東奔西走、成る得る限り韓民保護に努めたのである。

日本と間島

間島に統監府派出所を設置したるは、今より二十六年前である。統監府派出所員は間島に行動すること二年二ヶ月にして、日清兩國政府間に『間島に關する協約』成立し、間島の領土權が清國に讓歩した爲め、一行は間島より撤退したのであるが、抑もこの領土權讓歩が對支軟弱外交の始まりであつた該協約によれば、韓民の生命財産は完全に保護せられ、雙方人民の往來は自由であり、吉會鐵道も敷設せらるゝ約束であつた。然るに筆者等が間島撤退後既に二十三年を經過したが、其の間朝鮮人は約五倍に增加したるも、果して其の生命財産は完全に保護せられたか一昨年間島日本人會の調査發表によれば、既往約一ヶ年間に於てすら、朝鮮人の虐殺、掠奪、不法監禁等を蒙りたる事件は二百數十件に上り、殆んど無政府の狀態である。殊に吉會鐵道敷設の如きは敷設費一千萬圓を前借し乍ら、この金額は他に流用して二十三年を經過したる今日まで着手せぬのである

斯の如き多年の背信行爲に對して政府も輿論も、拱手傍觀の態度であつた。但し時には『愼重なる抗議』（？）を提出したと傳へらることもあつたが、口先きばかりの愼重なる抗議は彼等には馬耳東風であり、却つて日本の威信を損するのみであつた。政府は同胞を見殺しにするかとの悲痛なる叫びも、內地の識者によつて唱へられた。

認識の不足

然れども『日支親善』のためには多少の犧牲は忍ぶべきであるとの政府の方針らしかつた。昨年春朝鮮ホテルに於ける外務次官永井柳太郎氏の演說會席上、間島を繞して起つた曹秉相君の悲憤慷慨なる演說に對して、永井氏は一言もこれに論及すること無く、西にソヴエト共產主義國あり、東にアメリカ大資本國がある、その間に立つて日支兩國は親善であらねばならぬと、京城人士を小供扱ひにしたる演說を爲したるのみであつた筆者は何かいず不信の念を抱いたが、一面において政界諸流が對支問題に關して思慮淺薄、認識不足なるに驚かざるを得無かつた。

一葉落ちて天下の秋を知るが。筆者は昨年夏期に於ける不埒事件を聞いて、此行爲は文明國民の恥辱なるも、國民の憤慨その極に達したるを知り、何れの方面にか重大なる突發事件の惹起せらるゝを豫感した。果せるかな、昨年九月滿洲事變の突發を見た。帝國陸軍の機敏なる行動は大體機宜に適し二十余年來の陋追を反撥し得て、軟弱外交の失敗を回復する端緒を開くに至つたのである。

間島の處置

間島をどうするか？滿蒙をどうするか？此の問題に解答を與へねばならぬ時期に到着した。筆者をして率直に解答せしむれば、間島は特種の地域にして、間島協約も特種の事情によりて締結せられたるも、地理的には間島は滿洲の一部なるが故に、滿洲問題解決の中に間島問題の解決をも包含せしむべきであると思ふのである。斯くとも二十余年の經驗により、支那は間島協約を履行せず、又これを履行するの能力無き事實明白なるを以て、協約を破棄するか或はこれを改訂して、充分に治安を維持し完全に在留民の生命財産を保護するの途を講ずべきである。然れども間島を滿洲の一部とすれば、此の解決は枝葉の問題となるが故に先づ以て滿蒙問題の根本的解決を講ぜねばならぬのは當然である。

日露戰役前に我國國際公法の權威者たりし故高橋博士は滿洲中立論を唱へた。中立論は、日清露の衝突を豫防し、極東に永遠の平和を招來する爲め、最も必要なりとの意見であつた。又日露戰役中に、之れ亦國際戰時公法の大家故有賀博士は『滿洲委任統治論』を著し、滿洲は日本の委任統治下に在つて始めて平和を保ち其の開發を遂げ得べき物たるを論じたのである。更に又帝大教授の戶水博士は、日露戰役の終期に方りてバイカル以東割讓論を主張した。此の主張は日本が未だ露國に致命的大打擊を與へざりしにより、實現は固より困難なりしも、此の主張中には勿論滿洲割讓を含むものがあつた。又講和會議に於て確認められたる露國密約――滿洲を露國に割讓すべきしにして日露戰役前に探知せられたりとせば戰勝の結果として滿洲は當然日本の有に歸すべきものであつた三十年前に於て識者の卓見既に此の如く、且つ清國にも亦自ら滿洲を拋棄すべき意圖があつたのである

支那と間島

更に又滿蒙は歷史的に考察せんか、由來滿洲、蒙古は全然支那とは別の國である。蒙古の開國たるはいふまでもないが、蒙古は早くすでに滿洲に臣服したるが故にこれを論ぜざるも、滿洲はまた支那とは建國創業の基礎をことにし、言語をことにし、文字を異にし、風俗を異にしてゐる。滿洲の祖先は白頭山下天池の邊に降臨したる天女の出と稱せらるるも、この傳說はその祖先を神秘的となす爲めの神話にすぎずして、實際は長白附近より起つた馬賊の如きものである。後に鄂多里城により赫圖阿拉（今の興京）に出で更に瀋陽（奉天）に移りて次第に強大となり皇帝の位に卽き國號を大清と號したのである。その間、明の大兵をやぶり、朝鮮を降伏せしめて後顧の憂を絕ち、後遂に南下して支那を併存したのであつた。しかるに近時革命によりて大清帝國は瓦解し、大清皇帝が主權を喪ふと同時に、支那と滿洲との併存の連鎖は斷絕し滿蒙は無主の狀態となつたのである。支那の革命黨は革命當時に五族共和を標榜し、滿蒙をも中華民國の一部と稱したるも、固より中央主權の及びし範圍に非ず、張作霖は事實上の主權者となり、其の死後其の子張學良之れを襲ひて最近に至りしも、今回の事變によつて全然其の根據を失つた。故に現在にては滿蒙は事實上全然支那とは別個に存在せる無主の土地である。

『支那とは何ぞや』とは華府會議に提出せられたる疑問であつた。少くとも滿蒙の歷史を知る者は、滿蒙が支那の一部に非らざることは何人も知るところである。嘗て支那の革命黨が興漢滅滿の大旆を飜へし、宣統帝を脅迫して退位を餘儀無くせしめ以て新政府を樹立したる際、滿蒙に最も利害關係を有する我政府は、何故に滿蒙が支那とは別個の國たることを指摘し置かざりしかを怪むのである。前記清露密約を探知し得ず、又國家の安危に關する華府會議の際にも暗號を盜讀せらるるにも氣附かざりし程の善良なる我外交當局は、恐くは滿蒙の歷史に全然通曉せざりしならんと想像せらるるのである

更に亦大正四年の所謂二十一ヶ條協約締結の際、滿蒙を以て支那の一部たるが如き前提の下に調印したるが故に、今に於て滿蒙別國論を唱ふるは理論上妥當ならざるが如きも、今回の滿洲事變に依りて滿蒙は再び主權者を喪ひ無主の狀態となりしを以て、此の事實に照して善後策を講ずべきである。

妥當な解決

由來我國民の多くは滿蒙の歷史に疎く、四國九州が日本の一部なると同樣に滿蒙が支那の一部である如く信じて居る。此の謬見が引いて今回の滿洲事變を惹起せしむるに到つたのである。國際聯盟の滿蒙に關する認識不足に憤慨したる國民も、大多數は今猶此の謬見を脫せざるが如くである。政府の聲明にも、聯盟會議に於ける日本代表の演說中にも、滿蒙問題を支那と直接交涉する旨を屢々明言せるが、此等も皆滿蒙に對する認識不足より生ずる誤謬である。

然らば即ちその善後策如何は、直ちに解答を要する問題である。日本は滿蒙に領土的野心無しと我政府の屢々聲明せるところであるが、滿洲が東洋禍亂の根源となる毎に累を我國に及ぼすが如きは、國家自衞の爲めにも、權益擁護の爲めにも、到底忍ぶ能はざるのである。故に最上の方法としては有賀博士の說の如く、滿蒙を日本の委任統治下に置くことである。日本が門戶開放主義の下に、治安を維持し、產業の發達を圖り、各種文化的施設を增進せば、住民の安寧幸福の爲めに、これに過ぎたる名案はなかるべきである。滿蒙を搾取誅求の目的とする漢人野心家を除けば三千萬の住民は恐らく簞食壺漿してこれを歡迎するならんと思はる。然れども滿蒙に現在主權者無きを前提とする理論よりすれば、何人よりその委任を受くべきかは不明であるが故にこの案は實行不可能であらねばならぬ。故に第二案として、滿蒙に支那と分離したる獨立政權の樹立を歡迎すべきである。しかしてその最も理想とするところは、滿人中に一大英雄の出現するありて統一國家を創造するにあるが、若しその人を得ざれば、日鮮滿漢人を打つて一丸とする共和國の創立である。滿蒙に重大なる利害關係ある日本はその形式の何れにもせよ、三千萬住民の安寧幸福の爲めに、速かに新國家の成立を援助すべき義務がある。贅言は繰り返す。滿蒙に新國家の建立せらるるは、實に大衆人心の向ふところであると信ずるのである。若しそれ我機緣擁護の爲めに從來提出せられたる諸懸案の如きは、確乎たる新政府の樹立せられたる後において、妥當公平の見地より徐ろに商議を開いてこれが解決を圖るべきである。しかして從來不法に蹂躙せられたる諸權益にして事の急を要するものは、この際執行假處分等の手段によりてこれが救濟を爲し、新政府樹立後においてこれを追認確定すれば可なりである。間島の狀態改善に關してもまた同じである

（完）

一陽來復
天地皆春
香雪

―水野錬太郎氏筆―

一九三二年の國際展望（上）
國際不安增大
ファッショ化の大脅威
＝統制經濟確立の要望と議會政治輕視の傾向は世界的＝

全權大使　本多熊太郎

一

賴山陽は日本政記中の一論贊において『國の士氣有るや、猶舟の楫あり、舟の能あるが如し。舟能なければ覆り、家臣なければ傾き國士氣なければすなはち亡ぶ』と喝破してゐる。語は平凡であるが意義は千古の下味はふべきものがある。東洋の一小國を以て突如として國際生存の荒海に棹し、澎湃たる西力東漸の大勢を撃破し得て、僅々四十年の間に宇內列邦の一に列するに至つた明治日本の勃興も、一に維新の洪業の核心をなしたところの彼の『萬國と對立して國家を富嶽の安きに置き、進んで國威の波濤を拓開して皇威を八紘に展べん』との澎湃たる意氣の然らしむるところに外ならぬ。愚見によるに、國の士氣、國民の元氣なるものは、民族としての存在價値の認識に基づくものである。我等民族の生存價値がそれ自體において同時に世界文化の向上と人類福祉の增進に貢獻する所以を自覺することである。即ち、世界は

我等の國家、我等の健在と發展とを必要とするものたとの自覺であり矜持である。英國の詩聖テニソンは『最良なる世界人は先づ最良なる愛國者である』といつてゐるが、いみじき名言であるといはねばならぬ。善良なる愛國者にして始めて良個善良たる世界人たることを得るのである。日本一個の利害などにとらはれず世界全體の平和といふ大局高處に着眼せねばならぬとは流行的國際主義者の口癖であるが、よき愛國者たらずして如何でよき國際主義者たり得やうぞ。斯くの如きは言辭でのものとしてもすでに無意義なのである。一般に近年における我が國民の病根は、世界における自國の立場、自國の環境、從つて自らの民族的使命についての明確なる認識と自覺とを缺くところにある。換言すれば、今日の日本人は民族我の自覺と自尊心が足らな過ぎる。然も、自ら知らずして如何にして眞に他を知り世界を知ることが出來やう。我等は終始、一切の念慮を先づ日本に出發せしめかつ日本に復歸せしめねばならぬ。讀者と共に一九三二年の世界政局を展望せんとするに當つて予の先づ一言したきはこれである。

二

最近兩三年來の國際政局を展望して痛切に感ぜしめられることは不安の禍雲が年と共に益々濃厚となりまさりつゝあることである。昨一九三一年の後半においては極東の危機はいはゆる滿洲事變の形において破裂を見、世界の耳目を聳動せしむるに至つたが、危機はひとり極東の國際政局にのみ存したのではなくして、ヨーロッパの國際政局もまた嶮惡眞劇の危機を孕みつゝあつたのである。いな現に益々その切迫の度を加へつゝあるのであつて、一九三二年におけるヨーロッパの國際不安は一段と深刻化することはあつても決して緩和せられることはないであらうと豫想せられる。平和は何人も愛好するところである。平和を愛好する點において吾人も決して人後に落ちない。また世界の平和と

國際間の友愛を增進せんとする諸種の施設、努力に對しては我等と熱意とを寄せるに吝かなるものではない。然も國際現實は吾人の斯くの如き希望と謳仰とは相反する方向に動いてゐる。希望を以て認識を蔽ふことは出來ぬ。

巴里平和會議後今年を以て十四年になるのであるが、然も今日の國際政治が平和の軌道を步んでゐないとは如何にしても否むを得ない明々白々の事實である否、直言すれば、巴里平和條約そのものの中に不和破綻の因が含まれてゐるといふことが出來る。卽ち現下における國際不安の最大の原因の一は巴里平和條約――ヴエルサイユ條約改訂の問題といはなければならぬ。歷史的に觀れば、ヴエルサイユ條約は既に顚然と衝突期に入つてゐるのであつて、今日の歐羅巴はヴエルサイユ條約改訂を要望する國家群と條約保全を固執する國家群との二大キヤムプの尖銳なる對立を示してゐるのである

今年はこの條約の改訂論是が一層促進せらるべく從つて當然にそれだけ二大國家群の對立は險惡化するものと見ねばならぬ。

三

元來ヴエルサイユ條約にそれ自體においてかなりな無理を目してゐる。先同條約の前文には『大戰破裂の責任は專ら獨逸側に在り』と斷定、獨逸國民に對して『犯罪國民』の烙印を押捺してゐる。開戰の責任が專ら交戰國の一方に在り、他の一方は全然平和の羔の群であつたといふが如きは、恒久的若くは強制的の承認を得難い獨斷である。況んや獨逸國民としてはこれを以て忍びがたき侮辱となすは當然である。次にヴエルサイユ講和條約は、右の如く戰爭責任が專ら獨逸側に在りとする前提に基づき、苛酷なる賠償支拂義務を獨逸側に賦課してゐる。

賠償總額は最初は一千三百二十億マルクといふ實に天文學的數字に關する莫大なものであつたのであるが、其の後ドーズ案を經ヤング案の成立によつて、總額も四分の一の三百五十八億マルクに切下げられ條件も稍や緩和を見たとはいふもののゝ、ヤング案に依るもたほ五十八年七ヶ月の期限に年々二十億マルク乃至十六億六千六百マルクの巨額を負擔するの義務を負はされ獨逸國民として甚だに堪へがたき桎梏に呻吟しつゝある次第である。殊に世界的不況の結果による獨逸の經濟と輸出價値の昂騰、生產過剩と輸出不振、而して英國の在外投資等に上る外資輸入難』は、獨逸の財政經濟を極度の困窮に陷れヤング案所定の賠償金支拂を殆ど不可能ならしむるに至つたのである

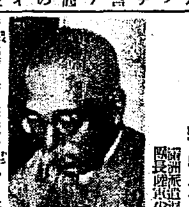
これ昨年六月米國**大統領**フーヴア氏のモラトリアム提案となり、七月のロンドン政治會議となり、八月上旬バーゼルにおける國際金融業者の會合となり、各國共自家防衞の見地からドイツ救濟問題に額を鳩めることとなつた所以であるが、然もモラトリアムとクレヂット延期の手段のみを以てしては到底ドイツ財政の破綻を糊塗し得ざることは、昨年八月ドイツ政府が大統領の緊急令を以て強度の經濟國家管理を斷行せざるを得ざるに至つた一事に徵するも明かであつて、ドイツ破綻の根本原因は講和條約の財政條項に在り、これにして改訂せられざる限りドイツの救濟は得て望むべからず、從つてまた當然にヨーロッパ國際政局の禍因は除去せられないと申さなければならぬ。ムッソリーニも昨年十一月二十五日、ナポリにおける演說中この問題に言及して『世界的難局はモラトリアム程度の一時凌ぎの對策では到底打開し得るものではない、難局の由つて來る源泉は全くヴエルサイユ講和會議が偏頗な條約を作り上げたことにあるから、同條約改訂及び獨逸賠償金規定の根本的修正を絕對必要とする』旨を**露骨に**力說して居る

その他ヴエルサイユ條約は國防問題に關しても、獨逸の陸上軍備を殆ど丸裸にし、徵兵制度の禁止、參謀本部の撤廢、航空隊潛水艦等の禁止、ライン右岸の非武裝化等、凡そ一般列國が享有する國防施設の自由を剝奪してゐる。而してこの國防剝奪の理由として『各國軍備の一般的制限の企圖を實現するため』と條約第五編の序文に明記してゐる。獨逸が剝奪されたる國防權の回復、國家平等權の回復を以て已みがたい欲求となしつゝあるは當然であつて、來る二月壽府において開催の豫定となつてゐるところの國際聯盟軍縮本會議は、この獨逸の國防均等回復の主張を中心として波瀾重疊の場面を展開するであらうと豫想せられる

斯くの如くして媾和條約改訂の要望は今や獨逸國の定策となるに至つてゐる。彼のヒットラーの率ゆる國民社會黨の目醒しき躍進の如きも彼等がこの獨逸國民の條約修正の**要望を**最も大膽露骨に標榜したが故に外ならぬ。獨逸の國民的要望はまた直ちに伊太利のそれであり洪牙利、勃牙利のそれである。しかして伊太利のフアシスチ政府がこれ等中歐諸國民の條約改訂要望に對して絕大の支持と聲援とを與へつゝあることは首相ムッソリーニの無遠慮な演說がこれを證明してゐる。然も一方においてはフランス及びその衛星的諸國は斷じてこの改訂要求に應ぜざる態度を示してゐる。條約改訂問題を挾んでの二大國家群の對立は、かくて獨逸國內における經濟困難の一段進展の事實並に聯盟軍縮會議の開催と相まつて、益々尖銳化し深刻化すべく、一九三二年のヨーロッパの國際關係を重大なる難局に陷れる危險が多分に在るといはねばならぬ。

重大使命を果さねばならぬ
犧牲者には氣の毒

滿洲派遣混成旅團長陸軍少將　嘉村達次郎



滿蒙北滿の野に新年を迎ふるに當つて遙に伏して謹みて天皇皇后兩陛下の彌ます御榮にを壽ぎ奉ると共に帝國々民の壯健を祈る。

顧れば昨秋事變突發以來、小官の部隊は[illegible]の如く奉天齊々哈爾に寄り、秩序整理と人心の安定並に資源の兵器彈藥その他軍用品の監視に努むること二ヶ月、一部隊はその後チ、ハル方面の戰鬪に參加し、八十餘名の犧牲者を出した。皇國の安危に際して一死これに報ゆるは固より軍人の本分ではあるが、部下に志ゆる小官が生き殘り前途有爲の士を失つたことは斷腸の念を禁ずるあたはず、遺されたる父兄妻子に對しては滿腔の同情をよせるものである。然し乍ら彼等戰死戰傷將士の功績は滿洲永遠の平和と共存共榮の礎となつて必ず解決も遠き將來であることを信ずる。しかして殘された問題は、今後の滿蒙に對して如何に處す可きかである。

明治大帝御遺業の一つである東洋永遠の平和確立の爲めに當局は勿論國民は更に一層滿蒙に對する認識を正しく深刻にし鞏固なる意志と相まつて滿蒙開發の重大使命を果さなければならぬ。小官はこゝに國民の滿蒙に對する決心と覺悟を促して年頭の辭に代へるものである。

京城府旭町二丁目四八　岸の寮　電話本局九四番

社團法人　京城放送局

京城府本町一丁目　三中井吳服店　電話本局 三七番 一二六番 五二九番 五九四番 三五三六番

和食專門　京城府黃金町二丁目（日本生命ビル內）　花月食堂　電話本局二一五七番・八六〇番

洋食專門　京城府長谷川町（公會堂內）　花月食堂支店　電話本局二一二六番

賀正

京城府長谷川町　大海堂印刷株式會社　東洋オフセット印刷株式會社

京城府南大門通三丁目　高瀨合名會社京城支店　電話本局二三八番・二三九番

京城府長谷川町　朝鮮製藥合資會社　電話本局一三〇九番

花園町公設市場

銀松亭

京城西洋料理屋組合

淺野太三郎

森永製菓株式會社朝鮮販賣所

京城府竹添町二丁目　三木合資會社　電話光化門 五九七番 二〇六〇番

資本金五百萬圓
日本共立火災保險株式會社
一、當會社は確實を本旨とし御便利に業務取扱可申候
一、當會社は損失を公平且つ迅速に支拂可申候
一、電話又は御一報次第社員參上可仕候
取締役會長　原錦吾
本社　東京市京橋區銀座西六丁目二番地五
京城出張所　京城府本町三丁目二九番地（電話本局長一五六六番）
出張所長　三鍋才次郎
鮮內代理店所在地　京城、仁川、水原、淸州、忠州、公州、大田、江景、[illegible]

京城金物商組合

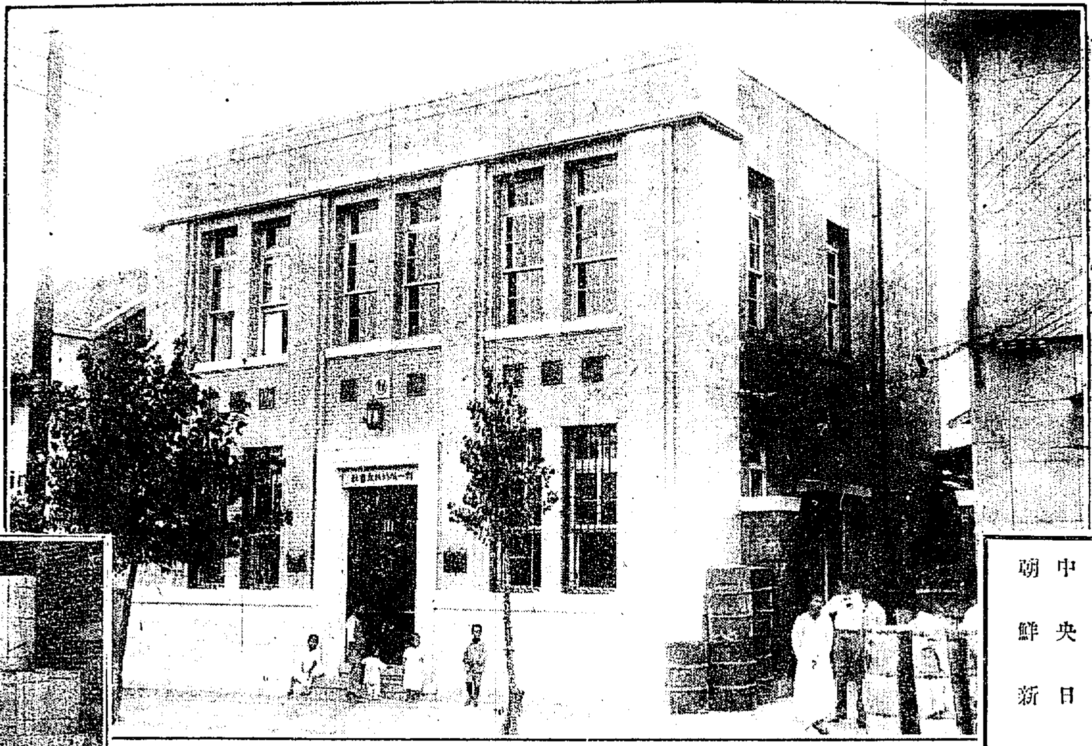
京城府長谷川町九一　盛文堂新聞舖　電話本局四二六番

京城府長谷川町　櫻麥酒株式會社出張所　電話本局三一九二番・三一九三番

京城府永樂町二丁目　共濟無盡株式會社

南滿洲鐵道株式會社　京城販賣事務所　京城府蓬萊町一丁目　電本一七七〇・一七七一

謹賀新年



本社營業所

新聞卷取紙倉庫の一部

市内主なる新聞卷取紙納入先

京城日報社殿
每日申報社殿
セウルプレス社殿
朝鮮日報社殿
東亞日報社殿
中央日報社殿
朝鮮新聞社殿

京城府蒔松洞二六番地
電話光化門(長)一〇三〇番
(長)一九九八番
六九〇番
振替京城八〇四九番
私書函光化門局第二八號
受信略號ケイゼウセン(カミ)
發信略號(セン)又セ(セ)

社長 朴興植

營業科目

新聞卷取紙一手販賣
改良朝鮮紙販賣元
和洋諸紙輸入卸商
各種白露紙、天井紙卸商
紙加工品及印刷原料卸商

京城日報 其三

窮民事業の一趣旨達成に努力
計畫を續して邁進

內務局長 牛島省三

地方自治の發達は官民の和衷協同と公民敎育の向上を必要とす。

內外共に多事なりし昭和六年を送り幾多の感慨を殘して乾坤一擲こゝに朝鮮神社第一次の新春を迎へ麗かなる旭光に浴して清新の氣自ら湧くの感がする。

畏くも昨秋皇大神宮から朝鮮神宮外五神社に御下御神璽を御下付になり、今回更に新に鮮內主要都邑所在の神社に對して相當優遇國に亘て御下付になる運びとなつたのであるが、時恰も此の新春を期して傳達せらるゝ事となつたのは偶然とは言ひながら何等かの瑞兆とも言へやう。

朝鮮全體に亘つて極めて意義ある新年
滿蒙問題も春の雪と共に解消する日も遠くはあるまい

伯爵 兒玉秀雄

官民一致協力に依り國民思想を善導
鮮內の治安確保が最喫緊事

警務局長 池田清

保合大和

宇垣一成 (署名)

試筆 梁豊助氏

發奮一番 その重責を果さん

鐵道局長 大村卓一

時局重大の裡に舊歲を送り玆に萬象一新希望に輝く昭和第七年の新春を迎ふるに當り一言所懷を述ぶるは私の光榮とする所である。

專賣事業は好調に發達
一層の進展に努力

專賣局長 土師盛貞

衛生施設

擧國一致して國體を擁護せん
在鮮當時の思ひ出話

伯爵 副島道正

京城日報社から新年號に在鮮當時の思出話をしてくれとの依賴だが、只今日新年の佳辰に當つて述べる程の思出話もない。只々新年に際して一言を述べて置きたいと思ふのである。

私は新春の佳辰に方つて京城日報社員諸君に御者諸君と共に國家の無窮を祈り奉り併せて國運の隆盛を祈るのである。

その廓清革新

言論界を

滿洲事變

多望なる新春

新義州稅關長 堂本貞一

親善

賀正

大田土曜會

東洋拓殖株式會社大田支店
朝鮮殖產銀行大田支店
郡是製絲株式會社大田工場
漢城銀行大田支店
大田電氣株式會社
日海興業株式會社大田支店
忠南無盡株式會社
大田金融組合
懷德金融組合
朝鮮興業株式會社大田管理所

大田榮町 稻永酒店
大田本町一 大田ゴム商會
大田驛前 かどや分店
大田榮町 末吉翠香園
大田本町一 齋藤金物店
大田春日町一 堀米商店
大田春日町 トミヤ洋品店
大田本町一 高谷商店
大田春日町 やつこ
大田春日町 公文堂書店
大田春日町 松本ラヂオ商會
大田 松浦牧場
大田春日町一 小林商店
大田春日町一 朝鮮ラヂオ普及會
大田本町 松浦屋
大田春日町 井町魚店
大田本町 三協商會
大田本町 原善紙店
大田春日町 土井洋服店
大田本町 あこ屋樂器店
大田本町一 風月堂
大田春日町 小暮洋服店
大田 階上食堂

大田驛前 菊水
大田榮町 王丸魚店
大田春日町 瀧川支店
大田榮町 寶來堂
大田本町一 鈴木書店
大田驛前 市原商店
大田春日町一 岡本魚店
大田本町一 川崎電氣商會
大田本町一 築出履物店
大田本町一 高田商店
大田驛構內 牛屋賣店
大田驛前 多田吳服店
大田驛前 島田吳服店
大田 湊印刷所
大田春日町 野々村印刷所
大田春日町 平井支店
大田春日町 中野寫眞館
大田本町一 長尾商會
大田本町 松華堂
大田驛前 田中洋品店
大田本町 近江屋商店
大田春日町 岡商店
大田本町 辰巳藥局
大田本町 西原自轉車店
大田本町 土井深商店
大田魚菜市場

大田產業組合
大田榮町 大田皮革株式會社
大田 福永寫眞館
大田春日町 柳家
大田 開進舘製絲場
中島鹿一
大田警察署
大田 加藤旅館
大田春日町 福田吳服店
大田 トラック組合
大田 芦田葬儀舍
大田 昭和印刷株式會社
大田 中島潔

年頭所感

渾然一家の實を擧げ一陽來福の途を講ぜん

前途の光明期して待つべし

殖産局長 渡邊忍

昭和六年 は不況に明けて不況に暮れた、産業界受難の年であつた。世の不況の後を承けて來るべき新年を、如何にして切り拔くべきかの問題に就ては、當局としても只管苦心を拂ふつてゐる所である。累年の不況は國家の財政にも深刻に影響し、延いて行財政の整理を余儀なくせしめ、産業上の施設も思ふに任せぬのは官民共に甚だ遺憾とする所であるが、此の如く財政緊縮に關聯せる際にも拘らず……

……く將來此等各方面と連絡提携し逐次開拓の實を擧げたいと考へてゐる

昨年の末 ……に設置された、農事試驗場北鮮支場の業績も、今のところ誠に有望なる成績を示し、將來高原一帶に對する農業移民、火田民の整理、甜菜糖業、酒精工業の特殊工業も中々有望と認めらるゝものあるを以て、更に試驗を進むると共に……昭和七年度より小規模ながら試驗的に、農業移民を收容する等の計畫が立てられたのである

朝鮮の水產業は、數年來年產額一億圓を超ゆ又漁業組合聯合會及各種水產組合の設立等、水產團體の……等に付ても相當見るべきものあり、累年發展の跡を顧ふに足るものあるも、決して前途安如たるべき趨勢に在るとは斷じ難い……

加ふるに 夥しき正貨の流出は……一般物價に對する下落を來し金鑛業の採算は極めて有利となり、官民共に金鑛の開發に關心を持つに至り、さらでだに本邦鑛域中最も有望なる金產地として囑目せらるゝ朝鮮の金鑛業は漸く活氣を帶ぶるに至り、出願件數の如きも昭和五年の約倍數の千數百件を算し好調裡に昭和六年を送つたのである。本府においても朝鮮の金鑛開發に付ては單に產金增加策としてのみならず、國家經濟、國際信用の向上發展等の見地よりと、朝鮮奧地の開發、文化の普及等の點より見る最も緊要事なるに鑑み、昭和七年度において金鑛業に對し、積極的獎勵施設を講ずることゝなり、その經費を豫算に計上されたのである。幸ひにして帝國議會の協贊を得るに至るを得ば、斯業開發に資する所蓋し尠少ならざるべしと信ずるのである

其の他の 鑛業は前述の如き事情により、概して不況を免れなかつたのであるが、石炭は鮮炭愛用の趣旨漸次一般に認識せられたると、無煙炭の內地需要漸く安定しつゝあり、……鐵は依然として不振を續けつゝあるは甚だ遺憾に堪へない所であるが、製鐵業は獨り朝鮮としての問題なるのみならず、國策として何等か適當の打開策を講ずるの要あるを痛感する次第である。黑鉛も需要の減退價格下落の傾向を免れざりしも、比較的平調裡に越し得たことは、不況時の今日として寧ろ喜ぶべきである

昭和六年の商工業は之亦世界的不況と緊縮政策との影響を受け、一般に萎微沈滯を免れなかつたのである。即ち貿易方面に付て見るも、十月末迄の貿易總額は四億二千五百萬圓にして、

昭和五年 に比し約一億三百……

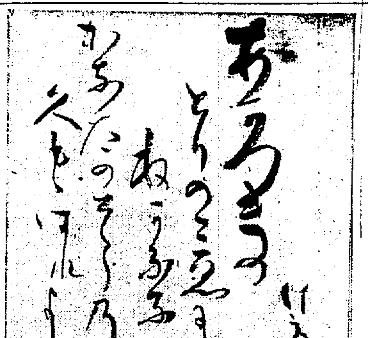
配給組織 の改善に付て想起せらるゝことは、昭和六年に於て多年の懸案たりし、取引所制度の確立を見たことである。元來取引所はその機能が複雜であり、又關係者の利害が交錯し、從來制度の不整備より生ずる弊害漸次擴大し……

小作制度 ／ **自作農の** ／ **殊に特筆** ／ **併し乍ら** ……

要之する に……

試筆

床次竹二郎氏



豫算の許す範圍內で重要施設を實現

遞信局長 山本犀藏

經濟多難、財政受難の昭和六年を送つて、多望なる昭和七年の新春を迎へた。茲に新年を回顧して新年への首途の第一步とし、以て……

……新施設へ、事業の進展への努力を期したいと思ふ。

○

併しながら ……

名勝史蹟に ……

航空方面は ……

新聞人として終始一貫した

思ひ起す辭表提出當時

東京日日新聞顧問 松岡正男

自分が初めて京城日報に入つたのは大正十五年十二月副島社長の時副社長として赴任し、……

未だ 余り生々しいので遠慮する人もあるだらう、社の事について云へば手前味噌のやうになるからこの際は差し控へたいと思ふ

只一言したい事は自分が社長に就任したのは昭和二年十二月三日第一次齋藤總督の時であつた、……山梨總督が同月十九日に着任して來られた、……京城日報にも田中內閣の提灯を持てと云つたやうな空氣が出て來た、社員の或者はこれに迎合した向もあつたが自分は常に新聞の使命は不偏不黨嚴正公平なるべきものである

殊に植民地の新聞においては政爭に卷き込まれる如き事あつては由々敷大事である、かりそめにも自分が

主宰 する京城日報を政黨……

解職願 拙者は新領土の統治は中央の政爭に超越せざる可からざるものと確信仕候この信念が不幸にして容れられざる以上は閣下に止まるは拙者も亦快とせざる所なり、依つて御解職被下度奉願上候也

昭和二年二月廿五日 京城日報社長 松岡正男

山梨總督閣下

而して自分は飽までも新聞人とし……

選擧 ……

さらに ……

犯罪防止

社會の明朗健全は一に全國民の覺醒

法務局長 深澤新一郎

茲 に昭和七年の新春を迎へまして……

此 ……

其 ……

當 ……

而 ……

之 ……

獨 ……

扨 ……

約 ……

電氣事業の ……

該調査會 ……

右は孰れも ……

西山信 京城府漢江通一〇番地

龍山質屋組合

合資會社 福壽洋行 京城府大島町一番地

京城府漢江通一五 盛文堂龍山支店 加藤吾市 電話龍山四一四番地

大正コンクリート工業所 京城府岡崎町

淺川酒造場 淺川巖次 京城府岡崎町

賀正

野崎肛門醫院 京城府岡崎町七 電話龍山九九二番

林菅吉 京城兵器株式會社

川崎鐵網工場京城出張所 京城府古市町四三 電話本局二五五七番

龍山榮町 製菓 松華 電話龍山九二八番

三幸洋行 山名松太郎 京城府岡崎町七〇

龍山精米所 京城府岡崎町九二 電話龍山三六番

京城左官組合

京城內地人辯護士會

京城府旭町二丁目 川長 電本二七八五・二七八六番

藤澤商店京城支店 京城府西小門町 電話本局二四五〇・七四二番

京城酒類卸商組合 （イロハ順）
京城府公平洞 河野本店 電話光化門三四五番
京城府明治町二丁目 山邑酒造會社支店 電話本局八四九番 一四五四
京城府本町二丁目 山本酒店 電話本局五七五番
京城府本町二丁目 株式會社 前田商店 電話本局一三七番 七六四
京城府長谷川町 株式會社 增田屋支店 電話本局三五四 七九六番

大日本人造肥料株式會社 京城出張所 京城府黃金町二丁目

京城府本町二丁目 鳥料理 喜久家 電話本局一三八三番

永樂町市場

京城府旭町二丁目 中河原重吉 電話本局一五六七番

東京火災保險株式會社 京城支店

壬申新年紙上名刺交換會

有賀光豊 朝鮮殖産銀行

榛葉孝平 朝鮮總督府

李田建義

萩原彦三 朝鮮總督府

矢鍋永三郎 朝鮮殖産銀行

原田穎太郎

多田榮一 朝鮮土地改良株式會社

西岡芳次郎 朝鮮總督府

中屋重樹 京城電氣株式會社

野田董吉

深澤新一郎 朝鮮總督府

井上清 京城府尹

中村寅之助 朝鮮總督府

兒島高信 朝鮮總督府

池田清 朝鮮總督府

[illegible]

橋本左太郎 朝鮮總督府

[illegible]

中山秀一

[illegible] 株式會社三越京城支店

田村作郎

朴榮喆 朝鮮商業銀行

松本清次郎 京城府會議員

矢島茂右衛門 十八銀行京城支店

[illegible]崎濱之助 松竹直營大正館

廣安重都

山本犀藏 朝鮮總督府遞信局

平井熊三郎

近藤雄郎 京城郵便所

中野太三郎 東洋拓殖株式會社

宮林泰次

中村郁一

吉岡定次郎

住井辰男 三井物産株式會社京城支店

山本好造 朝鮮殖産銀行

[illegible] 大熊[illegible]商店

平山政十

[illegible] 第一銀行京城支店

穗積眞六郎 朝鮮總督府

[illegible] キリンビール會社京城支店

堀内滿輔

武智弘方

森悟一 朝鮮貯蓄銀行

近藤安吉

當八千穂

釘本藤次郎

[illegible] 朝鮮鐵道株式會社

篠田治策

[illegible] 不二興業株式會社

大久保繁雄 三菱

戸澤又次郎

谷多喜磨

渡邊得司郎 東拓

[illegible] 朝鮮殖産銀行

水田直昌 朝鮮總督府

古城龜之助

[illegible]

[illegible] 株式會社漢城銀行

松本伊織 朝鮮總督府

[illegible] 朝鮮殖産銀行

昭和七年の美術界

帝展—二科—院展その他

異變ありやなしや？

川路柳虹

何ごとも豫想といふものは六つかしいものだ。それが當るか、當らないは別として、當て推量で言ふことの豫測されない突發事も起きて、天下の形勢俄然變ることは往々ある。

美術界などゝいふところは政界などゝ違つて平穏であるべきだが美術行政問題になるとこれもはつきりとわからない。が、先づそんなことは別問題として、藝術そのものゝ問題について考へてみる畫界の傾向推移に何らかの異變ありや、或はなしやといふやうなことに就て……

帝展と作家

今日では、およそ美術界の分野なるものも定つてゐる。今のところは矢張り美術上の勢力を中心にしてその種々なる傾向を整理してみるよりしかたがない。なぜなら大半の美術家は何らかの團體に據つてをり、その發表機關によつて作品を發表し、その作品によつて思想を表現してゐると見ねばならないからである。

さういふ意味の團體の上で、何にしても一番大きいものは帝國美術院によつて統轄さるゝところの帝展である。帝展である。帝展は勿論政府管轄の團體ではあるが、これは會員と出品者より成るだけで、その出品者は他の團體へ加はつてはならぬといふおきてはない。二科會などは今以て帝展に出陳する作家は二科へ出品することを得ずといふ嚴重な制裁がある。が併し、帝展に集るものはおのづから帝展を本位とするのが自然であるからいはゆる無鑑査級の作家は他の團體の會員なり會友(院友)に相當する中堅と見做すことが出來る。從つて會員といふ勅任官以外にこの中堅作家が帝展の勢力を握つてゐるは無論である。

帝展は年々とも新しき作家の入選によつて新彩はとり入れられつゝあるが、いはゆる審査を以て鳴る自然推移は期せずして帝展型の作家の續出を來す。この傾向は恐らく本年も變るまい。日本畫部においては在野の院展に、洋畫部に於ては二科會、春陽會、國畫會等に、彫刻に於て構造社、院展その他に對立する各部をもつが、少數の作家をのぞくと依然として力倆はむしろ在野團體の下位にある作家の方が多い、しかし何にしても數の多數では第一である。而して又最も大衆的な點に於てこゝの第一部日本畫の如きは依然那畫界の勢力を握つてゐると見て差支へない。特に大衆の政府或は中心の立ちい。消えない限り帝展の社會的勢力は到底在野の團體が束になつても及ぶ處ではない。

○

が、その日本畫部も現在の會員や、中堅數氏によつて實的共展が築かれてゐるので、この點二曉打ちをするなら院展と伯仲であらう院展が現勢力を持す限り、帝展を向ふに廻す取組は嶋々たるものだ。事實の作品に於て昨年の大觀、古徑、關雪氏ほどの作品は帝展會場に見受けられなかつた。會員となつた諸氏は或は地位の安住から敢て御作の冒險を試みないのかも知れないが、帝展會員が新派當目の作品を發表すること乏しいに比して院展の大觀、古徑、靑龍社の龍子諸氏の力倆はむしろ我畫壇の重心を作つてゐると言へるであらう。

帝展が期待とする所の作家は今後會員よりむしろ中堅作家になくてはならない。第二の帝展の柱石はまた當然それらの人々によつて作られねばならない。橋本關雪、土田麥僊、堂本印象、福田平八郎、伊東深水、蔦谷龍岬、矢澤弦月、川崎小虎、矢野橋村、小野竹喬、梁木一洋、山口蓬春氏らはいはゆる帝展派作家の中にあつて嶄然頭角をぬきんでゝゐる。昨年は關雪、平八郎、龍岬、紋月氏らに出品がなかつたが、國展解散以來土田麥僊氏が年々意識ある作を出陳してゐるのは帝展にとつて充分よき新彩を加へたものと言へる。鏑木清方氏も刊來その所論を注目されてゐるが恐らく帝展へ復歸するものと見られてゐるから、本年あたりは氏の製作が新に帝展の壯觀となるかも知れない

昨年川村曼舟氏が新に帝國美術院會員に推されたが、こゝらにも帝展の商質あり、梧風門の栗翁氏に對立するものとして栖鳳門から曼舟氏が選ばれたのだらうが、同じ京都から加はるゝなら太島櫻谷氏あり、横大關雪氏ありで力倆から言へば當然關雪氏を推してよからう。今年は逝くなつた小堀鞆音氏の缺員も出來たから氏から推すべきが至當であらう。

院展その他

院展へ行くと觀山氏逝後は兩巨頭の一方が無くなつたが、横山大觀氏依然總帥の格で今年も同じやうな采配を振ふ事であらう。大觀氏が帝國美術院會員になれないからと言つて帝國美術院會員になる老人の名譽職を投げたとして大觀氏たるもの少しもうれしくはないだらう。が、在野團體としての院展の存在は終始一貫してゐるところに價値がある。帝展式に何でもぶち込むといふやうな行き方でなく質實な個性的創造を本位とする立場から作品を採擇してゐる方針は院展の趣味である。院展も可なり作を經たがこゝでも中堅作家が武山氏や大觀氏等の古くからの作家と代つてその柱石にならうとしてゐる。そのかつての大立物であつた川端龍子は新興勢力の巨頭であつたが爲めに院を去つた。今日の院展の中心は大觀氏を除くと小林古徑、安田靫彦、速水御舟、前田靑邨、富田溪仙諸氏あたりから中村岳陵、遠藤教三、堅山南風氏あたりまで延長して來た。その後の新人は一二目星しい作はあつてもまだ院に重きをなす程の人が出ない。この點で川端龍子氏の脱退は院の一柱石をたしかに失つたことを語るものであらう。

靑龍社は龍子氏の一人舞臺で思ひ切りの活躍をする點が愉快であるが、こゝにも相當目星しい後進が養成されてゐる。本年あたりさういふ人々の活躍がもつと目につくであらう日本南畫院は小室翠雲氏によつて統轄されてゐるが、その多くの作家は帝展へ出すのだから院展ほどの獨立性に乏しいのも仕方ないとして、所謂新南畫の臨も最初ほどに熱意が薄らいでゐる感じもする。この會だけに據る人々としては石川寒巖氏とか、水越松南氏とかゞもつと獨特の作風で特色を作るのが宜しからう。」

洋畫の各團

眼を洋畫壇に轉ずることゝにも新時代が相當行はれてゐる。帝展に於ては帝展會員が重きをなすのは一部分で、藤島、南薫、和田へ三造、南、諸氏に時折生彩ある作品を見ても帝展の重きをなすものを余り見ない。田邊至、金山平三氏らは穩健ではあるが力には缺げてゐる。片多徳郎、牧野虎雄、熊岡美彦、靑山熊治諸氏もやゝ殻が出來た。むしろずつと若い人々が今後の活躍を注目ざるべきであらう鈴木千久馬、中野和高、伊原宇三郎諸氏が眞の意味の中堅で帝展の新勢力となることは充分期待出來る。この點日本畫部の院展に對抗するより以上に帝展洋畫部は二科に押されてゐる。所謂大衆的後援はあつても質的稽抗を本位とすれば二科の會員の方に遙に有力者を見出す。

が、その二科も又第二の新勢力が擡頭した獨立美術協會は脱退派を見たのだ。獨立美術協會を退して二科を去つた兒島善三郎、林重義、中山巍、里見勝藏及び國畫界からの高畠達四郎氏等の新しい結成は洋畫壇の分野を或る意味で縱斷したものである。今日の二科は依然安井曾太郎、山下新太郎、石井柏亭、有島生馬、正宗得三郎、津田靑楓諸氏の會員が中心だがそれに代る新勢力はずつと後進の人々である。たゞこの會の强味は新進の作家をよく咀嚼する點にある。從つてさういふ人から今後どんな人が出るかも知れぬが、たゞ昨日新しかつた人々も年と共に褪色して行くことは歎かはしい。中川紀元、黒田重太郎、鍋井克之諸氏がもつと活躍してよいと思ふが夫程でない。高野三三男、里見

國畫會は會として小團體だがこの梅原氏と又能筆の作家川島理一郎氏を有するばかりに充分特色ある團體となつてゐる。」

○

春陽會は會員も相當多く春の大展覽會の一つとなつたが、その中堅はこゝでもやゝ動きつゝある。山本、小杉兩元老はあつても活躍の中心は長谷川昇、足立源一郎、木村莊八氏等に擱つてゐよう。しかして更に新たな中堅が岡伊之助、小山敬三、林倭衛諸氏等を中心として作られつゝある。小山氏は日本でより巴里の畫壇の一部でずつと高く買はれてゐる。が、春陽會には會員一致の和氣がある。これは頼るうらやましい。

獨立美術協會、一九三一年協會共に洋畫壇の濁流性を示してゐるが、分裂させへなければこの中から次期の畫界の牛耳をとる人も出やう。今年あたりがその兆候の見ゆる年であらう。

彫刻界一瞥

彫刻界については甚く保守的がなくなつたが帝展に云ふところでも分野ははつきり定つて終つた。帝展は中でも一番所謂新々としてゐる目星しい作が少しも出ない。それに比すると院展二科の方がやゝ生彩あると同時に構造社の進出が最も際な歩みを見せてゐる。

二科の原川眞淵氏、院展の石井鶴三、國展の金子九平治氏等今日までは深々たる地歩を作つて終つたが、その後進となると大分距離がある。二科の岡田、後藤の諸氏がやゝ頭角を示してゐるが院展には却つて古い作家の方がしつかりしてゐる。これらに比すると構造社は建築構成記念的造形の諸作の上で一特色をもち、國氏をはじめ日名子、陽、濟田、雨田の諸氏に充分の期待と活躍が本年も望まれ得ると信じる。これらがざつとした概觀である。

夜があけた　鶏が鳴く

新春

中河幹子

昭和七年の春となりぬれ心よりか貴々と空も光に滿ちて

△

正月と庭の日向に子も出て羽根つき遊ぶ三人子らと

△

父も呼びて親子遊べば何にはなし羽根つくさへにあまた笑ひて

△

うららと元日の日の晴れたるに爆音たててとべる飛行機

△

爆音のつねより高し仰ぐ空の背き飛び來る編隊飛行機

謹賀新年

仁川組合銀行
朝鮮銀行仁川支店
朝鮮殖産銀行仁川支店
朝鮮商業銀行仁川支店
安田銀行仁川支店
株式會社十八銀行仁川支店

仁川海岸町
株式會社仁川米豆取引所
電話一四一・一八七・七五三番

株式會社仁川米豆取引所
取引員組合
○ 柔野健治
㊅ 堆田義浩
ス 新田仁民
㊄ 金淵紋梧
㋮ 菰海清七
㋒ 内多柳三藏
ヌ 竹林幹郎
㊢ 小三

仁川汽船株式會社　仁川本町　電話五一番
福島組　仁川本町　電話長五三番
合名會社朱命基精米所　仁川柳町　電話三八一・九四六番
矢坂　仁川東公園　電話三六番
株式會社增田屋商店　仁川宮町　電話一〇九番
中條榮藏　府會議員　仁川花町
增井榮治　府會議員　仁川濱町
仁川信用組合　仁川龍里　電話七一六番
ミナト自働車部　仁川府新町　電話六〇五番
三榮組　仁川港町　電話四七三番
宮本茂三郎　仁川府外長意里　電話七五三番
磯永洋服店　仁川宮町　電話二二五番

仁川濱町
朝鮮運送株式會社仁川支店
電話長五二・長三四八・一四三

仁川花町
奥田精米所
電話六〇八・七〇五・三六七

仁川米豆取引員組合
委員長　桑野健治

仁川穀物協會内
㊆ 仲立組合
樋口勘右衛門、木下德三、田岡留吉、本村爲一郎

仁川酒造組合

仁川稅關長
神谷小一

朝鮮海事會仁川支部
船舶給水部
部長　太田忍

辰馬汽船株式會社代理店
本店、京城。支店、鎭南浦、釜山
仁川府本町四丁目二番地
株式會社朝日組仁川支店
電話長五二九番 六八二番 九六四番
電略(ア)
振替口座京城六一一番

石垣廉
大阪商船仁川支店

仁川府山手町
府立仁川病院
院長　醫學博士　岩井勝三郎
電話一六・一〇二四

仁川商工會議所
會頭　吉田秀次郎

仁川穀物協會

㊒ 塩
品質の良好
斤量の正確
色澤の純良
桝目の浮立
價格の低廉
專賣局仁川出張所

仁川府桃山町四七
金剛鶴　金剛燒酎
朝日釀造株式會社
電話一六〇・四二五・二〇六

仁川山手町
太田忍

仁川米豆取引所
專務取締役　秋山滿夫

京城日報　其四

猿に就いて

理學博士　石川千代松

『一つ長崖の左右兵衛殿四國を廻つてサルとなる』と私共が子供の時には能く歌つたものである。この人間がサルになつたといふ事はそれはダーウヰンの進化論の反對ではあるが、それでもサルと人間とがよく似たものであるは事いふまでもない。大體では又サルは人間より三本毛が足りないといふが、三本とはどうして算へたか知らないが、少くともサルの方が人間に比べて毛が多いと思はれるものである。何れにしてもサルは動物の内では人間に最も近いものであるとは疑ひない事實でそれは誰學者持ちが惡くても致し方のない事である。誰も自分の先祖がサルであると云はれるより神であるといはれたいのは人情で人間は何れの國に行つても自分の先祖を神様だの先祖は偉かつたと云ふことを悦ぶものである。であるから、人間だけは神様が御自分の形に似せて造られたのであるといふ様な事を考へて悦ぶものもあるが、そんなことで悦ぶものは悦ばせて置くが宜しい。誰かの言ひ方に Man made in the image of god, is also made in the image of an ape といふた。本統にさうで人間が神の形であるならば神様もまたサルの形にになる譯である。神が人間を造つたと思つてゐる人は夫でよろしいが、斯様な人は人間がこの世に出て來なかつた前には神といふやうなもの考へられなかつたのであることを知らない人達である。

斯んなことは如何であつてもよろしいが、我々人間に最も近いものはサルである。するとこのサルといふものは如何なる動物であるかといふと、それにも澤山の種類がある。その第一のものからいふと、アフリカの東方にある大きな島でマダガスカールといふところがあるが、この島に産する動物でモグラ、ハリネズミ類の入つてる食虫類に能く似たサルの様な獣がある。その多くは余り大きい動物ではないが、種類は澤山出て、大概樹木の上に棲んでゐる。

この類のものは一方にはサルに似て居るのでこれに擬猴類といふ名が附けてある。

この擬猴類は今いふた様にマダガスカールに澤山居るが、アフリカの大陸にも幾らか居るし、又印度とその島々にも居る。ところがこの動物は地質學者がいふ第三紀のはじめの頃から歐米の地層から出て來るもので、その頃すでに澤山居たものである。けれど其その始めの頃のものは一般に食虫類に似て居たものである。してこれが今日の様な分布をしてゐるのは或は第三紀の頃には印度洋の海に大きな大陸があつて、それが沈下したのではなからうかともいはれたこともある。この大陸を擬猴類の名からレムリア（擬猴類をレールと云ふ）と云ふて居た。それでこのレムリアの殘つてゐるマダガスカールその他の島々に今日まだ棲んでゐるのではあるまいかと云はれてゐた。併しそれは間違ひで第三紀の頃にはアフリカもアジアも陸續きであつたことが後に判明されたので、レムリア獣の今日の分布はそれで説明されるのである。

擬猴類は斯様に面白い獣類で今も云ふた様に一方には食虫類に近く又一方にはサルの類に近ひもので、或る學者によるとその内のあるもの、擬猴類（第一圖）と云ふものが我々人間の一番遠い先祖ではあるまいかとも云はれてゐるのである。ではこの獣猴ケモノと名づけらるゝ動物は如何なるものであるか一寸書いて見ると、尖がアマガエルに似たところがあつて、その眼、その手足とその擧動までがそれに似て居るのは不思議である。その大きな頭は球くて、吻は長くないが少し尖がり、大きな口が眼の下まで裂けて居るところも蛙に似た點である。それにまたその非常に大きな眼もそれを蛙の様に見せるものである。してこの眼は多分獣類中では比較的一番大きなものではあるまいか。それはこゝにだした繪でも解る様に頭に驚くべき大きさで、顔の大部分が眼であるといふ事も出來る。それにまた耳殻も中々大きい。これ等に反し頸は短く、殆どそれがどこにあるか分らない位である。脳は細長く背中も大きく、前肢は短くその内でも上腕が殊に短い。併しその割に手が長い。それから手の指の長さが面白く、中指が一番長く、拇指は小指より短い。して手足の形と指の先きが吸盤の様な形をして腹がつてゐる。指には爪があるが足の趾では食趾と中趾とには鉤爪が生えて居る。それから又歯が他の仲間のものと違ひ普通のサルに似たところがあつて殊に面白いのは頭蓋骨の形で、それがサルに似て居るのである。

擬猴類の面白い事は其の擧動が如何にも不思議なのと、その習性の變つたところから土人はこの動物を惡魔であるとか又は惡人の魂が入つて出來た動物であるとかいふたり、又はその擧動が被捕などころからそれが獅子の様なものであつたとか或はアノ様に小さくなつたのだともいはれてゐる。スマトラの土人はこの獣は不幸を來たすといふて大層恐れてゐるといふ。

併し斯様な事の外にこの動物は頭蓋骨の形や胎盤と消化器官がサルと人間に似て居るのでそれが或は人間の先祖ではあるまいかといふものもあるが、これはさうでなく、このタルシラスに近いものがサルや擬猴類の先祖であつてそれから一方にはサルが分れて出たし又他の一方には擬猴類が出たのではあるまいかと思はれるのである。擬猴類にはこの外まだ澤山面白いものもあるがこれはまづこの位にして置き、これから本統のサルの事を少し話して見よう。

我々が普通サルといふものを大きく分けて二つにする。その一つは南米産のもので、これ等は廣鼻類といふ。この類のサルは今いふた擬猴類に近いものであるが、その名の様に鼻の孔の間が廣いといふのは兩方の鼻孔の間にある隔膜が厚いのである。それ許りでなくその歯が我々の歯と違つて三十六枚ある。誰も知る通り我々の口には各顎骨に八枚の歯があつて、門歯が二枚、犬歯が一枚と前臼歯が二枚に後臼歯が三枚あるのであるところがこの後臼歯の一番奥の齒知らず歯は人間により丸で生えない人がある。それは人間の歯は段々に減つて行くのでドチラといふとこの歯の生えないものが高等なものであるともいへるのである。私共もこの點では高等の人間であるといへやうか。であるから又歯が三十二枚あるのは此等である證據の一つである。それからまた廣鼻猿すなはち南米のサルの尾は多くは樹の枝等に巻き着くことが出來るのである。であるからその樹の上に居るものを見るのは實に面白く、クモザルといふ名のついたものの等ではそれが全くクモの様でその黒い體色で、全身がやせ手足が細くて長く、それにまた長い尻尾で樹の枝から枝へ渡るのを遠く下から見ると本統に大きなクモを見る様な感じがするものである。

であるからクモザルは古い時から廣く人が氣づいてゐたもので、南米の森林動物としては名高いものである。ところが此森林中に又今一つ有名なサルがある。此サルは土人はクルピラと呼ぶもので、それが森林の靈であると思はれて居るものである。アマゾーンス地方の動物の研究をして名高い英國の學者ベイツ氏は此のルとブラジルの森林につき次ぎの様な事を書いて居る。

『能く旅行日記などにブラジル森林が靜かで、陰鬱であると書いてあるが、これは本統にさうで、その森林中に長くをれば居るほど此感じが深くなる。鳥の僅かの淋しい不思議な鳴き聲は生きた樂しみを與ふるより反つて淋しい感じを増す斯様な靜寂の時急に吠へると云はふか、叫ぶと云はふか大きな聲が聞へて驚かされる事が往々あるがこれは、食菜獣がタイガーキャットまたは大蛇におそはれた時である。ところが朝夕吠へザルが最も恐ろしい傷ましい叫び聲で叫ぶのはだれも安心して聴いてゐられないものである。でなくても森林のさびしい感じがこの怖しい叫び聲で十倍にもなる。眞晝間最も靜かな時にも大木がたふれるかの如き聲が聞へる事があり、または堅い眞の木を鋼樹で強く打つ様にひどき音も時々聞へるのである。して斯様な靜寂が續くするのでなく途切れておこるのは一層不安の感じをおこさしめるものである』ベイツがいふの聲は吠へザルのなき聲であるが土人は今もいふやうにそれを森林の靈或はまた木靈のなき聲であるといひ、一般にそれを恐れるといふ。『一時日分は（ベイツ氏）土人の若者を連れて森林内に入つた事があるが、この青年は吠へザルの聲を聞くと直くに自分のウシロに隠れ、驚いて慄へた』と。

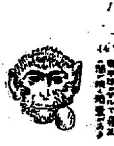
これは南米のサルを一寸紹介したのだがその東半球に居る我國のサル杯と違ふ所は今もいふた様に南米のサルでは鼻孔間の幅が廣いばかりでなく、頰嚢がなく、歯が三十六枚あつて、それに最も面白い事にはその胎盤が一つである。

併し斯様な事が隨等面白くても余り長く話してゐると本統のサルの事を話す時がなくなるから、これから我々が常に見るサルとそれより一層高等の人サルとの事を一寸話さう。これ等ザルの類は東半球にだけ居るもので、それが西半球のものと違ふのは今もいふ様に鼻孔の間が狹い事と、多くは頰に嚢があることと、しりダコのある事と歯が人間と同じで三十二枚である事とである。これ等の點で面白いのは、歯とほゝの嚢とである。

それからこれ等の内でも殊に面白いのは胎盤で、今もいふたやうにそれが廣鼻類には一つであるのに、普通の狭鼻類にはそれが二つある。ところがそれがまた我々人間には誰もしるやうに一つである。これは甚だ面白いことで人間が或つてこの點では劣等の廣鼻類に似てゐるのである。ところがここに又注意を要する事は擬猴類の胎盤は一つで人間に似てゐるのとこの人間の胎盤がまた殊に今いふ擬猴ザルにてゐることである。ところがサル内でもオラング、ウータン、ゴルリラとチンパンヂイとの胎盤は人間と同様に一つである。この事實と他に護つもの事實からオランダのヒウブレヒトと云ふ學者が人ザルと人間とは擬猴類の様なものから出て來たものではなかつたらうかと云ひ若し夫がさるであるならば、此ヒトザルと人間との共同の先祖は此擬猴ザルの様なものではなかつたらうかと結論して居る。人間に一番近いヒトザル或は類人猿と云ふものに就いてこゝに話さないがこれは余り常く知れて居る事でもあるし又夫は余り大きい問題でもあるから機を見て書く事にいたさう。（終）

(1) 西藍ザル　¼大

(2) クモザル　⅙大



(3) 吠へザル　⅙大

ロロ仲よし――

病む子をまもりて

若山喜志子

わが男の子に待ちし二十才の來は來つれ病に臥してあるがかなしき
×
痛みくる神經痛にたへがたみ呻くわが子をまもりて久しき
×
容重く塞りそむれば定ぎりて痛みまし來る子の病あはれ
×
夜半より曉にかけ必ずも痛む病に痩せはてつ子は
×
病める子の手を拭くとして生命線のたしかなるを見つ心あかるき

モダン現象の向日性
―三二年型の推移的豫測―

新居格

小學生の野球試合、全國中等學校野球チームの甲子園における爭覇戰、六大チームの神宮外苑競技場での試合都市チームの對抗試合といつた風に野球は全國的な興味の對象になつてゐる。そこへ世界最強チームともいへる米國の職業野球選手が來て、卓越な技術を見せた。それは日本でも職業野球の選手が出來るやうになるのではないかといふ氣運を醸成した。三二年において職業野球團が出來るとはいはない（出來ないとも限らないとは思つても）だが、段々にその氣運に向ふのであらう。アメリカに次いでの野球國日本は時に職業選手團と花々しく試合を行ふ日が來るであらうことが豫想される。日本の職業野球團は日本の資本家たちの手によつて組織されるか、それともアメリカ人の投資に待つて發展するか、それは豫測し難い。財界の不況に喘ぎ、日支間の紛爭が何時解決するかそれとも破談するか、假りに、案外早く納まつても國際的余波は殘るであらう。内外共に難局を缺き、職業野球團の創立を企劃するものがあるであらうかとも思はれるが、社會諸勢の上からして十分職業野球團が成立つと思へば着眼する人もないとは云へぬ。

野球と共に、拳闘が非常な勢ひで盛んになり拳闘ファンが發生した。あらゆるスポーツが全く盛んになつた。それらの氣運が三二年度のモダン現象に鮮明なる投影をするのではないかと豫測される。

映畫が關聯したモダン現象の諸相より、スポーツが與へる影響が三二年度にはより著しくなるのではないか。映畫ものの影響は漸くマンネリズムに陥して來た感がある。三十一年の夏東京府職業紹介所で取扱つた五千七百七十九名の若き女性に就いて府の社會課で調べた所によると、彼女等は水泳その他スポーツに趣味をもつものが映畫や演劇の興味を持つものよりも遙に多かつたといふのは、上述した推移を有力に物語つてゐるものであらねばならぬ。スポーツは感傷性を拂ふ。そして明快と潑溂とに赴かせる。戸外的にし、向日性にする。それは服裝の上にも現はれるが、それが三二年には今年よりも一層ハツキリと殊に女性の日常の作服の上に取容れられると思ふ。映畫は觀照を通しての影響的な内容だが、スポーツはみることの興味もない譯ではないが、より多く、行動にまで押し進められる。尤も映畫の影響も行動化させられないでもない。たとへば、映畫『モロッコ』でデイトリッヒ役の女に要人の兵士が『自分は氣を變へた』といつたトーキーの台詞をそのまゝ、新宿驛の告知板に青年らしい男がその愛人宛に『アイ・チエーンヂト・マイ・マインド』と書いてあるのを、筆者は見たこともある。ラヴ・シーンに、ラウデブウに、性愛技巧に氣取つた、だが、洋風なスタイルの上に延用されることもあらうが、何れにしてもスポーツのもつ影響と映畫のもつそれとはかなり相違する。尤もエロチツクな物の見方に重心を置けば、拳闘のもつ肉體相搏つ至純的な壯烈で男性的なところが性的魅力を醸し、それをサアデイズムと結びつけて解釋する方法もあらうし、スポーツ選手のもつモダン英雄的な地位と輝かしい名聲が憧憬とロマンチツクな情熱とに投りやすい若い女性にサインを送りてエロチツクに結びつける見方もあらうかなれど、私はそんな末梢的な考察は加へたがらないのである。

たゞ婦人の美顔術から、婦人の美顔が多少とも流行しはしないかとも思ふ。

ラヂオ體操を全國的にする計畫が逓信局にはある。それが三二年度の社會に起るところのモダン現象に何の作用もがあらうとは思はれないが、三二年度に漸く自漸して來た向日性が三二年度にドイツ、フランスなどにかなり盛んになりかけてゐる裸體々操にまで進むかどうか、さうしたことの喚びが上るかどうかといふに、我國では許しもしないからうが（好奇的前例を破るので）、さうしたことの喚びを上げる人も先づあるまいと思はれる。ヨーロッパでは裸體體操の流行を目して樂園の復活であると論ずるものもある。その意味は樂園ではアダムとイーヴとは全裸形であつた。蛇の誘ひで禁斷の果實を食つたことに端を發して裸形が漸次に蔽はれて行つたのだが今、全裸體になつて紫外線を浴ぶることに浴びるところの試みは樂園の再現にある樂園への復歸であると見る譯である。サナトリウムにおいて男女相混じての全裸體の日光浴が我國に行はれてゐるかどうかをわたしは知らないが、健康者が保健と美とのためになされる全裸體々操は裸體畫ですらに今なほ理解を持たなさ過ぎる當局を有するわが國においてはまだ三二年のモダン新景とはならないであらう。けれどもスポーツのもつ向日性は層一層擴げられることに間違ひはないであらう。

モダン風物がスタートを切り出したころには、よしそれがどんなに稚拙であれ、たしかに新しい香ばしさがあつた。しかしそれが一般化され、通俗化されるに及んでは、日常生活の鈍色にまで溶け込んで仕舞つた。たとへば、初期のショウト・スカアトと斷髪とは一般からは異態であらうが、しかし新しい香りだけはあつた。だが、それが多くのものによつて目に慣らされると、モダンの撰択としてはもう數へ上げられないのである。モダン風物は移行する。朝顔の花のやうに、その開化を誇る時間は短くて移ろいやすい。映畫女優のスター的期間が短く、しかも春る年毎に年度型のものが出現して或は出現させられるのが、一つのモダン型移行の象徴のやうにも思はれる。

三一年において、エロだの、グロだの、週末だの、流行的なものが社會の興味であつた如くに思惟されてゐた。しかし、わたしはさうした現象に近代性を結びつけることは出來なかつた。何故ならば、モダンの特質は透明性にあつて、上掲の如き淫蕩性乃至爛熟性にはあるべきでないと思つてゐたからである。モダン現象はクリーン、カッチングにあり、直線的モンタアヂユにある。その特質はどこまでも簡潔と不透明乃至非明透性の排棄とにある。

ところで、三二年型としてのモダン現象を考へるときにわれわれは一面社會情勢との連繋を無視する譯にはゆかない。三一年度の經濟不況は三二年度にそのまゝ續くその經濟情勢と三二年度のモダン形象とは當然に結合する。たとへば服裝に就いてこれをいへば、そこには有閑的富裕が浪費するモダン色ではなくして、經濟的節約が適切にクリーン・カットする斷截美に就かう。モダニチーのもつ條件の一つにソフイスケーションがある。その意は安ものを効果的に役立てることだと解釋すれば當つてゐるかも知れない。何も誤魔化す譯ではない。それは良い意味でモダニズムの上からする解釋に即くとすれば、上述したやうに意味を取るのがいゝので、一言の下に要約すると簡素美であり、簡潔美である。カラレスの上着が流行するとすれば、それは一つの標である。無用の粉飾と、生活の畫一形乃至嘲謔誌の感覺である。ポオル・モオランが『直截』で『直截の時代で（現代は）ある。』といつた。その通りである。彼はさらに、さうした時代であるが故に、裸體主義の擡頭が豫測され、裸體々操が行はれるのだ、と考へるのだ。しさうした傾向が三二年型として形の上にも精神の上にも現はれてゆくのではないか。

思ふに、三二年型のモダン現象はマンネリズムに陷し、通俗に溺解し去つた三一年型のモダン風を投棄して發展すべきである。そしてそれは一言に盡せば向日性と直線性とに歸着するのである。それは爽快なる潮流をもつて、トップを切る。溺水を嫌つて清流にジャンプする。

バアに泥酔して、低卑なエロにだらしのない、しかも安つぽい迷夢的陶酔をするが如きをモダン人の生活でもあるかのやうに謬想するモダン感覺の喪失者を侮蔑する。

エロ・グロ・猥雑、さう云つた一聯の類型的な退嬰的、病的趣味を一蹴して、さわやかにして明るい風と共に、前進すべき三二年型のモダン形相があるべき筈である。

モダニズムにたいする俗的曲解が横溢してモダン現象に灰白色の混濁を塗りつぶしてゐた三一年型はその筋を清掃してから、はじめられるのであらう。自然さと、向日性（向日性も自然性の一屬性だが）とが快く織り出す快晴色に、三二年型のモダン現象があるでもあらうし、また、あらまほしくも思ひたいのである（筆者は新居格氏）

ミルクプラント　牛乳とパン　和洋料理　精乳舍　京城本町二　電話本局三三一

京城本町　紙御商　皇戸力一商店　電話本局一八〇五番　振替京城一四二九番

京城府南大門通二丁目　食料品、海産物　吉川太市郎商店　電話本局二四一七番

京城旭町三丁目　御料理　清和園　電話本局一八二二番

京城黄金町三丁目　活動常設　東亞倶樂部　電話本局二六二七番

謹賀新年

京城本町二丁目　菓子　永田亭　電話本局八六五番

京城本町二丁目　生花　むすめや　電話本局四一四番

京城府長谷川町　綿糸布商　加藤要商店　電話本局一八八八番

京城府本町入口　シノサキ文具店　電話本局一八六・六四八番

京城明治町二丁目（本町江戸川裏）　渡部美粧館　渡部千代子　電話本局九六八番

京城湯屋組合

京城本町二丁目四十番地　千代田號　金田理一　電話本局九八七番

京城府黄金町二丁目一九八番地　古河電氣工業株式會社京城出張所　古河鑛業株式會社京城出張所　東亞ペイント製造株式會社京城出張所　横濱護謨製造株式會社朝鮮出張所　富士電機製造株式會社代理店

南山莊　電話本局一五一三番　三五八五番

サロン　アリラン　電話本局一一〇二番

角田被服株式會社　京城鍾路二丁目十九番地

本町一（電話本局一四三〇）ニコニコ堂本店　本町三（電話本局三五六八）ニコニコ食堂　鍾路二（電話光化門一四五六）ニコニコ鍾路支店

京城長谷川町一一　朝鮮水産會　電話本局二四六〇

京城南大門通三　石油機械　川勝京城支店

花園佐吉

京城南大門通二　増田食料品店　電話本局九五三

京城南大門通り一　大同生命保險會社　京城支部　電話光化門六七一

京城蓬萊町一ノ五　朝鮮煙草元賣捌會社

京城黄金町五ノ七　龜屋旗店　電話本局一五八五番

京城府黄金町二丁目　東京建物株式會社　京城支店　電話本局一三八一・一六八一番

京城明治町二丁目　新興キネマ　京城支店　電話本局四五四四番

明治町二丁目　西洋料理　丸ビル　電話本局一八九六番

京城本町二ノ八一　石川物産商會　電話本局一八八四番

京城府南大門通五　藤木常二郎　電話本局五八三番

京城府南大門通五　明時堂　電話本局四三〇四番　四三〇五番

京城府長谷川町五十八　後藤豊藏

本町二丁目　アサヒ樂器店　電話本局三六五九

京城南大門通三丁目　紙文具　大家商店　電話本局四七番

京城本町一ノ四二　日の丸小間物店

京城府黄金町三丁目　合資會社　湊商會

京城府本町二　石川辰次郎

京城府旭町一ノ七一　はり半　電話本局三九一番

西大門郵便局員一同

銘酒　漢陽鶴　醸造元　畠山酒造場

光化門郵便局員一同

京城本町三　木島時計舖

京城本町五　カステラ　長崎屋本舗

京城旭町二ノ六　印刷　大養帳簿製造所

鍾路一ノ八　梅鉢そば店

大衆小説 延壽秘藥

三上於菟吉

藤井耕逢 畫

上の巻

三代將軍家光は、ある朝、ふと床の中で、急に頭痛が頭くなつたやうに感じた。妙に臍さが眼ひかぶさつてくるやうに、ぼうとして来たのであつた。

冷い腥鳥の翼が、胸一杯に擴つて、跳躍をつゞけてゐるやうな風苦しさと、同時に、鋭い牙をもつた怪獣が、さゝらのやうな爪で搔きむしつてゐるやうな氣配が感知されたのだ。

家光は、試みに額に手を當てゝ筆で撫つて見てはつとした。パントリと生めるい魚油のやうな汗が無氣味な觸感を與へて、彼の心を脅かした。暗い豫感が稲光のやうに走つて彼の頭腦の中樞を刺戟した。

——病魔、死、天下の擾亂、德川の末路、かうした抵な幻想が……

……

恰度その時、伊與の方の侍女で神田竪町の藥種問屋から上つてゐるみとといふ女中が親元の急用で一日の暇をとつて行つて歸つてくると、かういふことを耳に入れた。

『今日親元へ歸りますと甲斐國の醫師徳本と申す名醫が、只今旅籠町に參つて諸人人助けをしてをります。この名醫ならば上様の御病氣を全快致すこと請合だと申してをりました。城中へ召し出されて上樣をお診せになつては如何なものでございませう』

『甲斐の徳本！』

伊與の方の憂顔がいさゝか開いた。

『よいことに氣がついてくれた。神佛にすがつてもの驗の見れぬ病人、早速召し出して診察をさせることにしよう』

『昔から法眼や法印は諸人もあるが、甲斐の徳本は天下に一人しか……

新年文藝 川柳 (一)

題「猿」

井上劍花坊選

天 (五)
猿今日も答の外は酬はれず
津村天下坊

地 (五)
金網を透して猿に山が見え
熊本靜香

人 (五)
人でない幸福にゐる檻の猿
元木阿南坊

選者の句
似た人も多かる可きに太閤記

五客

○長崎 三面 … 奴村
○全北 兕玉 … 牧羊

西鮮造林合資會社 平壤府八千代町 電話七四五番

平壤旅館組合

稻葉組

平壤料理屋組合

平壤 横田虎之助

平壤松函石油專賣組合

賀正

平壤 一柳商店

河原木宗橋

孟山無名會

朝鮮飲料會社

脇坂文鮮堂

大同郡農會 平安南道

平安南道 南川倶樂部

平壤府本町 株式會社 中平組 取締役 中平岩藏

平壤材木商組合

平壤 大同運輸株式會社

清酒 金千代醸造元 齋藤酒造合名會社 平壤府黄金町八番地

平壤 朴經錫

平壤 齋藤清治 河野國太郎 横山邦雄

平壤 大橋恒藏

平壤郵便局職員一同

平壤刑務所員一同

食糧品商 桑田信助商店 平壤府大和町

平壤府櫻町 合資會社 吉澤組 電話八〇八番

平壤中等學校長協會

平壤府寺町 水谷組 電話一五一番

朝鮮平安南道江西郡東津面 朝鮮無煙炭鑛株式會社 江西支店

小野田セメント製造株式會社 平壤支社

朝鮮電氣興業株式會社

山十製絲株式會社 平壤製絲所

大日本製糖株式會社 朝鮮支店

平安南道廳食堂員一同

朝鮮商工株式會社 取締役社長 中村精七郎 專務取締役 山口芳三 常務取締役 大浦秋吉 取締役 中村仁

平壤水曜會

平壤府廳員一同

ロロ――我輩の當り年ぢや――

猿の記憶力

遞信局監理課　吉田雄次郎

私は猿を飼養してから約十年以上にもなるが、現在は南洋猿の牡を一頭飼つて居るに過ぎませんので面白い場面を見せる事は出來ないが、相當に永い間飼つた經驗があるので、猿に對する觀察などを申上げて見たいと思ふ。

元來猿の外觀は一見人類に最も近い動物だと思はせるも、頭が頗る小さく後にこけ、口邊が突出するに從ひ知的能力が益々劣ると云ふ事實に徴せば、猿と人類の最も劣等なるものとの優劣は、最高な人類と最劣なる人類との優劣程甚だしくない事があるので、如何に人と猿とが接近して居る事に驚かざるを得ないのである、だから猿と人とは其の祖先が同じいものだと云はれてゐるので、猿の研究は人間と動物との間の仲だちとして頗る興味のあるものである。

凡そ教育を施して、一定の性能を習得するは總てそのものが記憶的性質を有するがためで、猿の樣な高等な心的動作を持つ動物は記憶力が頗る強く、その仕方も亦余程巧妙である、シンゲル氏は精密なる試驗であるが或る時箱の中に蜂を入れたものを砂糖にくるんで、之を紙の袋に入れて猿に與へた所が猿は何か與へたかと思ふて、喜んで開くや砂糖だつたので忽ち摑んで口に入れたところが中に居た蜂は猛烈な口の中から逃げようとし、散々に刺したので猿は大騷ぎに苦しめられた。この事があつてから後は此の猿は、充分の檢査と周密な注意とをしなければ包んだものは決して口に入れなくなつたと記載してあるが、私の經驗に依れば包んだものは勿論、砂糖やまぶしたもの、果物に包みなど與へても、決して其の儘口に入れる樣な猿は今まで飼つた事はない、或はカステラーの中にしのばせなど與へても、決して其の儘口に入れ樣な猿は今まで飼つた事はない、尋常一樣のものが一定の食物を與へる時は兎も角も、他人から貰つた場合は何ものに依らず、先づ分離的なる檢査をしなければ其の儘口には入れない、無遠慮のお客がよく煙草に火を着けて與つたり、菓子個に石や釘を入れて與へたりチョンガーが悪戯に硝子の破片を投げたり、針の包を與へたり、或はトリトリを與へて困らしたりする事があつたけれども中々油斷するものでない。

先年本府の理事官に永らくをられた黒田茂次郎氏の令嬢政ちやんが遊びにきて、椽側に踞いてあつた猿に飴玉を與へてやつた際であつた。猿は政ちやんの隙を狙つて大切にしてゐたルビーの指輪を掠取し、忽ち口に入れて仕舞ひすまし込んで居るので、政ちやん呆氣にとられて俄かに大騷ぎをしたけれども、金屬製のものであつた事が判つたので暫くして直く返して異れた。これも彼が小石や釘を經驗して記憶力の發動であらうが、其の猿は金屬製のものは齒を大切に保護する關係からでもあらふが嚙めるのも嫌ひであつた樣である

猿の記憶力の話で面白いのがある、昔の王仁裕が蜀に從事の官で居つた時のことで、一頭の猿を飼つてこれを野賓と名付て、大層可愛がつて居つたが、段々大きくなると跳廻つて頗るうるさくなつたので、紅の切を頸につけて詩を作つて山に放した、其の詩は

放爾丁寧復故林。舊來行處好追尋。月明巫峽堪憐靜。路隔巴山莫厭深。棲宿免勞青嶂夢。躋攀應愜白雲心。三秋果熟松梢健。任抱高枝徹曉吟。

と云ふのである。後王が從人をやめてから、蜀の道中で、漢江堝と云ふ所にかゝつた、すると廟あるの前で一頭の大猿が其の連れから離れて道邊の古木の上から身を垂れ、紅い切れをふさ〳〵させながら此方を見て居るから、必定以前の野賓であると思ひ『野賓』と聲をかけると一々返事をする、畜類か飼養された恩を識れながらも忘れなかつたと見える、そこで王は又詩を作つた其の詩に斯ふである

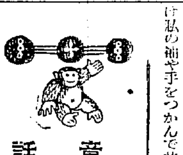
嶓冢祠前漢水濱。飲猿連臂下嶙峋。漸來子細窺行客。認得依稀是舊人。

私も僕に這入る樣な小猿を昔年飼つたばかりも、丹精ど飼つた牡猿をもんちやんと名つけ可愛つて居つたが、悪戯のものにも非常になつて居つた。『失敬』と誠すれば握手の禮をする『御辭儀』を誠すれば腰手を頂わる。同時に作の丑之助が『もんちやん』々と呼んで小石を投げる眞を教へて居たが初めの中は拙い手附きで、小石や土を掘り起し投げるけれども横へ飛び或は後に落ちたりして目標が定まらなかつたが追々上手になつて何でも手に觸るゝものは投げつける樣になり、今度は硝子戸を破り障子を破り、はては植木鉢、金魚鉢を破壞し掛軸や座敷は常に土や石を投げ入れるので仕末にをへぬ樣になつた。

冬時には鎖紐を通して自由に飛廻り、隣、近所の臺所へ這入つて夕餐の御馳走を搔攫ひ、或は座敷に飛込んで來客を驚かしたり、或は子供のお菓子を失敬するなど隨分迷惑をかけたものであつた。久しくした或る時は隣であつた錦水料理屋の大屋根に登つて瓦に踏止を拂てふんばり瓦を起し、悪戯に其の瓦片を投げつけるなど仕末におへぬ、仕業をする、然しそんな場合でも私が下で『もんちやん』『もんちやん』を連呼して手を拍けば穂地に私の胸に向つて飛ついて抱かれる程懐いて居つた。

俗に『犬猿もたゞならず』といはれて、猿と犬とは頗る仲の悪いものとされて居るが不思議な事には當時飼つて居つた犬とは頗る仲がよく猿の遊び對手できたから猿は犬の蚤取り役をも勤めてをつた、勿論役は潔癖を好む性格でもあつたのか、私共の手足とか又は衣類でも、頭髮にでも蚤など捉いておれば取らねば承知か出來ないといふ風であつた。が段々大きくなるに從ひ、荒つぽくなつて來客を負傷させたり、子供の衣服を毀したりしたので、可愛想ではあつたが昌慶苑の動物園へ譲り小猿と交換して貰つたが、私は其後二、三ヶ月位に一度は必ず彼れの好きな人參とか、果物とかを持つて訪ねた、私があの猩房室の外から呼ぶと、彼はちやんと記憶しておつて、必ず彼も獨得の懐かしい返事をする。それから私が鐵柵の廊下に這入ると、彼れは全身を鐵柵に摺りつけ私の袖や手をつかんで甘たらしくロを少し開けて、舌端を見せ心からの喜び――之が笑の表情――を表して歡迎するのであるその表情は人間と程度こそ違ふが快樂の表現としては少しも異なるところのないものである事を知つた。と同時に昔の王仁裕ではないが、其の記憶力の強いのに驚いた譯である。

野生の猿は多くの場合大群をなして居るが、其の中には必ず支配猿が居て一群を統制し、野猴の指揮もすれば食物の奪取にも指導するのである。而して其の團結力も强く一朝他の動物と衝突する樣な場合でもあれば、支配猿の指揮の下に協力して敵に向ふのである。これはあへて野生の狀態のみに限らず動物園などで多數雜居せしめても等しく支配猿が出來るものである、然し猿の生活は嚴格なる一夫一婦で時には夫婦相携へて散歩することなどもあると云はれてゐる。猿は元來疾妬深い性質である。から野生の生活ならばいざ知らず多數一つの檻にでも同棲せしむると如何しても長命しない。これに反し一頭飼ひのものは他に氣の觸れる事がないから大抵二十年から三十年位まで永く生きて居る。昌慶苑へ譲つた『もんちやん』も其の例に洩れず一ケ年半位で斃死して仕舞つた樣に思ふ。



童話

馬車と子供たち

小川未明
中村進治郎畫

平藏は、まだ若い時分から、馬車の馭者をしてゐました。馬車がこの山國の、町の停車場に着くと、そこで降りたお客を乘せて、もつと奥へはいつた町や、村へ、人々を運んだのであります。

長い街道を、トテ、トテ、トー、とラッパを吹きながら、ガタ、ガタと轍の音を立て、日に幾回となく馬車は往つたり、きたりしたのでありました。

天氣のいゝ日には、國境の山々の頂きが、青々として晴れた、大空の下に、美しく並んで見えました。夏は、草木の葉に、日が照りつけて、馬は、息苦しさうに、黄色く乾いた道の上を喘ぎました。また、秋は、見渡すかぎり、草木の葉が色づいて、田や畑には野菜や、果物が實りました。しかし、平藏はいつも元氣よく、誰に對しても面白さうに話しかけたのでありましたから村から、町へ、用事があつてたび〳〵出かけるものは、つい馬車に乘るので、その人達は、いつしか顏馴染となつて彼とは親かつたのであります。

しかし平藏に親みを感じたものは、譯も面白いからばかりではありません。彼が、乘る人達に、いい感じを與へたのは、自分の使つてゐる馬をやさしく、いたはつたのにもあります。

『から可愛がつてもらへば馬も仕合なもんだ』とお客が、言ふと

平藏は、その方をふり向いて、ゆつくりと煙草を喫ひながら

『馬や、牛は、動物の中でも、人間と同じやうに、ものが分れば、きゝ分けもあり、利巧なやつです、それば、なにも、人間に使はれるばかりに、この世の中へ生れた生物でもなかつたのに、一生自由といふものもなく追ひこくられ、その揚句、役に立たなくなれば殺されて、肉まで食はれてしまふ。可哀さうものです。かうして、使つてゐるうちだけでも、可愛がつてやらなければ、人間が天道樣に罰が當ります』と、答へるのでありました。

『おゝ、さうだとも。全く、それにちげえない』

彼のいふことをきいてゐた人は敬虔と心に思ひました。そして、自分等が、平常、牛や馬に對してあまりにも無考へであつたのを恥かしく思ひました。

人のいゝ平藏にも、景氣の好かつたのは僅の間だけでした。それも、二臺しかなかつた馬車を三臺に増した位のものです。朝から晩まで、埃を浴び汗を流して働いたものゝむくいとして、それ程のことでもなかつたでせう。

そのうちに、彼にとつて、怖しい敵があらはれました。それは、この田舍へも、自動車が入つて來たことです。人々は、みんな、この新しい文明の機械を珍しがりました。轅をあげて、馬の尻を叩き、古めかしいラッパを鳴らすかはりに、青いガソリンの煙を吐きブ、ブーと警笛ひゞかせて、滑るやうに消えて行く、背後に白い筋のはいつた、獣物のやうな自動車を、どんなに感心して見送つたか知れません。

停車場の前に立つて、自動車の出るのを待つ人々の眼から見ればあちらの馬車屋の前に立つてゐる人々が、なんとたく間抜けのやうにも見られました。

『少しばかり高くても、自動車に乘つたものは、馬車なんか、のろくて乘れやしません。馬車がこの町を通りきらぬうちに、自動車はもうあちらの村へ着くんですものね』と、自動車に乘る人達は、いひました。

それでも、平藏をひいきにし、そんなに先を急がぬ人達は、やはり、馬車に乘つたのであります。

『私達には、自動車はなんだか眼がまわりましてな。なにも急ぐ譯でもないのですから、馬車で、ゆつくり行つた方がいゝですよ』と、馬車に乘る人達は、言ひました。

しかし、馬車で、ガタ、ガタ、まだ二、三丁しか行かないうちに後から來た自動車が、追ひ越して、ブ、ブーと、誇らしげに、たちまち、姿を消してしまふのを見るといまゝで馬車に乘つた人達もだんだん自動車に乘るやうになつてしまひました。

しかしながら、機械と動物では比較するのが、まちがつてゐました。いくら、はやく走る自動車でも、一つ具合が惡ければ少しも動けなくなるものです。山國だけに道には石ころが、ごろ〳〵としてゐました。自動車に、追ひ越された馬車が、ガタガタと車をきしらしながらやつて來ると、坂の中途のところで、もうとつくにあちらの村へ着いたと思はれた自動車がパンクして止つて大騷ぎをしてゐました。

この時、平藏の馭して來た馬車は、これ見よがしに、トテ、トテ、トーとラッパを鳴らして、その傍を通りすぎたのであります。

『馬車には、あんな間違ひはありません。なに、自動車が、はやいものか、お客樣方はどんだ迷惑のこつた』と、平藏は、大きな聲で、自分の馬車に乘つてゐる、お客樣達にきこえよがしに、言ひました。

『さうだとも、昔からある、馬車に乘ればあんた間違ひはありつこない』と、お客の中では平藏に同情して、答へたものもありました。

なんといつても、自動車が、通るやうになつてから、馬車は、寂れました。そして三臺まであつた馬車が、いつしか二臺となり、この頃では、その二臺も持ちきれなくなつて、僅かに、平藏だけが、馭す一臺となつてしまひました。

いまゝで、馬車ひいきの人達まで、自動車に乘るやうになつたからです。馬車に乘るのは、まだ、自動車をこわがる、ほんたうの田舍者か、金のない、おぢいさん、おばあさんたち位のものとなりました。

その中、平藏も、年をとつて、頭には、白髮がまぢつてきました。いくら、きかぬ氣でも、時代にはどうすることもできなかつたのであります。ちやうど、その時分、世の中が、いろ〳〵の原因から、不景氣になりました。すると、いまゝで、自動車に乘つたものが、こんどは、反對に、馬車に乘るやうになりました。

『此不景氣に、五錢でも、七錢でも儉約しなければいけない。なにも、少しはやく行くとおそくなるのも、ちがいだ。余計な金を使ふなんて馬鹿〳〵しいことだ』

さう言つて、馬車に乘るものが増してきました。

『世の中といふものは、正直なものだ』と平藏は、相變らず、トテ、トテ、トーとラッパをふいて精を出してゐました。

いまゝで景氣のよかつた自動車は、この頃は、客が減つて、ガラ空きのこともありました。かうなると、困つたのは、自動車屋であります。

言『ひとつ、思ひ切つて値下をしなくてはならるまい』と、相談をして、馬車と同じ賃金にすることにしました。

はたして値下をした、その日から、また、どし〳〵とお客は、自動車に乘りはじめました。

『文明になつたものです。二里の道を煙草一ぷくで行かれますからな』と、お客たちはまた自動車を讚美したのです。世の中は、全くかうしたものでした。誰しも、同じ金なら早く行く方を選ぶでありませう。

けれど田舍のことですから、いつも自動車が滿員といふことはありません。人數が少なければ、ガソリンを多く費つたのでは、損がいきますから、自動車は、いまゝでよりかずつとスピードを出さなければなりませんでした。

狹い町の中や、街道を自動車が急速力で走るといふことは、どんなに、靜かな生活をしてゐる人達を不安がらせたでせう。親達は、子供に通りで遊んではならないと言ひきかせました。子供達は、ブ、ブーといふ、自動車の笛の音をきくと、あはてゝ道の上から逃げ込みました。そして不安なところに立つて『萬歳！』と、叫んだりしました

村から町の學校へ通學する兒童等は、往復に自動車や、馬車に出遇ひました。また、うしろから來た、車に追ひ越されました。トテ、トテ、トーといふ、馬車のラッパの音は昔から聞きなれて、なつかしみを感じさせた上に、馬車だと知ると、安心した氣持ちで歩かれましたが、自動車のやつて來る音をきくと、うつかりすることが出來なく、あはてゝ道を避けなければなりませんでした。そして頭から沙埃をかけられたのです。

雨の降る日には道が、一層わるく、時々下駄の緒を切つて、泣いてゐる子供があります。そんなのを見ると、やさしい平藏は、馬車に乘せてやりました。この話を、子供が家へ歸つてすると、親達は大へんありがたがりました。そして、自分達が、町へ出る時も、馬車に乘るなら、自動車に乘らず馬車に乘ることにきめたのです。

村や、町の、子供達は、この頃平藏の馬車のお客が、自動車にとられてしまつて、いつも、さびしいのを知りました。

『あゝ、馬車の小父さん、可哀さうだな。僕たち、みんなに馬車に乘るやうに、宣傳しようよ』と、一人が、言ひますと、

『さうだ。いゝ小父さんだもの、それに自動車は、危なくて、僕たち、安心して、ゆつくりと歩くことができないんだものな』と、他の一人が贊成しました。

子供たちの、平藏に對する同情が湧き上りました。そしてこれはなか〳〵大きかつたのです。ふたゝび平藏の馬車は、乘手が多くなりました。彼は、子供たちの同情を感謝しつゝ、悪い、石ころの多い山國の道を、どんな日でも精を出して働いてゐます。

新年口占

青木月斗

初雞や東の神の神垣に

×

初雞に劍の如き新氣概

×

初雞の雞冠の血潮燃ゆる也

×

初雞の胡沙ふく風を懐ふかな

×

初雞の聲、八荒にひゞくなり

朝鮮書籍印刷株式會社

京城府岡崎町九五番地
中央土木合資會社
代表者 下畑秀藏

合名會社 盛陽社

株式會社伊藤商行
朝鮮計器株式會社

釜山郊外海雲臺
全鮮唯一 溫泉大プール
釜山より自動車片道五十錢
食堂賣店完備 茶代廢止
内湯溫泉旅館 泉館
泊二圓二十錢より四圓七十錢迄

賀正

京城府岡崎町七番地
株式會社 北陸組出張所
電話龍山一二七九番

營業課目
高級化粧石鹸
緬毛用石鹸
各種洗濯石鹸
洗濯曹達
醫藥用石鹸
各種工業用石鹸
油脂類竝各種工業藥品
京城府岡崎町一四番地
朝日石鹸株式會社
電話龍山三六四番

吉田醫院
龍山漢江通十一番地

楠見組京城出張所

合資會社 朝鮮有馬組
沼本佐之助

京城府榮町
堀内組京城支店
電話龍山九一五番

京城府竹添町二丁目
杉山製作所
電光一八・一五四五番

朝鮮運送株式會社

京城料理屋組合

龍山漢江通十一番地
株式會社 間組朝鮮支店
電話龍山長一四四〇・一〇九五番

京城岡崎町七番地
合資會社 山崎組
電話龍山一一四四番

戊辰會

謹賀新年

仁川本町 糸岐時計店 電話三七〇番

仁川新町 仁川葬儀社 電話八二九番

仁川本町 洋雑貨商 藤木商店 電話四〇番

仁川支那町 石炭商 田邊寛一商店 電話八一九番

仁川宮町 漁野五郎商店 電話一一四番

仁川仲町 日下部商店 電話五一四番

仁川 大石季吉

仁川新町 野田紙店 電話四四番

仁川宮町一八 越智商會 電話七三八番

仁川本町 龍栄堂 電話一五五番

仁川内里 若林商店 電話四一番

仁川宮町 岩永醫院 電話一〇一二番

仁川宮町 西洋料理 東洋軒 電話五一九番

仁川府議 稲垣五三郎

仁川仲町 大和組 電話長一三八番

仁川本町 平山初次 電話一五三番

仁川新町 佐藤内科醫院 電話六六三番

仁川宮町 安藤熊市郎 電話七一八番

仁川 岩崎政介 電話四五〇番

仁川本町 星光商會 電話一一一番

仁川府本町 中村勝美堂 電話三四一番

仁川本町 北島薬店 電話長一三四八番

仁川新町 中村嘉本店

仁川支那町 森信汽船株式會社 電話長一一三番

仁川山手町 上田文次郎 電話九五〇番

仁川府濱町三 劉君星 電話四二六番

仁川 磯野勝見

仁川本町 芝モト 電話四一八番

仁川本町 共益社 梅田常博 電話四一六番

仁川濱町 吉金喜三郎 電話一一〇番

仁川新町 代田繁治

仁川支那町 仁川水産株式會社 電話一八六番

仁川府宮町 京城電氣株式會社 仁川支店 電話三四番・二二四番

仁川米豆取引所 社長 荒井初太郎

仁川敷島遊廓組合

仁川府本町四丁目 河野竹之助 電話二八番

仁川新町 牧瀬外科病院 電話四八五番

仁川宮町 ゴム白工作所 電話九八二番

仁川府賀商組合

仁川仲町二丁目 壬生醫院 電話六二六番

仁川山手町二丁目 島崎彦次郎

京畿道穀物檢査所長 上山雄次郎 仁川

仁川府山手町 能治齒科醫院 電話三五〇番

仁川府海岸町 野口商會 電話長一七三・二四番

仁川教育會

仁川觀測所長 後藤一郎 電話二三番

仁川本町 天辰齒科醫院 電話九六八番

仁川仲町 南方商店 電話一六六番

仁川府牛檢疫所 所長 伊佐山伊三郎

仁川府濱町 クケヤ鐵工所 電話六五八番

遞信局海事出張所 所長 大賀文喜 仁川支那町

精製鹽 朝鮮鹽業株式會社 電話七七八番

朝鮮燐寸株式會社 仁川松林里

朝鮮燐寸會社 鬼頭虎三 仁川金谷里

仁川商工會議所 理事 濱井定

仁川 府會議員 加來次夫

仁川山手町 銀水 電話一二一番

仁川仲町 内科小兒科 川口病院 院長 川口漁夫 電話四〇九番

仁川本町 仁川松函組合 電話七一五番

京仁線米安 渡會儀市 電話一〇四八番

仁川 府會議員 伴康徿

仁川府長 麵子製造組合 電話七九五番

仁川府花房町 王成鴻

仁川府海岸町 今井嘉三 電話八〇九番

仁川府内里 朝日洋行 電話六六番

仁川 府會議員 吉木善介

仁川府外里 原源吉

仁川本町 八木輿一商店 電話五二四番

仁川 中外薬房 電話七八七番

仁川 梶谷靜風寫眞館 電話八八二番

愛敬社 電話三四番・四五八番

仁川本町 平野商店 電話九七二番

仁川濱町 庄野材木部 電話五一〇番

仁川 府會議員 清田三郎

仁川物産株式組合 電話四八番

仁川 天野秀一 電話一〇二番

仁川 隱塚種苗場 電話一七二番

仁川 丹羽茂三郎 電話五四七番

仁川本町 松屋呉服店 電話八二番

仁川 藤原熊雄

うどん そば ぜんざい 正月屋 萬盛庵 電話六二一番

仁川本町 氷貯藏組合 電話四四一番

仁川本町 千鳥正宗支店 電話二五九番

仁川龍里一〇 張錫佑

仁川本町 北京料理 中華樓 電話四五二番

仁川支那町 華商商會

仁川海岸町 松浪秀雄 電話一七〇番

仁川精米業組合

(イロハ順)

仁川府濱町 電話長一三番 ⊕馬場精米所

仁川府濱町 電話長八二三番 ㊝朝鮮精米株式會社 仁川支店

仁川府花町 電話長六〇八番 株式會社 奧田精米所

仁川府宮町 電話長五二〇番 合資會社 加藤精米所

仁川府花房町 電話長五九番 辻川精米所

仁川府濱町 電話長五二番 直野精米所

仁川府濱町 電話長八六〇番 有馬精米所

仁川府、濱岸貿易 地帯使用組合

仁川府本町三 土居喜七商店 電話六七二番

朝鮮米穀倉庫株式會社 仁川支店長 高橋俊忠

仁川本町 杉野榮八 電話一〇二・八五八・六九三

京畿道 金泰錫

仁川海岸町 仁川自動車商會 電話六六〇番

仁川府海岸町 共同販賣組合

仁川府龍里二七一 邵城藝妓券番 電話八二六番

仁川濱町 ベンネット商會 電話二〇一番

仁川濱町 仁川旅館 電話四二五番

鮮航同盟會
仁川支部

日鮮海運株式會社
朝鮮郵船株式會社仁川出張所
大阪商船株式會社仁川支店
高杉商店回漕部
慶田組
國際通運株式會社仁川支店
朝日組回漕部
協同海運商會
嶋谷汽船株式會社仁川出張所

仁川外里 玉植商店 電話六五二番

仁川米豆取引所 平岡宇太郎

仁川金融組合 綾部熊男

仁川郵便局長 小原貞俊

仁川宮町 青島茶舗 電話一〇九番

仁川 中元源五郎

仁川府新町一九 和洋料理 梅一 電話七八六番

仁川府會議員 今村覺次郎

仁川府本町四丁目 仁川無盡株式會社 電話七六八番

仁川仲町 淺岡旅館 電話五三番

仁川海岸町 木村組 電話三一番

三井物産株式會社仁川出張所 太田政太郎

平壌府會議員 今井祐次郎 電話一〇三番

平壌 宮川覺之助

平壌魚市場

大同警察署 職員一同

平安南道 龍岡黄龍會

平壌司法代書人會

平壌 松尾正枝

平壌 西村金彌

平壌府 平壌興業株式會社

平壌府 菅原組 菅原正雄 電話長一〇七八番

株式會社 平壌券番

平壌府 平壌無盡株式會社

平壌府初等學校長一同

鎭南浦土木建築協會

鎭南浦生牛移出株式會社

鎭南浦 中村仁

鎭南浦 大浦秋吉

平壌府 仲村新聞舗 電話一〇八五番

平壌府 仲村報國園 電話一二六〇番

平壌府 藤野南山房 電話六一五番

平壌府 木村屋支店 電話七七五番

平壌府 直井芳五郎

平壌府 脇坂印刷所 電話一二四三番 振替一八九二二番

平壌府 淀川組 電話六四一番

平壌 山根政治

平壌府 鳳祥洋行洋品店 木邊房吉

平壌 石限信乃雄

平壌府 佐藤武明

平壌府 梶道夫

平壌府 川橋圭三郎

平壌府 奥田政吉商店

平壌府 田端菓子店 電話四五三番

平壌府 鹽貝商店 電話三七三番

平壌 貸座敷業組合

平壌 西本願寺 東本願寺 華頂寺 照國寺 大照寺 妙心寺 國泰寺 山元派

長富一之祐

平壌府 鷄林商事株式會社 銃砲火薬部 運動具部 昭和自動車部 電話一八番・一六二五番

合名會社 竹中商店

キクマサ

平壌府驛前 松岡酒場 電話二九番

電氣工事 請負設計 機具材料 電友社

平壌燒酎釀造組合

平壌醫師會

平壌警察署職員一同

平壌土木建築協會

平南レース倶樂部

平壌 專賣支局職員一同

平安南道陽徳邑内 各官公署職員一同 各學校職員一同 各種團體職員一同

平安南道立 平壌醫院

平壌呉服商組合 (イロハ順) 本田屋呉服店 吉本呉服店 丸橋呉服店 三中井呉服店 森下呉服店

片倉殖産株式會社
平壌營業部 平壌府大和町
鎭南浦出張所 鎭南浦三和町
沙里院出張所 沙里院邑
新安州出張所 新安州元興里
平南自動車商會 平壌府旭町
陽徳温泉九龍閣 陽徳郡新邑

體技日報 其五

羅府で開かれる國際オリムピック
全競技共に瀬ぶみは終れり
我國の勝算や如何

全世界のスポーツマンが祖國の榮譽の上に並び立つて力と技を競ふ國際オリンピックはいよ〳〵本年八月米國ロスアンゼルスにおいて第十回大會を擧行することになつた。そしてその日こそは我が日本が、新興のスポーツ國日本が輝かしい榮冠を目指して飛躍する時なのである。前大會には陸の織田、水の鶴田兩選手の優勝と南部、神田、山田、入江、高石、木村諸選手の活躍に、多數のスポーツ先進國をしてスポーツの貫禄を叫ばしめた、その豫言を的中せしめる日である加ふるに前大會に瀬踏みを終つたボート、馬術、拳鬪、レスリングが再び必死の覇を爭つて王座をねらふ外ホッケー、ア式蹴球漕艇選手が初出場する事になつてゐる。我がスポーツ界は今年度シーズンを迎へるや期せずしてオリムピック第一歩をとつて技の鍛錬へと邁進し出したのである

―◇―

國際オリムピック大會は紀元前ギリシャに於て行はれた四大祭典の一つである。オリムピヤ祭を復興して今から三十六年前一八九六年にギリシャのアテネで第一回大會が開かれ以來四年目毎に開催されて全世界スポーツ界の最大行事とされてゐるものである。古代ギリシャのオリムピヤ祭はゼウス大神を祀る祭典でペロポンネス半島の西北エリス國にあるオリムピアの聖地で、四年目毎の夏祭の後の最初の滿月を期して行はれた、この大祭には體育的競爭をはじめとして文藝詩歌その他の競爭が行はれてゐたが、主として競技であつた。そしてこのオリムピア祭における優勝は青年體育の最高目的であり競技者が獲ち得る最大の榮譽であつた、又優勝せる勇士を出した國は何ものにも代へ難き誇りとして優勝者にはその國の最高の名譽が與へられてゐた斯くも盛大な祭典であつたオリンピア祭も

(織田選手)

希臘の國勢の衰へと共に力を失ひ紀元三九四年にテオドシウス大帝が希臘、羅馬の祭祀を一切禁止しキリスト教文明の非人生的思想が起ると共に遂に潰れてしまつたのである。

―◇―

オリンピア祭が中絶してから千三百年後を經過して十九世紀の末、フランスのピエール・ド・クウベルタン男爵は、自分が常に主張する青年體育の增進と國交親善の目的でオリムピア祭の復興を叫んだ男爵の努力は遂に各國體育委員の賛同となり一八九五年にはパリにおいて其の第一回の會合が開かれた。この會合の席上オリムピヤ祭に準じて四年目毎に加盟國の競技會を開催し其會場は時は委員會で決定する事といふオリムピック大會の基礎が出來上つたのである、斯くしてその翌年一八九六年四月ギリシヤ王國のアテネに於て第一回の國際オリムピック大會が催された復興のオリムピック大會は、オリンピヤの聖地で開かれるのではなく加盟各國の都市に於て開かれるのでオリムピヤをオリムピックと改めて呼ぶことにしたのである爾來一九〇〇年にはパリ、一九〇四年にはセントルイス、一九〇八年にはロンドンと回を追つて開催されこの間に一九〇六年にはオリムピヤ復興を記念すべきアテネの競技場が完全に出來上つたと言ふので之を祝ふ爲に落成オリムピック大會を開催した。一九一二年にはストックホルムで開かれた第五回大會には日本も始めて參加し短距離の三島、長距離の金栗兩選手が遠征したのである、一九一六年にベルリンで開かれる筈であつた第六回大會は折惡しくも世界大戰に出會つて中絶したのである、一九二〇年のアントワープの第七回大會は平和克復の喜びを兼ねた大會で未曾有の盛大さで、日本からは十數名の選手が參加したが實力の相違は如何とも仕難く慘敗の淚を吞んだのである、現在のオリムピック記録中この大會で作られたものはマラソンでフインランドのコーレマイネンの作つた二時間三十二分三十五秒八とハイハードルでカナダのトムソンが作つた十四秒八である。續いて一九二四年パリに於て第八回大會が開かれた。此の時參加以來十年目に初めて高石選手に依つて得點し極東に日本ありと外人に向つて氣を吐いたのであつた。又オリムピック大會としては此の年から初めて冬季競技、即ちスキー、スケートを以て行はれる冬季オリムピック大會が創始され完全に全てのスポーツが集中せるオリムピック大會となつた、一方パリの大會では陸上競技に十七種目のオリムピック新記録が生れ水泳はその全種目が記録を新たにしたのである。一九二四年から一九二八年に至る四ヶ年は我がスポーツ界が加速度的に進歩向上し陸上水上の兩競技は完全に世界レベルに達したのである。その證據は第九回のアムステルダムの大會において立證された。織田選手、鶴田選手の輝かしい優勝は北歐の澄んだ空に二度日の丸の國旗が揚げられ君が代が二度奏でられたのである。加ふるに水陸兩選手の活躍け水上は米國に次いで第二位、陸上は十五點を獲得して選手權順位は第六位總得點第八位といふ成績を殘し、極東の日出る國日本を全世界にスポーツ王國として君臨する日の近き將來であることを思はせ、諸外國をしてスポーツの前途を畏怖せしめたのであつた。

◇…鶴田選手…◇

―◇―

かくて來らんとするは第十回大會及び第四回冬季大會である。冬季大會は一九三二年二月四日から十三日までの十日間米國東部のニユーヨーク州にある平和な村レークプラシッドにおいて開催される。この村の近くにはミラー及ブラシッドの二つの湖があつて僅に二、三百呎の地狹に依つて分たれてゐるだけで四方はそびに立つ山の頂に圍まれ風光の美に富んだところ夏はボートに水泳に冬はスキーにスケートに一年中スポーツマンが助れてゐない時はないといふので極めて氣風の純情な和やかな村である。

第十回大會は同年七月三十日から八月十四日までの十六日間に亘つてロスアンゼルス市を中心とした各競技場で開催される。ロ市は西海岸カリフオルニヤ州にある大都市で人口においてニューヨーク、シカゴ、ボストンに次ぎ百二十六萬人をかぞへてゐる氣候は温かく一年中日本の五六月頃と同じ温かさである。

(南部選手)

市を中心として在留邦人が非常に多く、邦人の殆ど全部が農業をやつてゐるまた映畫の都ハリウッドは市の郊外三十キロメートルのところである。この當米國は自國で大會を開催するに就いて何人も想像することが出來ない程の努力と犧牲をはらつてゐるのであるその第一はオリムピック委員會が米國を第十回大會の開催地に決定する迄の米國の努力である。一九〇四年に米國セントルイスに開かれた第三回大會は旅費がかゝり過ぎること、開催地まで行くのに日數がかゝる爲に歐洲から參加した選手が僅に六名に過ぎなかつたといふ歴史がオリムピック委員會をして容易には米國の提案を承認しなかつたからである、米國は一九二〇年アントワープの大會の際開かれたオリムピック委員會に於て第十回大會の會長である米國のオリムピック委員ウイリアム・メー・ガーランド氏が第十回大會を米國で主催したい旨を提出した時から猛運動を開始し、翌々この爲に米國からアントワープに赴いた數十名の代表は表に裏にあらゆる外交的手腕と反對者の切り崩しに努力したと傳へられる、この努力十二年が酬いられて愈々米國で開催することが決定するや米國は米國で開催する爲に起るあらゆる障碍に對して緩和條件を提供することになり、有力な準備委員會が直に組織されて微細な點まで計畫を細して準備が進められてゐる今日までに米國オリムピック大會委員會が公表したところに依れば競技は陸上、水上、漕艇、重量揚、ヨット競爭、レスリング、フエンシング、近代五種競技、自轉車競走、馬術、拳鬪、機械體操、射撃、ポロ、ホッケー、ヨッテイング、美術音樂文學のコンテスト等合計百三十五種で參加申込は三十五ヶ國に達してゐる。ロ市の中心にありオリムピック公園には新たに壯大なる競技場、水泳場が新設され之にオリムピック會堂、マラソンコース、ヨットコースが指定され、漕艇を行ふロングビーチには専用の列車を運轉するレールも設けられた。この外アデゲアの競技場、蹄府テニスクラブ及び、リベラクラブのグラウンドも使用することになつてゐる。右の諸競技場の外に各國選手の練習場として各種十五ヶ所のグランドが用意され南加大學、ロ市體育クラブの設備も提供し外來選手の便宜を計ることになつてゐる、又オリムピック大會中第一に問題になる各國選手の宿舍もオリムピック公園から僅十五分で達する福岡から六七哩離れた高臺にオリムピック村を建設し、各國別のバンガローを作りその中央には大食堂があつて各國特有の料理を調へる爲めに二十八以上の厨房が設けられてゐる、而して各國選手が一日に要する費用は八、九弗である、大會主催者はそのうちの二弗を要求するのみであると云ふから、選手の生活、交通費、娯樂の總てが一日四圓弱で濟むと云ふ譯である。この外、オリムピック委員會は米國內における汽車汽船の賃金を二割引するのは勿論各國の體育協會が證明する選手役員、新聞通信社員に對してはパスポートなくして入國出來る樣手配することになつてゐるので、米國がオリムピック委員會の前に提供した障碍打破の條件は全く至盡せりと云つてよい程、遂行されつゝあるのである。而して大會は早くも大會プログラムを決定して過日發表した本年七月三十日の午後は國際オリムピック開始以來空前に第十回の歴史的な華麗な開會式が擧行され、參加國の選手役員二千名の入場に次いで選手の宣誓ありこの時オリムピック大會旗が競技場正門の塔の上に揚げられ同時にオリンピアの古事に則り塔の上にかゞり火がたかれる。斯くてオリムピック大會名譽會長フーヴア大統領の挨拶をもつて開會式を終るのである。

(入江選手)

―◇―

以上の如く今や第十回オリムピック大會は全世界のスポーツマンの憧れと期待を集めて一日一日と近りつゝあるが、日本は如何に臨し如何に備へてゐるであらうか、オリムピック大會に對して日本を代表してゐる大日本體育協會は一昨年から高級理事會の會合で着々と準備を進め、今年に入つてからは正式の理事會の外に各競技團體の代表者を以てオリムピック準備委員會を組織し最も合理的に細心に萬全を期してゐる、數次の合議に依つて大體我が日本は八十余名の選手を派遣しその派遣費を約二十五萬圓と決定した。體育協會はこの外在ロスアンゼルスの中澤博士を日本陸連アタッシエに囑託しオリムピック委員との間にあつて交渉の圓滑を計らしめ、昨年七月十六日には水上競技の田中國三郎陸上競技の神田周一郎氏をロ市に派遣し競技場、プール、マラソンコース等のコンデイション及びロ市氣候等を調査せしめ、神田氏は同年九月十七日諸多のよき資料を得て歸朝し我がオリムピック參戰に多大なる貢獻をなした。既に平沼亮三男を會長とするオリムピック後援會は主として派遣費の調達に當つてゐる。右の如く我が日本として參加以來初めて慎重なる準備を以て大會にのぞまんとしてゐるがひるがへつて參加する各競技團體を見ると、之又慎重なそして果斷な準備時代を送つてゐる。先づ陸上競技は昨春の關東選手權大會に米國の二巨星シンプソン、ロザートの二選手を招いて小手調べを行ひ春から夏にかけては全國にオリムピック陸上練習會を開き擧國一致の實をあげることに努め、盛夏八月九日には準備のためにフルマラソンを行つた、そして鍛へた十ヶ月の結果は昨秋の明治神宮體育大會に選考を濟ませ本春の選手決定競技會を待つばかりとなつてゐる。次いで水上競技は二月下旬の春の休暇を利用し一昨年度ベストテンの選手を東京に集めて合宿練習を行つたのを第一着手に八月七、八、九の三日間に亘り水の王國米國の水泳チームを迎へ戰つて見事な勝利を博し自信を强めた漕艇は前大會の失敗に鑑みてフオア及びエイトに全力を注ぎ昭和六年度インターカレヂエートと全日本選手大會の優勝クルーを出場候補とし、これに本春まで各クルーからチャレンヂするを許し代表クルーの實力向上を計ると共に、代表クルーの實力不充分な場合には詮衡委員會は改めて代表クルーを決定することを得るといふ至れり盡せりの方針を立てゝゐる。拳鬪は代表選手を八名と決め目下は毎月オリムピック準備拳鬪試合を開いて選手の實力向上に努め馬術、ホッケー、ア式蹴球、機械體操も夫れ〳〵遺憾なく準備を進めてゐる、しかして我が代表選手は來る大會に如何なる成績を擧げることが出來るだらうかこれは極めて重大問題で今輕率に判斷を下すべきでない、しかし水上競技がやゝ優勢であるのみで他の競技は全く樂觀をゆるさない、若し近來目覺ましくも躍進し續けてゐる我が競技界の現狀に自惚れるならば、それはすでに慘敗したも同樣である、これは決して悲觀論ではない、我が日本の競技界が進歩せると同樣歐米のレベルも休みなく上りつゝあるのだ。それには唯一途、代表選手たらん者の倦まざる、たゆまざる努力と精進、そして國民のつきざる應援あるのみである擧國一致の力を以て當れば『白人何物』ぞである。

(高石選手)

醫學上よりみたる 現代のスポーツ

東大教授醫學博士 東 龍太郎

スポーツと醫學の提携

老いも若きも、男も女も、スポーツが體育のためにどれだけいゝかといふことは最早一般の人々に認められてゐるところである。春夏秋冬の季節を通じて、それぞれ適應したスポーツが求められ、殆んど年中それらの仕合競技が絶へるといふことがない。各種のスポーツをやるといふことは、一方それを見物する觀衆をひきつけて芝居や映畫に劣らぬ賑はひを呈し、そしてその勝負如何は多大な反響を呼び起して全國に喧傳されるといふ騷ぎである。

このやうにスポーツが盛んになつて、これをやる人も見物する人も共に樂しむといふことは非常にいゝことだ。然しかしこのスポーツ全盛の現象を一個の醫學者の立場から見ると、そこには戒心すべき多くの缺陷と危險がひそんでゐるのを指摘せざるを得ない。

スポーツ本來の目的は身心の鍛錬と健康保持のためにあるのである。各人の體質の差違に從つて、健康者は健康者として、病弱者は病弱者として、その體質に適したスポーツが選擇されねばならぬ。しかるに今日のスポーツ界を見るとこの目的使命を忘れて單に競技のため、勝負を追ふためにのみあるかの如き逆しい脱線をしてゐる。

もつともある選手と選手の仕合の興味が兩者の勝負に多大な期待を觀衆に抱かせることは言ふまでもない。その面白さ、火花を散らす息づまるやうな熱戰、見事なそのフエヤプレーが合理競技の一番の魅力でもあり、見物人をして思はず手に汗を握らせる面白いところでもある。從つて競技が見物人の要求と、選手自身の地位の獲得のために、無理をしてでも新らしい記録を作らうとする考へから、いつの間にか肉體の健康などは忘れて單に敵を打倒せばよい、新記録を得ればよいといふことになつて今日の弊風を生ずに至つたのだ。

それに一流の選手は『現代の英雄』と言はれてゐる位、各スポーツの競技の地位を得たものは若くして總ての名を擧る。スポーツ・ファンの憧憬の的となる新聞や雜誌がその私生活まで書きたてゝると言つた具合で昨日までの無名の青年が、遠く外國にまで傳へられて英雄的存在にまで祭り上げられてしまふのである。今日の若い青年がかうした傾向に眩惑されて、自分がその選ばれたる『英雄』になるために無謀な犧牲も厭けずその王座をかち得んがために、つい無理た練習や競技をする樣になる氣持は一面分らぬでもない。がしかしそれはスポーツをするといふ本來の精神に反したことで、そのために却つて身體を惡くした、病的になつたといふ矛盾した結果を生ずるに至るのである。これは從來のスポーツが醫學と提携することを忘れてゐたからである

出發を誤るな 無理に過る

英雄の崇拜を是認する今日の世の中に、お互ひの選手が勝を狙ひそしてその榮譽を擔はんがために努力以上の無理をしてまでも勝を遂げやうとする考へは仕方のないことかも知れない。新興スポーツ國として世界的にも最近知られてきた我が日本において、ともかく今日の日本の地位を築くまでに、如何はどもない、今日のスポーツの隆盛は一面にこれを見物して樂しむファンの夥しい激增といふことにも原因してゐるのだから、一部小數の選手がその犧牲者となることは仕方のないことだと言はなくてはなるまい。それは今日の世の中としては止むを得ぬことだ。醫者は健康保全のために過激な運動をやめよと言つても、ある事情に置かれた選手はこの言に服することは出來ない。どうしても負けることの出來ない競技には、それこそ心命を賭して鬪ふといふ事情に置かれることも考へてやらねばならぬからである。

例へば六大學野球リーグ選手の一生を見てもわかる。その選手の多くは子までもない。今日のスポーツの隆盛は一面にこれを見物して樂しむファンのおびたゞしい激增といふことにも原因してゐるのだから、一部小數の選手がその犧牲者となることは仕方のないことだと言はなくてはなるまい。それは今日の世の中としては止むを得ぬことだ醫者は健康保全のために過激な運動をやめよといつても、ある事情に置かれた選手はこの言に服することは出來ない。どうしても負けることの出來ない競技には、それこそ心命を賭してたゝかふといふ事情に置かれることも考へてやらねばならぬからである。

例へば六大學野球リーグ選手の一生を見てもわかる。その選手の多くは子供の時代から非常な無理をしてきてゐる人が多い。それが中學時代になつて一層ひどくなり他校との仕合等に於て出場の資格を得るための猛烈な練習がある。そしてその內で將來を囑目された小數の選手が、更に大學に入學して大學選手となり、リーグ戰に活躍するといふことになるのだ。

殊に今日では全國至るところが少年野球戰といつて、小學校五六年生によつて組織されてゐる野球團が各小學校にある。そして他校との仕合などにも、母校の名譽のためだとか、或ひは村、町、市、郡といつた一地方の名譽を擔つて他校との仕合に臨み、それが勝敗の仕合にまで發展して遂に全國的なものになる。それに父兄までがこれを將來にらいものに仕立てるために一生懸命力こぶを入れる。小さい選手の本人よりは、却つて親が血みちをあげるといふ騷ぎをやる。そして幸ひにして健康を全ふし得た小數の選ばれたものが、大學にまで進んで花形選手に祭り上げられるといふ順序になる。

こんな風で、今日の多くのスポーツ選手なるものは、その出發から既に誤つてゐるのである。花形選手として世の讚歎を一身に集めたい。華やかな選手生活がしたいといふ考へが多分に身についてゐる。これでは勢ひ無理が伴ふて肉體に逆だしい苦痛を與へるやうな結果になるのも當然だ。

小學兒童と 競技の弊害

小學兒童の運動に氣をつける―といふことを私は去年から極力主張してゐる。小學校の生徒は發育盛りの時代でもあり、運動させることは非常に必要だ。しかし大人けな肉體に無理を與へるやうなことを強要してはいけない。一地方の氣持や大人の考へから、いたいの名譽を擔つてゐるやうな他校との競技をやらせることなどは殊によろしくない。それは子供にとつてあまりに負擔が重過ぎるし、そのために身心に及ぼす影響もまた大きい。このことは單に醫學上からばかりでなく、教育の上から言つても慎むべきことである。

小學時代、中學時代の野球やその他のスポーツ競技は、何れかといへば本人自身がやるといふよりは他のものがこれをやらせる場合が多い。學校當局者とか父兄とかが、本人以上に熱を持つてゐる結果が、往々にして大學選手の眞似をさせ、そのために本人は背負ひきれぬ負擔に肉體を蝕まれて行く。

元來、子供は疲勞の限度が分らず極めて無頓着である。大人だつたら相當に疲れてくると見きりをつけて運動を中止するが、子供は自分が疲れてゐてもそれを意識せずにいつまでも續ける。殊に大きな名譽を擔ふてゐる場合の小學選手の仕合などは、負けては學校に對し、先生に對して申譯がないと父兄の激勵に對して顏向けが出來ないと唯そればかりを氣にやんで昏倒にたゝかふ。倒れるまでやるこのやうな悲壯な決心を強要することは非常な間違ひだ。

だからこの點教育家なり、父兄なりは大いに戒心して、さうした無理を強ひないやう心がくべきである。對校仕合とか、賞をかけての競技は徒らに弊害ばかり多くて却つて惡い結果に陷る。

それはすべてのスポーツが競技を究極の目的としてゐるのだから全然これらの對抗仕合をやめてしまへとはいはぬ。だから異なる校內における一の組と二の組の仕合とかいふ限度を附して、どし〳〵やらせるべきだと思ふ。他校との仕合さへ除けば、校內では寧ろすべての生徒に一樣に凡てスポーツを我がものとさせるために一般とこれを獎勵すべきだと考へるのである。

小學兒童のスポーツの危險性はこゝからこゝまではよいがこれから先は惡いといふやうな、明らかな線を劃して區別をつけることは出來ないが、しかし原則として校內だけのスポーツに限ることを以て先づ安全と言ひ得る。それ以上に出でぬといふことによつて、子供の肉體的精神的利益は失はれずに濟むであらう。

醫學上から 年齡の關係

如何なる種類のスポーツにしろ外國では年齡、性、の差別によつてきめられてある。ところが現在の日本では一切お構ひなしといふ狀態だ。例へばウインター・スポーツの中にスキーの如きも、このスポーツの發祥地であるスエーデンでは年齡によつて距離が制限されてゐる。滿十五歲以下は何メートル以上の競技に出場は許されぬとか、二十歲まではこれこれの制限を附するとか、嚴重に年齡によつてその走行する距離が制限されてゐる。身體のためにはウインター・スポーツは非常によい。しかしそれも一定の限度がある。しかるに日本では年齡などには全く無頓着で外國では禁止されてゐる距離をどし〳〵破つてゐるといふ風である。今冬スエーデンにおいて開かれるオリンピック競技にも、日本は優秀な選手を持ちながら、この年齡の制限あるため派遣出來ぬといふ狀態にある。最近流行してゐるボクシング(拳鬪)なども西洋人の體力基準として作られたものである。それを我々日本人が殺ぎと共に太刀打ち出來るまでには、そもそもの體質から十分對抗し得る程度に改造されて行かねばならぬしかるに大人がこの拳鬪をやり出すと中學生の間に流行し、遂に小學兒童の中にさへ、大人同樣のグローブをはめて相手をノックアウトするといふ傾向を見出した。この道の人は優秀な拳鬪選手となるには少くとも中學時代から始めなければものにならぬと言つてゐるが、全然中學生向きのシステムを別に作るならとも角、現在のまゝを教育途上の中學生に當てはめることに贊成は出來ぬ。アメリカなどでも少年の拳鬪には空氣の入つた柔らかいグローブを使はせてゐるのだから日本でもこの點を大いに研究すべきである。

また野球の場合にしてもさうだ小學校の野球仕合には多く軟球が使用されてゐるが、中學以上になると硬球を使つてゐるもとく硬球は西洋人の優れた體力が、これを十分になし得る程度のものとして作られたもので、これを日本の選手が我がものとして使用し得るまでの自體の鍛錬は非常なものであつたと言はねばならぬ。それを大學の選手が使用するから自分達もそれを使用しよう、硬球でなければ眞の野球ではないといつたやうに考へて大人の眞似をすることは醫學上からは正しいとは言へぬ如何なる理由によるも中學生の硬球使用は確に無理である。

かくの如く、スポーツの盛んなことは國民保健の上から喜ぶべきことではあるが、一歩を誤れば取返しのつかぬ悲劇をなめねばならぬ。將來のスポーツは醫學との密接な提携によつて始めて完成されるであらう(完)

賀正

新年の御宴會は カフエー白蝶へ 京城本町三丁 電話本局三六二五番

新年の御宴會は カフエーキングへ 京城本町五丁目 電話本局一七一八番

杵屋號 山本惣三郎 京城本町三丁目

京城本町三丁目 岩見屋吳服店 電話本局二三二三番

京城本町四丁目 岩見製綿所 電話本局一六〇一番

京城旭町三ノ一三 佐々木兆治 長電話本局二六九四番

京城明治町 壽し久 電話本局一九一〇番

京城明治町 京染 白生地 まるや京染吳服店 電話本局六六〇番

京城本町一ノ一八 黑川精肉店 電話本局九六四

京城南山町 京城美術俱樂部 電話本局一三六〇番

京城府本町二丁目 合資會社 山岸天佑堂

京城驛前 旅館 林屋旅館 電話本局六二九

朝鮮火薬銃砲株式會社 京城南大門通五ノ一八

京城本町三丁目 丸久精肉店 電話本局二二五〇番

京城本町二ノ二 明治町大通り 貴金屬裝身具製作 時計類並ニ修繕 土橋金光堂 電話本局一五七二番 振替京城六二〇一番

山岡時計店 山岡龜太郎 京城黄金町一ノ一九 長電話本局二三四八番

京城本町一丁目 北內商店 電話本局一二三一番 振替京城一五九番

京城府黄金町二ノ一五九番地 愛國商行 鈴木友造

櫻井秀專 京城明治町

京城花園町九七 東華洋行 電話三九九二番

京城本町五丁目五十二番地 低溫殺菌 蘭谷牛乳消毒場

京城府南大門通二丁目 株式會社 大倉洋紙店 京城出張所 電話本局四九〇番

紙・印刷業 谷岡商店 京城本町四ノ三三 電話本局一八一四番 (長)二三四〇番

町田新聞舗 郁文堂

京城府南大門通二丁目 堀井謄寫堂 京城出張所 電話本局四〇二一番

共濟信託株式會社

京城府旭町二丁目三九 割烹 京喜久 電話 長本局七一五六番 本局三三九一番

岩佐重一 渡邊信治 戒能義重 鷹松龍種 山村銳吉 佐藤剛藏

京城本町二丁目 阿部薬房 電話本局四八七番 (長)同四二六六番

京城府內官公立中等學校 校長會

曉鷄聲

隨筆 酒と煙草と

徳田秋聲

新年には酒の話でもするのがお適當だと思はれる。酒は好い日本酒なら僅の微醺を何うかすると私も飲みたいときがある。併し精々四五杯の程度でそれ以上は苦しくなつて舌と胃がそれを拒絶する。その四五杯も飲むときはひどく愉快で、目が少しとろとろしてきていはゆる陶醉氣分に觸れることができる。翌日はきつと體が輕くてあたまがどんより曇つて來る。私の舌は酒の味に相當敏感らしいが、體質がアルコールに堪へがたく出來てゐる。しかし私は酒興（氣分）は嫌ひではないので、何んだ酒吞みのお相手でも出來るし、長いあひだ色々飲酒家とつきあつて來てゐる。餘りしつこい管をまかれるのは閉口だし、若くなつて突つかゝつてこられるのは閉口するが、酒飲みは屢々日常の社交における虚僞や虚飾の衣をかなぐり棄てゝ、脱線しながらも本音と思はれるところを口にするので、親しみが加はる。酒吞仲間が大抵の場合仲のいゝのは、その社交的虚僞から解放されてゐるからである。勿論酒のために醜いところを剝出しにして來る人間も世間には澤山ある。しかし酒で出て來る醜さなどはもともと仙愛のないものである。

さうはいつても私は決して酒の禮讃者ではない。酒の好いところは實は酒の少しはかりで、醜いところがそれの幾十倍か知れない。酒のために生命を棄てた人、才能を腐らしてしまつた人、妻子を泥に沈めた人、人に迷惑をかける人や、何と世のなかに多いことだらう。それは人間の舌に取つて、甘過ぎる酒を湯水か何ぞのやうにも無闇に胃袋のなかへ流し込みすぎるからである。しかし米國のやうに豐かな物質に惠まれた國民は禁酒によつて益々幸福になれるだらうが、日本のやうに貧弱で人間の多過ぎる國では、アルコールの禁斷することもまた相當必要なのかも知れない。年々酒で生命を棄て人は、戰爭で生命を取られる人よりも、比較にならない程多いだらう。

日本の酒飲みは、しかし酒を尊崇する點では、相當惠まれてゐるが、喫煙家はそれに比べて遙かに不幸である。何ゆゑかといふと、日本には煙草らしい煙草が絶無といつても可いからである。洋酒を好きな人は別だが、しかし日本酒は十分うまい。洋酒の高級なものは、勿論價格も高いが、日本人の體質ではさう澤山は飲めない。ヂンやウヰスキイやドムのやうな酒を多量に飲むことは寧ろ冒險である。しかし煙草は外國のものが本當の煙草といへるだらうか。スリーキャッスルとかウエストミンスタとかアブダラとかいふやうな煙草は少數の金持でなければ、殆ど喫むことができないほど高價である。

私の喫煙は殆んど病的になつてゐる。大抵毎日『朝日』を四五箱、それにキヤシップとかチエリーとかバットとか安い兩切を二箱か三箱は喫ふ。雨が重くなつてくると刻みで緩和する。私は間斷なく煙をはいてゐる。風呂に入るときでも口にくはへて入る。これは物を書くものゝ一つの病氣だが、私などのは數ふべからざる贅澤に屬つてゐる。勿論私は煙草をうまいから喫ふのではない。『朝日』とかバットとかチエリーなどは、うまくも何ともない。たゞ數が多いから安い煙草を喫ふだけの事である。私はどうかすると、舶來のよいたばこを喫ふことがある。去年の夏洋行歸りの人からアブダラの五號三十箱貰つた。たしか五十本入りだつたかと思ふ。アブダラは英國では、ちよつとした紳士なら大抵常用にする代物らしいが、日本へくると非常に高い。五號は東京の煙草屋では見受けたことがないが、二十五號は來てゐるやうである。ウエストミンスタより少し高いかと思ふ。兎に角その三箱のアブダラのお蔭で、『朝日』や『バット』の不味いことが、いよいよ明白になつて來た。これは一體煙草といふべきものか何うか疑はしいくらゐ不味い。酒でいへば泡盛である。或は燒酎である。日本の煙草は刻みにして、長い煙管で喫めば、いくらか煙草を口にしてゐる感じだが、元來紙に捲いて喫すべき種類の物ではなささうである。高級品といつたところで喫みや脂が少ないといふだけで、芳香もなければ、甘みもない。喫の煙や煙の質と何れだけ違ふか問題である。煙草の栽培について研究されつゝあるかいなか、私は知らないが恐らく注意が拂はれてゐないものと思はれる。

日本人が一般に煙草らしい煙草の喫へないことは、現代の文化程度においては、寧ろ一つの不思議である

霜雲

尾上柴舟

出でて見る曉のみ空の靜けさに明けむあしたの日はよかるべし

大空にかゝる師の勵より譯る計さへ樂しき

門松の葉末葉尖に置く霜に今日の淨さを思ふなりけり

かにかくに今日に逢ひにき今年こそ神はよき日をわれに賜はね

今にして何をか思はむただ今日をめでたしとのみいひて過さまし

松を飾らん

ささきふさ

街路樹が行き亘つた爲か、季節の色は小さな町にまで、年毎に濃くなつて行く氣がする。それだけこの秋の末から初冬にかけての街まちの寂しさといつたらなかつた。木枯は落ち殘つた枯葉を誘つて、乾いたアスファルトの向うへこちらへと吹き寄せる。邸町の通りには、吹き寄せられた落葉を集めて、何にするのか大事さうに、ビール箱につめてゐる店員もあつた。

さうしたら寂しい風物を見るにつけ、私はいつにない待遠しさで、店頭の松の緑に飾られる時を想はずにはをられなかつた。歳暮賣出の赤旗に次いで立ち並んだ松飾は、裸な街路樹の間で、例年のそれよりも遙に生氣に溢れてゐる感じだつた。私は松飾といふものに何か新たな意義を見出したやうに思つた。

實家は横濱も目抜きの町中だつたので、松飾にも何か約束があるらしかつた。試驗も濟んで、終業式クリスマスと心忙がしい出入の間に、いつか內玄關の前には、松の小枝をこんもりと束ね、地上一尺ばかりを行儀よく繩で捲き上げた一對が立つてゐた。見なれた爲か、小ぢんまりとしたこの形の松飾が私は一番好きだつた。來る年も來る年も內玄關の前にはこの一對の立つものと私は思つてゐた。どこへ行つても私の立てる松飾はこの類以外にない氣がした。

だがその家は震災と同時に、あとかたもなくなつてしまつた。その頃から私も家を外にし出した。私は私自身の生活の目まぐるしさの爲、年々の松飾に氣をとめることさへ忘れてゐる場合が多かつた。たまに屋敷町の通りすがりに、小ぢんまりしたあの型の一對を見かけると、今はあとかたもない横濱の實家の土藏の影や內玄關の斷脫や、――妙に細こました陰ずみがいやにまざまざと浮んでくるだけだつた。

たうとう家を持つてから七度目に迎へる新春だが、私はいまだに自家の門前に松を飾つた例がない。目黒の家は小松の土手に圍まれてゐた。鎌倉では古松のゆたかな寺院の境內に住んでゐた。今ゐる家は松を立てる餘地も乏しい路地の奥にある。さうした環境も影響してゐるのは否めなからうが、松飾を立てたことのないのは心にも生活にもまだそれだけの落つきを得てゐないからだといふ風にも考へられる。

因襲にはあまりとらはれぬつもりの私だが、傳統の持つ力は――昔ながらのもののよさは、年と共に飲みたい氣持が切りだ。昨日は明日だ、過去は未來だといふ言葉の含む眞理も、この頃になつてやうやくはつきりと解つた氣がする。私は私自身の目で改めて傳來の行事を閲しその一つひとつを私自身の手で守つて行つてみたいと思つてゐる。

この秋の末私は夫のうまれて初めての重患を私一人の手でみとつた。一人で一切を處理しただけ、快方への曙光を認めた時の私の喜びは大きかつた。私は多くもない見舞客の名を書きならべ、心祝をくばる時のことばかり考へてゐた。古風な鳥の子を初めてくばつた日の氣持は不思議に清新なものだつた。私は今その日の私自身を思ひおこし、今年も門に松を立てなかつたのを、ずゐぶんおしいことをしたものだと思つてゐる。來年は――來春こそは私も私の家の前に松を立てよう。小枝を束ね、繩でも捲き上げたあの私の型の松飾りを。

黄葉と鶯

若山喜志子

○
軒端なる竹の葉むらの頰白群れきるまではしばらくさわぐ

○
一さかり黄葉に映えし庭の欅散りての後の今朝の寒けさ

○
霜竹のひらく若葉に朝日さしめて鶯の冬日あたたか

○
生ひまじる雜木の黄葉うるはしの林にうぐひすの鳴く

○
東海の沼津に住めば黄葉の散りのまがひにうぐひすをきく

新年文藝

俳句（一）

題『新年雜詠』　臼田亞浪選

天（賞）　京城府明治町七番地　西村梅子
元日の夜の活け竹の酒句ふ

地（賞）　敬山南驛前通一ノ拾貳　岩上松雄
初日まつ杉の雫が我が肩へ

人（賞）　金北金堤本町　國宗朝女
羽子つくやみどりのひまのとゝきを

○　龍若浦　安部ひさし
雲虫のとぶ朗らかや初荷酒
男鋏江
○　京城　正司　朝仙
初凪ひよろひよろと出る赤源
○　京城　正司　信子
雪を踏む暮初詣へ山たちて
○　龍若浦　安部　岡子
おゝそてあまし窓の雪コンコンと
○　仁川　崇東　見楼
初更の酒氣がほのかな彩色し
○　清津　巴　冬瑛
社選取つて円寂くなる夕かすみ

隣ゆ初日京のなぞへに鳥消ねて
○　清津　巴　犀女
門松に人跡ふれぬ夜の雪
○　釜山　福田　雲房
初詣で朱欄の雪をふみけり
○　瑞興　石井　峽波
羽子ひらくく窓のまじれる雪風に
○　京城　佐々木　碌鶴
歳去の夜半に大望す羽軍國か
○　新義　金子　銀亭
福笑に子を泣かせてお元日
○　海州　西村　公園
元旦のお日もさたぶくうす探り

○　忠南　久光はるみ
翳備のさゆれもなくて四溫晴れ
○　永登浦　岩元　汀谷
古甕の水餅甦めるお元日
○　京城　近藤みずほ
若水の歯にしみるなり雪旦
○　福岡　赤坂榮寺櫻
初鷄の聲や温泉宿のうす明り
○　元山　甲斐　畿成
初荷して鰤をかまへたり月明り
○　鐵原　川村巴都子
鷄鳴くや雜煮仕かけし瓦斯竈
○　荒務道　中込　國水
初日の出鴨水切つて立ちにけり
○　釜山　曾禰部木耐
荒蓆のひとときの初日を見たり
○　京畿　岩永　征矢
笙の音の澄めば初空玉位巡れて
○　京城　赤松　鳴瀾
猿廻し日向の落着拂ひ晴れよ
○　京城　西村　梅子
初日影めざまし(く)梅花咲きぬ

撰後小言

臼田亞浪

投句は例年にもまして多いことであつたが、理智化されたもの、新奇化されたものもまた少くなかつたことを思ふ。それに、滿洲事變をとり入れたものも相當にあつたのであるが、多くは理智化されてゐるか、わざとらしさがあるか、報告にとどまるかしてゐて、殆んど心を惹くもののなかつたことを遺憾とする。

特別選集の意義に鑑み、選分批判のレベルを引き下げて、內容なり表現なり多少とも取り柄のあるものは撰び入れたし、匆忙裡に筆を加へてまで採り入れたものも可成りにある。それらの作者は原作と照らし合せて今後の進展に資せられたい。

佳作級の作品も可成りに多かつたことを欣ばしく思ふ。けれども諸君はこれに安んじてはならない。純正なる俳句の道ははるけく遙いそしてまた深く深い。さうした高次的な理念のもとに創造されてこそ本質的な俳句作の意義があるのである。かくしてはじめてこの甦荊の生活に資して生活の擴充による生命の安住も得られよう。

天位の『元日の夜の活け竹』はつゝましさの裡にたゞよふ和やかな生活感情が、眼前口頭の一景象を新つて遺憾なく象徴されてゐる。それも作者が女性たることに於て一段感銘を深うせしむる。地位の『初日まつ杉の雫』は、よく瞬間の動機を掴んでをり、動機として撰ばれた言葉そのものも何等他奇なきに拘らず、殷賑さのひしと迫るものがある。人位の『羽子つくやみどりのひまは』うれはしい生活に置かれながらも、羽子の音にひかれた一脈和やかな氣持ちが汲めて流石に女性ならではと思はしめる。表現態度の素直さも稱すべきである。

佳作中の鳥洒君の『猿廻し』征矢君の『笙の音』木耐君の『荒蓆』をはじめ內在律なり外在律なりすぐれて味はるゝものが數句にとどまらないが、批評言はこれを略し年と共に一段の精進を望んで筆を擱く。

川柳から

長林獨尊

古來『猿』又は干支に因んだ『申』を詠み込んだ川柳は極めて少なく殆んど絶無といつてもよい位である。何故にこの種の文獻が尠いかといふに語韻『サル』がいはゆる『去る』と相通ずるものあるが爲めに縁起を祝ふ場合には『サル』を忌むといふところから猿に關するものがないと察せられる。筆者は極力古書その他に亘り詳細に調べて見たが結局徒勞に歸したので、正月に付きものゝ『猿廻し』と滅勞のいゝ『松の內』に目出度い『萬歳』を配して拾ひ出して見た

猿廻し

背中からひよいと飛ばせる猿廻し
△門口で背負ひ投げする猿廻し
△隣からひつ下げて來る猿廻し
△どりぞ御をお次へと猿廻し（喧嘩するから次の宿への意）
△猿廻しつかんで來ると肩を出し（貰ひが濟むとサッサと歸る）
△どつどつと笑つた後へ猿が來る（萬歳の歸つた後へ來る）
△猿廻し投げると杖で掻寄せる
△ぶち棒で隣へ運ぶ猿廻し
△猿廻しあふあふ掻かせ茶り（若樣にヒヤヒヤしながら抱かせる）
△足らぬ毛に三筋を添ゆる猿廻し（三味の音で猿は人より毛が三本少ないといふ俚言を匂はす）
△あすの日のない樣に彈く猿廻し（淺茶蛮茶に三味線で彈く）
△猿廻し陳皮を集め暇乞（陳皮とは蜜柑のこと）
△猿廻し一練あてゝ禮をさせ
△石盆へあやまつてゐる猿廻し（植木鉢をひつくり返したので詫んでお辭儀をする）
△猿見の失せた一分に頬を押し（若しや口內の袋に餌を入れて居はせぬかと疑ふ）

松の內

△若水を地主の殻で大家汲み
△つまむほど疑たと若水汲んで來る
△元旦の塵はつまんで捨てられる（元日は掃除をせぬ慣行を云ふ）
△髷持つ下女は叱られ初め也（右に同じ）
△正月はお降りからもしやちこばり（あらたまつて年始を述べる光景）
△松竹の間から道理を述べ始め
△數の子の椅子に松葉ひんねしり
△もう證つあるかと雜煮椀合せ
△節禮の廻り道するいゝ節り
△松の木へ禮をして行くのどやかさ
△三ケ日よばれたやうな箸で食ひ
△年禮は首だけ入れて御慶也
△又一つ年の若とる雜煮椀
△本性で先づ二三軒申入れ（二三軒は素面で禮廻りする）
△裃でおふざつて來て笑はれる
△裃を着せた男を杖につき
△裃で隣をあけるよい機嫌
△門禮に追手のかゝる仲のよさ（掛者の家へ上らぬとは怪しからぬと追ひかけて來る圖）
△正月のふざけ初めは三河なり
△御無用の禮萬歳は吾づゝみ
△嫁の來た春萬歳にきつい入り（花嫁を見るのが目當て）

京取市場所屬仲買人（各組合員）（各組番號順）
大白洪正山（株式會社）京成松古新田立南白
林井　崎徳口城清山野田中山
　友殷長泰恒證　　　道　相樂
淺之　之公太券竹主義耕太榮
市助柱助司郎（株式會社）松計行市郎吉瑢三

京城黃金町
坂井耳鼻咽喉科院
電話本局六四二番

謹賀新年

山中大吉

植村病院
京城永樂町二

京城本町一丁目
本城屋
電本二三四三番

京城府南大門通二丁目
株式會社後藤風雲堂
京城出張所
長距離電話本局二八八五番
長距離電話本局二五七一番

京城府本町二丁目
和洋料理
江戸自慢天ぷら本ビル食堂
電本二三三〇番

金剛山電氣鐵道株式會社

京城府旭町一丁目
本券番
電話本局　二六五番　一〇九七番　一八一八番　二一一〇番　三三一六番

新町遊廓組合

京畿道金融組合聯合會
京畿道各金融組合

京城旅館組合

社團法人朝鮮土木建築協會
電話本局長一〇八三（二階理事室）
本局長七三五（階下事務室）
本局二四六七（娯樂部）

春姿——夏川靜江

昭和七年の劇壇

新興の生氣求め難し

歌舞伎は沒落へ 俳優は老ゆ

縁起でもない話——市川三四郎

新年早々あんまり縁起でもない話だが、昭和七年の芝居國は、去年よりも更に不景氣で……（だからこゝには冬の時節の下から下萌ゆるものゝ必ずあるであらうけれども）憔悴たる年であると豫想した方が間違ひがないらしい。

歌舞伎劇は加速度で沒落の坂を駈け下りるであらうし、昨年々末に「新派復活」などゝ聊か氣をよくしてみた新派劇も、脚本の行きづまりから、矢ッ張り元のモクアミメと相成ることになるであらう

昭和六年は、たとへそれが見當違ひの努力にもみた話であつたにもせよ、春秋座問題などといふお景物があつた爲めに、何かしら日本の芝居も亡びぬやうな（つまり大いに何かゞ興りさうな）錯覺を人々に與へたのであるけれども、今年はもうそれもいけまい。猿之助の春秋座破損は封建日本の演劇壇が斷末魔の喘ぎであつた。

○

人の世の歴史は當然人が作る。よし人間の意思は行爲のあとから來るのだといふ見解から眺めるにしても、行爲する人間があつてはじめてそこに歴史の過程が生れるのであらう。從つて昭和七年の劇壇を豫斷することは、そこに住む人間共を觀察することであるとこう思ふのである。これは大いに唯物史觀的だな、と思ふのである。昭和七年度の劇壇を背負つて起つ人々に誰々が居るか。いで見參に出かける。

(1) 大谷竹次郎とその一黨

大谷竹次郎とその一黨——つまり日本の興業王、劇場トラストの總本人、松竹興業株式會社。この御一黨が先づ劇壇の大本山でなければならぬが、御氣の毒ながら御一統本年の御運勢は大凶である。大凶の吉にかへることはおみくじ學の機能であるから、御一統敢て悲觀するには當らぬけれども、申上げるならば、松竹もよう金が動きません。それで處事決すである。昨年東西の松竹を合併して一大トラストが完成したと見れた時が、行き詰りの行き詰りであつたのだ。たとへていへば、人の一生は重き荷を背負ふて高き山に登る如し松竹もよう高い山へ登り切つて了つたのだから、あとは羽化して天上するか、思ひ切つて下山するか、二つに一つ、そこが即ち大凶吉にかへる場面となるのだが、恐らく本年中にはその決心はつくまいか。頭上で排當でも食つて居る暇に、誰かから驚天動地みたいな事件でも持ちあげる者が居ると面白いが、見渡す限りそれらしい影も見れない。

寶塚の小林一三。この小父さんも松竹が時に相談役の願稱を添つて歡心を買つて居るほど、何か一仕事やりさうに見れるのだが、どう致しましてこの人決して馬鹿ではない。新橋の藝者どもから勝惚されて居る程度の分つたり屋だ。帝劇の山本久三郎。覇氣あれど度胸なし、他は碌々語るに足るものがありません。

これを要するに興業者から見て本年の劇壇は無風狀態を暗示して居る。

尾上菊五郎

(2) 劇作家

新派劇がレアリズムの運動を唱へ——その實新派劇のレアリズムなどは黙阿彌あたりが完成した世話物の内容にすら及ばない代物だつたんだが、とにかく一代の氣運に乘じて劇作家協會などといふものまで出來上り一座三百圓以上だなどゝ大きく納つた程の劇作家時代が現出した（つもりで居た）のであつたが、今やどうですか。

花柳章太郎は、これは誰かよき指導者があるならば、アメリカ劇壇におけるジョンバリ位までは行ける人材である。けれども商賈が件における日本の外務省のやうに新派の中にだけ根を張ることを專念して居る（日本一大事を忘れて居る）現在の意味では、これも恐らくは昭和七年を穩やかにする維新は望み難いのであらう。

興行師も金が儲けたいのだ。あれは必ず客を呼びさうな脚本さへあれば、實際また與これを買ふ時であり、興行師の陣營内にだつて脚本の分る位の人間が居ない譯ではないのであるが、東西の大劇場に上演せらるゝ脚本を見よ。松竹のお雇ひ作者の愚作か、西洋ものゝ焼き直しか或はそれらに近きものゝみだ。

誰か出ないか新に週刊ではないのか。

週刊は、或はあるであらう。が既成作家によき脚本を求め得ざると新進の登場するもの少きとは、二つに共通する原因が横はつて居る。曰く果てしなき思想の動搖と檢閲制度。

一世を支配し、或は激動する思想が確立して居ない過渡期の悩みが、よき脚本を作り出すことの障碍となつて居る事情は、同じくよき俳優よき劇團の成長せぬ原因にも共通するから、これは俳優を語る時に説明し度いが、

檢閲制度に就ては敢て興行師と劇作との共同戰線を力說する。こゝに興行師といふのは金子洋文や土方與志やその他の左翼的興行師をも包含する。左翼劇團も營利劇團も大谷竹次郎も作戰劇家五郎も苟くも大衆に芝居を見せることに關係のある人々は、協力してこの怪物を改造すべきである。劇作方面における昭和七年は、せめて檢閲制度改革の運動でもおこつてくれ。

俳優の群 その一

現在の日本の俳優で、何かな仕出かしさうな者共を物色して見るならば、人々は先づ市川左團次、尾上菊五郎、市川猿之助、花柳章太郎などを腦裏に浮かばせるに違ひない。

大阪には延若と鴈二郎とが何かしさうな空氣だけを示しつゝ何もせずに臥て居るが、（この二人はダークホースとして昭和七年にもなほ聊かの興味を投げるものだが）結局俳優が何事をか仕出かしさうな、といふ意味はその素質、その經驗、その現在の人氣から推測する内容であつて、昔は新派と組んで『不如歸』をやつた程の豪傑吉右衛門も、あの當時すでに歌舞伎をやつた幸四郎も今や早や老いた羽左衛門、梅幸、吉右衛門の徒は既成能樂における各派家元と見ればよろしい。若くて人氣があつて覇氣のある人々——（若いといつても菊五郎でさへすでに五十である時だから、世の本當に若い者共よ、老人に支配されて居る境遇を怨しむこと勿れ。五十にしてなほ且つ新色の出來る俳優をこそ突むべけれである）と誰の頭にも浮んで來るのが前記の數名である。

市川左團次

然し、昭和七年のおみくじは、皆樣八方ふさがりと出ることに相違ない。何故か？——前記四名は年齢關にして置いたのであるが、

市川左團次はもう金も出來た、綺堂ものによつて開拓した所謂新歌舞伎の偉業（少く共よき遺産）も成つた。細君が利巧でこれ以上何をやらせるものか。親父から借金と共に讓られた明治座を松竹に渡した認識があつてこそ小山内薫との提携だつた。新歌舞伎の樹立だつた。今や高橋老何を苦しんで何事を爲さうとするか。いや絶對にしないに違ひない。本年日本を代表する劇團家として米國の劇場主ボールモスから招聘されることも曾て勞農露西亞に招かれたことも、それらはすべて昭和七年度以後の日本劇壇に何らかゝあひのない事件だ。市川左團次すでに過去帳中の人たり

（筆の突走るところ縁起の悪い文字は許せ）

菊五郎は、——この男の纖細だけを人は褒めるが、この人本當のうまさはその世話物になくてはならぬ。愚かなる世間は彼の『冬木心中』を見、彼の最近の傑作『一本刀土俵入』を見て彼の新劇（新歌舞伎か、新！）に對する理解と演出に感嘆する。けれども、それは西洋人にすゝめられて『能』を見てはじめて日本にもシンボリックな『舞踏劇』のあることを發見した批評家と同じやうに、田舍から出て來た劇評家の、謬れる批評（不幸にして活字になつた批評）に謬られたる錯覺だ。菊五郎程度のレアリズムは彼の弟子の伊三郎や鯉三郎にやらして見ろ、もつとうまくやるではないかと思ふ。ホラではないが江戸ッ子の俳優には、下廻りといへども菊五郎ぐらゐの洗練された藝術は持合せがあるのである。この點新劇勃興以後の俳優（らしきもの）ども、記憶せよ。それが現れることも出來ずに居た理由は一にかゝつて日本劇壇の封建的制度に在る。そしてこの封建的俳優群の制度を今日にまで持越した理由は、興業師の覇者松竹の内部に人材のない結果である。そしてまた、わが尾上菊五郎も封建的俳優群中の一羽の雄鷄たるにすぎない。彼に何ものかを期待する消息通のあることは、封建宗羽家城を主宰する彼がたとへば（江戸では鐵スカンにしろ）小林の小父さんあたりと組んで松竹に一泡をいどむかもしれぬといふやうな點につながれて居るのであつて、今や、時代はすぎた。御ら何をか菊五郎にもとむるや。

俳優の群 その三

市川猿之助に、正直にも彼の全能力を擧げて、一昨年十二月以來昨年上半期まで松竹王國と戰つて見たのである。春秋座事件は歌舞伎王國の代表選手である澤潟屋と興業師松竹王國との、云はゞ私事に過ぎなかつたのである、けれどもこの戰にはどう間違つたものかナップの御連々までも參加して昨年の劇壇に時ならぬ賑はひを見せて了つた。ナップの村山某、神崎ナップの高田保、この戰爭の彌次馬金子洋文など、こんな認識不足な連中によつて、紙面をふさがれる新聞や雜誌こそ禍なるかな。

閑話休題。——ただが猿之助ももういけまい。彼が彼一流の負けじ魂を、どうにか處理して出直し得るのはまア來年か。今年にこの男も疲れて居る。

かく觀て來れば甲も駄目、乙も駄目だ。勿論ABCDいくら並べて見ても問題は同じことである。あとには續く弱者もなし。七年の劇壇もいやに淋しいナ。◇

寂しいのは何故であらう。話はこゝで思想の動搖に戻る。月四十圓の給料を貰つて自轉車の小僧を叱つてゐるお巡査さんはその四十圓のために國家を愛するけれども彼氏は愛國に一足一圓の下駄を買ふことが出來ないために國家を呪ふであらう。これはお巡査さんの思想の動搖である。そしてこの二つの氣持を如實に再現する藝術などといふものは、さうメッタに出來るものではない。況んや綜合藝術である處の演劇には、臣に樣々のハンデイキャップが附せられて居る。藝術の分野において、その表現の自由な點で最も惠まれてゐる物語の形式（小說）でさへも、プロレタリヤ文學と大衆文學とが各々その小さな領域に立籠つてあがいて居る現在の日本に脚本だけは立派なのを作れといふのは無理であらう。よき脚本のない國によき演技は勿論望み難い。今年の演劇は恐らく時代の當然の反映としてあくまでエロとグロとを選ふのであらうか、實はかういふ時代にこそ、芝居はレアリズムに徹底せねばならぬのであつて名人小團次を生んだ時代に想到すれば、今こそ日本レアリズムの夜明けが來て居るのであるが猿之助が通俗小説專門になれば劇作家協會もまた通俗劇專門家になつて了ふ。それで居てアンチ猿之助もないものだ、既成劇作家に一人の人材なしと私は斷然豫言することが出來る。

俳優の群 その二

以上と同一のことが、俳優に對してもいふことが出來るのである。

猿之助の春秋座から、長十郎や左衛門の前進座が無謀な分裂を決行する數日前、私は荒次郎をも加へた彼等三人に、涙と共に次のやうな質問的忠告をしたのであつた。

（イ）君らは芝居で飯を食ふつもりか、君らの財源はどこにあるのか

（ロ）若しも芝居で食はねばならぬのなら、時機の來るまで猿之助と離れてはならぬ

（ハ）私は芝居で飯を食はねばならぬ君等と考へて話をするのであるが、志す處理に一步高きにあるならば、吾々は默して君等の行動を見るつもりだ。云々

長十郎代表して答へて曰く

およそ斯の如き内容であつた。

（イ）私共は思想（左傾）劇團として行動するつもりはない。あくまで營業劇團としての尖端を行けばよろしいと思つて居る

（ロ）（ハ）は從つてそれで解決せねばならぬ譯であつた。が、その時、私は云つた。（涙と共にといふ形容詞はこゝに生れるのである）

『營業劇團としては、君らは、やつて行けないだらう。何故ならスターバリュウのある俳優が揃ない。

そして又、脚本の點で君らは客を呼ぶことは出來ないであらう。何故なら君らは右を顧み左を顧みして、君ら自身の中から湧いて溢れる力を持つて居ない。

たとへ君らは駄目な者共にしても、時代の波に乘れば相當の力を發揮することが出來るのだが、時代の波は君らの考へて居るやうな處には寄せて來ないのだ。

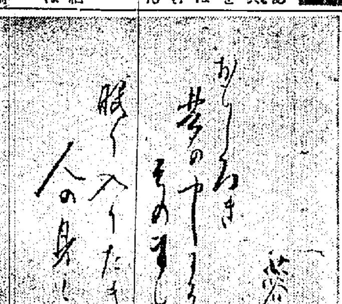
君らが生きる道は、芝居で食つて行く氣なら、封建的な門閥をまもつて時代の推移に從ふか、然らずんば食はない覺悟で正直に思想劇團としてたつより外はない（即ち生命の安全を圖りつゝ思想運動に從事するなどゝ云ふことは到底出來得ないのだ。右か左かだ）

不幸なる君達よ

明治年代においては、左團次が新劇運動を起しても、澤田が新國劇運動をはじめても、その純情やその熱情に對して常識以外には何ものもなかつたのだが……』云々

お正月のことだから、こんなことで許して頂きたい。

試筆　伊井蓉峰氏



▽——書き初め　中村鴈次郎

新しい生活感情

前田夕暮

私のすべてを消算して、朗かな新しい日の光を禮哭しよう

×

昨日に別れて、新しい日の光を滿身に浴びる此氣持を高らかに歌はう

×

新しく更に朗かに理解するもの、ぴちぴちとした生活感情を感じさせるもの

×

自分の裡のなかにわめくもの、新しい欲情を感じさせるもの！

×

自分の影を新しく描き出してくれる日の光が新年といふ概念をはつきりさせる

賀正

群山　更科　電話二四二番

群山府全州通り　渡邊雜貨店　電話二四六番

全羅北道穀物檢査所　横山要次郎

全羅北道道評議員　光富嘉八

群山府新興洞　小村寅造　電話三四八番

群山府議員　礒部謙哉　電話五二〇番

群山郵便局長　高取鐵造

群山刑務支所　親和會

群山新興洞　佐藤政次郎　電話一三三番

沃溝郡米面　宮崎農場　電話八二七番

沃溝郡瑞穗面　大倉農場　主任　原田彦四郎

全羅北道水產試驗場　近藤保太

同　水産會　中村二郎

湖南線地境　嶋谷農場　電話群山四二四番

群山府本町　大澤藤十郎　電話一〇〇二番

群山　梶太三郎

群山本町通二〇番地　群山細以商會　電話八五二番

道立群山醫院　職員一同

群山商工組合

全州地方法院群山出張所　職員一同

益山郡地內　酒造組合　森林組合　畜産組合　麵子組合

鳥致院驛前　益田材木店　電話一〇〇番

鳥致院　水曜會員一同

群山銀行團土曜會　朝鮮銀行支店　朝鮮殖産銀行支店　十八銀行支店　朝鮮商業銀行支店　第一銀行支店

沃溝郡開井面　熊本農場　場主　熊本利平　電話群山三六六番

鳥致院　鳥致院松園石油組合　電話十六番

鳥致院　道評議員　朴之赫

鳥致院穀商組合

鳥致院商工會

鳥致院　北一樓　電話一〇一番

鳥致院　重松旅館　明治館　丸屋旅館

鳥致院　大田電氣株式會社鳥致院支店　電話四八番

鳥致院驛前　朝鮮運送株式會社鳥致院出張所　電話二五・五八番

鳥致院驛前　朝鮮自動車運輸株式會社　電話二二番

鳥致院　白井素助　電話一四番

鳥致院　南北棉業株式會社繰綿工場　電話二二九番

鳥致院　高谷貞助商店　電話一五番

鳥致院　朝鮮物産株式會社　電話二八番

鳥致院　片山限太　電話三二番

鳥致院　小長政太

湖南線江景市町　林精米所　電話五七番

湖南線江景市町　朝鮮産業株式會社

湖南線江景大和町　吉村農具店

湖南線江景　原田茂武

坡州郡　酒造組合　坡州郡守　金振政　坡州署長　井上己吉　臨務主任　春田萬吉　財務主任　井上悦二　汶山公普校長　竹中彥一　汶山金組理事　成島秀吉　汶山郵便所長　青山安三郎　金村金組理事　柳準熙　力武惠吉　朴銀峰　金村驛所長　野村節男　汶山小學校長　松本鶴一　登記所主任　伊藤强哉　臨津水利組合　職員一同　坡州公普　李鐏九　汶山驛長　山本到　金村驛長　張鳳儀　坡州郡廳　小林愼治　坡州公普校長　久保田吉光　積城公普校長　仲野俊平　金村公普校長　中山義作　汶山公普校　李眞秀　金奎泰　李贊植　金永燮　朴贊明　佐伯正　李命求　權寧僖　志田尹子　三井合社汶山出張所　有明春吉　汶山穀物檢査所　李鍾林　銀祺次　汶山國有假操部　趙泰龍　州內面長　李錫胤　泉峴面長　閔載賢　廣灘面長　河榮一　條田面長　宋秉德　瓦石面長　尹陽秀　月籠面長　黃義道　積城面長　禹鍾濬

長項穀物商組合

群山府錦町　朝鮮運送株式會社群山支店　支店長　森木岩之助

群山　土木建築同業組合

群山稅關支署　職員親和會

群山警察署　職員一同

群山本町　不二興業株式會社　群山地所部

朝鮮米穀倉庫株式會社　群山支店　電話三六六番

群山新興洞　赤松醬油釀造所　赤松繁夫　電話五〇番

沃溝郡廳　職員一同

群山全面　合資會社鶴屋本店　代表者　工藤鶴松

群山府大和町　神林藥店　電話一四二・五五番

群山料理屋組合　花月　新月　大よし　一力　富士　二亭　鎌倉　鶴家

群山府廳　職員一同

群山遊廓組合

群山本町　米穀商　田中龜次郎商店　電話五二二・五四番

群山府曙町　大倉米吉　大倉光太郎　電話二六〇番

群山米穀輸出商組合

群山府本町　群山信託株式會社　電話六五五・四三〇番

群山木曜會　南朝鮮電氣株式會社　群山信託株式會社　中柴商事株式會社　群山無盡株式會社　群山與農株式會社

舒川郡　舒川官民有志一同

兵賊

櫻井忠溫

1

「錦州の方から便りがあつたか」
「まだ何とも申して來ません」
「或はもう動いてゐるかも知れんぞ」
「さうです。何してもけふあすに様子がわかりませう」
「日本軍はチチハルに殺到する。さうなれば、張學良も南滿の手薄に乘じて出動するに極つてゐる。我等の儲け時がきたぞ」
「さうです。一つ新民屯あたりで打つてやりませう」
「何にしても栗からのたよりを待たなくちや」
「さうですよ。今に何とかいつてきませう」

かうした話をしてゐるのは、新民屯の北に巣を構へてゐる兵匪賊の頭目とその一人の乾兒です。

この兵匪は三千人ばかりのもので、このごろまで奉天にゐた歴とした兵隊なのです。日本軍にやつつけられてから、日本軍を向ふに廻して戰さをしても、結局やつつけられるだけのことで、これといふ旨い仕事があるわけのものでないと思つたか、このごろでは纏つた方面で大バクチを打たうと考へてゐるのでした

頭目を青芳といひます。

青の考へてゐることは、大たい察しがつくものです。日本軍に追ひまくられてゐるばかりではつまらぬと、新奉天政府の武力のないのにつけ込んで一芝居打たうといふ腹です。「錦州からのたよりはないか」といつてゐるのは、兵隊「栗の混成軍でござるが一つ、お傭ひ下さるまいか」といふわけにも行かぬので、錦州軍として乘込まうといふことになり、その方へ手を廻はしてゐるのです。

栗といふ營長が出ましたが、それは栗銘のことです。栗銘は旧北軍副營長ですが、北大營事件以降奉天をのがれて、北平の張學良のもとへ來てゐたのです

北大營の騒動をよそにして逃げ出したといふので、學良から大へんな御勘氣を蒙むりました

尤も學良の家族をお土産に奉天から連れて行つたのですが、「それはあたりまへのことだ」と大してお褒めにも預かりませんでした

栗は毎日順承王府の學良のもとへつめてゐたのですが、うはべはどうもないやうなものゝ、何となく氣まづい日をすごしてゐるのでした。

栗は學良に弓を引かうといふ考へは持つてゐないのでした。何とされても、お氣に入るやうにとつとめてゐるのでした。しかし、することなすことが、學良のお氣に召さないやうに思へるのでした。

三樹儀はこのごろ御殿へあまり顔を見せないので、テッキリ胸に一物あるなと、栗は睨んでゐるのでした。

栗は王にむほん心があると見ぬいて王に取り入つて、王の陰謀をすつぱ抜き、學良のおほめに預からうと考へてゐたのでした。

ところが王もさるもので、學良に栗のあることないことを告げ口するので、ともすると、栗はむほん人の扱ひにされるのでした。

王についても學良の胸には一つのしこりとなつてゐるのですけれども、栗よりは信用を得てゐるのでした。

それから間もなく栗は錦州へ移りました。

2

「頭！台安の敗賊が、ドッサリ入つて來ましたぜ」
「何！台安の奴等が？そいつあ豪氣だ。何しろ今はひとりでも多い方がいゝのだからね」
「日軍にサン〲な目にあつたといつてゐます」
「さうだらう。今ぢや日軍を相手にしても、ウダツは上がらん。やはりわしの見込みどほりだ。——時に栗の方はどうなんだ。來なけりや來ないで、こちらにツモリがあらうといふものだ」
「打虎山から來たもの〻知らせによると、栗は今に五萬からの軍隊を率ゐて來るといふことです。しかし、それにはチヤント新政府の了解が立派についてゐなけりやいかん、さもなくは軍隊を動かしたどけで、日軍からやつつけられては、どうにもならん。栗銘といへば日軍が目を皿のやうにして捜し廻つてゐる男だから、そこはうかうか出られまいといふ話でしたよ」
「頭、そりや尤もな話ぢやありませんかね」
「さうだ。しかし、わし等を新政府へ還ることがきまつたかどうかといふことなのだ。極まつてゐりやそれでいいのだが、與間々々してゐると、日軍から追つ拂はれるからね。そいつがつまらんと思ふのさ。いよ〱話がまとまらぬとなれば、日軍の方へ突つかゝつて行きでもするより仕方がないわけだ」
「それもそうですね。何しろ何とかならなくちや、同志にでも知れるところも厄介ですからね」
「全くだ。そこはうまく手前でやらんといかんぞ」

馬賊の兩頭目青と乾兒の會談です。栗の態度が煮え切らないらしいので、馬賊共も一寸去就に迷ふ形です。新政府へ身賣りの相談がまとまらなければ、錦州を荒すか、まかり間違へば錦州軍の北上の頭へブッつかつてもいゝとそこはその日の風次第といつた圖柄です。便衣隊に鞍替へをして學良からたんまりお褒美に預かつてもいゝのです。

青は眼をタリ〱しながら、どこからでも早く様子を知りたいものと思ひました。

青はことし二十三です。熱河で育つた男ですが、親は馬賊で、五千からの頭目として巾を利かしてゐた男です。そして青はその一粒種です。

先代は通遼の方で殺され、今はこの青が新民屯に巣を構へて、先代からの乾兒と※敗兵とに侍づかれてゐるのです。

眼のすゞしい、色白の唇の色の濃脂のやうに赤い若者です。

馬賊もこのごろは思ばしい實入りのないところへ、こんどの事變です。この時こそ、儲けなくちやといふので、どこからとなく敗兵共や馬賊が「頭々」と集まつて來て今は千からの新入生が出來ました。日本軍をまぜかへして置けば學良からご褒美が出ないにしても何等かの商賣にはなると、いふ見さかいなしに荒しまくつてゐるのです。支那軍のにげたあとへもぐれ込んで一かどの仕事もしてゐるのです。

かういつた手合が、そこここに出來ました。營口には三勝と名乘る男の率ゆる二千、海城の東に在六百、白安、遼中附近に老北風の二千、法庫縣の東に天樂の千五百、昌圖に老三省の三千、鄭家屯の南に江楽の千五百、通遼に天下狩の三千、四平街の東に全勝の六百、といつた有様です。

3

青は寺からでもかつ拂つて來たやうな大きなうでで椅子に凭れながら、けむりを吹かしてゐます。

そばにきれいな女性が赤い腰椅子にねそべつてゐます。

それが青夫人！姐御なのです。十七八でせう。キラ〱と銀の簪が白い丸顔の上に艶に搖れてゐます。

青がかつ拂つて來たのではありません。親が青にあてがつてくれたのです。

若い姐御のいふことは、青の命令よりも以上に、鶏つ昇や、ヒヨットコや、西園やの乾兒共からあがめ奉られてゐるのでした。

「逢！」
かういつたのは姐御です。
「ハ」
よりくと起き上つて來たのは赤鼻の乾兒です。
「台安から來た連中は何をしてるかい」
「きのふから、數兵をやらしてるますが、なか〱仕込みが出來てゐるやうです」
「さうかい。向ふから持つて來た大砲は使へるのかい」
「けふも打つてみましたが立派に打てます」
「何門だつたかね」
「七門でございます」
「機關銃は？」
「二十挺でございます。これがまたすばらしいものです。ほかに雷砲を二門持つて來ました。これで大ぶんの勢力になりました」
「たべものは十分あるかい」
「ありますとも、けふも打通線で一貨車押へましたので、當分大丈夫でございます」
「そりやいゝ圖柄だ」

姐御は寝そべつたまゝ、逢とこんな會話を交へました。青は何ともいはないで默つて寶をくゆらしてゐました。

台安から逃げこんで來た馬賊共が大砲や機關銃の土産がなかつたら、安々と組の中へ入れなかつたかも知れません。

遼河の下流では大ぶん日本軍にやられたといふ報せが傳はつて來てゐました。營口あたりでも仲間が全滅に逢つたやうなことも聞きました。

今青の耳に入つてゐる錦州軍の情況は、大凌河の西に堅固な陣地が出來てゐるといふこと——失敗した時の最後の抵抗線でせう。錦州軍の總兵力は二萬といふことゝし關内にある學良軍十一萬は別にして。

學良は關内を出るのか出ないのかもわからず、下野するのしないのといふ噂で、北平はワン〱いつて、ゐるといふこと。

蔣介石さへあきらめをつけてゐるといふ話であること。

かういつたやうなことが青の耳へ入つて來るのでした。

新政府の兵隊となることが、一番見込がありさうになつて來ましたが、さて栗からはそのご何のたよりもありません。

栗へ使ひした乾兒の歸つての話では萬事妙々とあつたのですが、よもや間違ひないと思つてゐても、その栗がどうなつたやら、それもわからなくなりました。

「錦州からの使者がまゐりました」
一人の乾兒がかういつて青の前へ現はれました。
「何！錦州の使者？」
青も、姐御も立上りました。

4

「栗はいよ〱錦州軍を提げて北上することになりましたについては、明後日を以てこの地を引拂ひ奉天に前進するやうとの命令であります。」
「何！明後日？」
「さうです」
「それぢや、何か、栗が總師といふわけぢやな」
「さうです奉天へ入るまでには一團となるといふ豫定であります」
「それは間違ひなからうな」
「キツトです」
「奉天との了解はついてゐるのか」
「そこは聞いて居りません」
「そこが大事ぢやないか。もし間違へば日軍と衝突しなければならぬぞ」
「さうですな」
「怪しい顔をしやがるぞ。けふも聞けば、日軍に奉天の西に陣地を布いたといふことぢやぞ」
「さうですかな」
「たよりない使者ぢや。して栗は外に何ともいはなかつたか」
「何もいひません。それだけのことです」
「それだけのことなら電報でもわかるぢやないか」
「よく、兵器などの情況をみて、電報しろといふことでしたので」
「何！兵器をて、こりや可笑しいことをいふぞ」
「戰備の工合を見ろといふ吩咐でしたので」

青夫人がツツと進み出たと思ふと、使者の目の前にすり寄るやうにして、かういひました。青い眉を立てながら。

「いゝ加減におちやらしちやないよ。こちらで瀬踏みをして、うまく行けばよし、まかり違へば、こちらを打つて、數の空氣を見やうといふのだらう。はばかり乍らその手は食はんよ。明後日こちらがたつてどうするのかい。栗に出る腹があるなら飛行機に乘つてすぐこゝへ來いとお言ひ」
「ハイ」
「ハイぢやないよ。栗の奴、こちらを食ひものにしやうといふのだな」
「さうではありません」
「ありませんとお前がいひ切れるかい」
「……」
「栗は日軍から睨まれてゐる人間なのだ。それが今張學良に寝返りを打つて、それで許されるものぢやないのぢやよ。キッパリ新政府との間に手が離れてゐるといふ證據を見せない限り、うか〱乘れると思ふの？こちらの戰備なんかと、ちやんちやら可笑しいよ。戰備によつては、こちらを討つて、日軍への申わけをしやうといふのだらう」
「そんなことは」
「何をふざけたことをいふのかい——あなた！こいつを斬つておしまひなさい」

姐御は青をふりかへつてかういひました。使者はガタ〱ものです。

「そ、そりやひどいです。私は栗の使に來ただけです」
「お前は栗の密偵だ」
「そ、そんなことはありません」

青は默つて聞いてゐましたが、不意に刀を拔いて、スパッと使者の頭から冠せました。

血が噴水のやうに頭の上から吹き出ました。

夫人の着物にその血がしぶきました。夫人は驚きもせず、血をふるい〱うしろへ下がりました。

使者の屍體は土間の上にうつ伏せになり、鑑の口から出るやうに血がドクドクと切り口から流れました。

青は乾兒共にかみつけるやうに喚びました。

「よし、栗を討つぞ。すぐに出發の用意をしろ！血祭りに營長をやつゝけろ！奴は栗の手先だ」

薩南巡遊之句

河東碧梧桐

枚聞神社
正月べ寢そべる神職あたりをな餅島の森

池田湖邊
開聞岳頭もたげ左かしぎの餅なが冠雪る

指宿溫泉
混浴は湯縁ばなしの避寒の響きずやをかし

同
炭馬尾を埋ると陰部を雪明りこな

金峰所見
饅土臥角はふる雪の馬夫のうさはらし聽ゆ

初鶏と猿曳

臼田亞浪

初鶏や今日となる雪原の月
◇
初鶏が啼くこと曉をさむがりぬ
◇
初鶏や涯みしらむ既竹の窓
◇
舞猿の人を見る目ぞいとけなき
◇
雪風や猿曳き猿をかい抱き

◇—飛行機遊び—

茂平次兇狀【90】

行友李風 作　濱井耕達 畫

玉の緒橋（九）

燃えさかる篝の焚火に照されて人々いづれも怪奇の目を睜り息を凝して耳を欹てます。

獵人は俯ぬ言葉を添ぎ、

——獲物の方は諦めるにしても犬の安否が氣遣はれる、ソコで喜作が一聲、二聲、いつもの合圖の口笛を鋭く吹き出でると、忽ちにして何處からともなく、轉がる樣〱驅け戻つた熊犬は、日頃の元氣も強味もなく、首を縮めて尻尾を垂れさも〱怯れ切つたといふ風に碑らしく足許へ纏はりつく

よく〱怯れ戰いてゐるらしい

「熊、熊、どうした此奴？」

舌を吐いて喘ぎながらも

うゝゝ、うつ、うつ！

前脚を揃へて身體を引き、咽喉聲、何物かを目掛けて必死に飛掛らうとする構へ、その癖、少しも鋭い氣勢が現はれない。

時に、揺めく焔の彼方から、薄ボンヤリと滲み出る、影坊子に似た人間の姿、喜作は胸がドキッとした。

「オイ、オイ、お前は何者だ？」

而も唐突に呼びかける、物柔かた男の聲、それが却つて此方は余計に氣味が悪い。

「俺ア、獵人だよ！」

ヤット返辭はした物の、頭も容も飛けて些とも見解がつきません

「オゝ山獵師か、異な事を訊ねるが、これから箱根の紺屋地獄とやらへはどう參る、イヤどの道を往つたが近いか敎へて貰ひたいな？」
「ヘエー地獄めぐりかね？」
「夜道に迷ふて甚だ難儀いたすもの」
「然うしてお前樣、一體何處から今頃に、こんな所へ來なすつた？」

スルと俄に言葉が變つた。

「左樣な事はどうでも宜いわ！」
「ヘイ、ダッテこの怖ろしい路の夜に、人間の通る道でもねエ所を」
「默れ、人間凡夫には通れずとも我等には差支へない。大雄山最乘寺、道了權現の奥の院から參つたもの！」
「ヘッ！」

喜作は餌籠を投げ出すと、ピッタリ草の上へ座つてしまつた。道了權現の傍に驚かされ、正しく狗賓の一族と思つたからで、主人が意久地なく平太張つてしまふと、犬までブル〱慄へ出す。

「紺屋地獄の近道はどうぢや？」
「申します、へ、申します」
「早く〱？」

急き立てられて小地獄から、鍛冶屋地獄、酒屋の地獄、紺屋地獄への可成り危い險阻な抜道を、半ば夢中に、生きた心地もなく物語ると、

「よく敎へくれた、ダが、我等に唯今斯様なところでゆき遇たといふことは、必ず他言相成らぬゾ？」

暫く口止めをして消ゆるともなく見る見る霧に隠れてしまうて、

「ホ、ホ、……！」

と谺にひゞく子供のやうな笑ひ聲。

怯氣づいた喜作は總身が慄として、これから須臾、人も犬も、身動きだにせず居縮んでしまつた。

「俺ア生れて此歳まで、輕んだ怖ね目にも遭つて來ただが今度ッ位、膽を潰した事アねえだでのう思ひ出しても身の毛が慄立つたよ」
「ハーテね、ちやアそれやア怪物ぢやアね、道了樣の御眷族だぞよ？」
「其奴が往つてしまうと間もなく、路がダン〱霽れて來た、どう考へても不思議でなんねえだ」
「ウム〱、お山の御族樣ア灼かだから、それで畜生が尾を卷いたゞよ、違えねエ、狗賓樣だ！」

路の夜の怪異は譯もなく、土地の人達によつて天狗の所爲と極つてしまつたが、獨りひそかに顔見合せて首肯き合つたは、隱居と紫の兩人でありました。

「フーム、それは近頃奇妙な話だが、その天狗とやらはどんな姿をいたしをつたの？」
「髭張り解らねえ、唯、ボーッとしてゐやした」
「女の子供を連れてゐて、モシヤその子供が笑ひ出したのではなからうか？」
「どうも、天狗様のなすつた事ア人間にやア何とも考へがつきませんからねえ？」
「その時一發、鐵砲を盛配して見れば宜かつたに」

[illegible]をして居るしおる。

慶北 醴泉官公吏一同

慶北 尙州土曜倶樂部

慶尙北道 清道郡官公吏一同

永川官公職員一同

慶北 盈德土曜會

大邱府七星町 朝鮮麴子製造株式會社 社長 伊藤吉三郎 專務 尾野房太郎

慶尙北道金融組合聯合會

賀正

大邱府醫師會

朝鐵自動車 大邱出張所

大邱産業金融株式會社

慶尙北道々農會 同畜産組合聯合會 同森林組合聯合會

大邱專賣支局

大邱府廳職員一同

慶尙北道 食堂會員一同

大邱金曜會

片倉製絲紡績株式會社 大邱製絲所
朝鮮製絲株式會社
山十製絲株式會社 大邱製絲所

大興電氣株式會社

會員組織 大邱米穀取引所

山十大邱製絲所 所長 神澤紫樓 事務長 小口正一 外職員一同

大邱府大和町 穀物商 芳德商會

慶尙北道金泉 金曜會